α-7 DIGITAL

J 使用説明書

お買い上げありがとうございます。
この製品は、従来からの豊富なミノルタαシリーズ用交換レンズとアクセサリーが利用できるデジタル一眼レフカメラです。世界3大カメラタイトルを受賞したフィルムAF一眼レフカメラ「α-7」の操作性に、弊社デジタルカメラDiMAGE（ディマージュ）シリーズで高い評価をいただいている、独自のCCDシフト方式によるボディ内蔵手ぶれ補正機能を搭載。加えて独自の画像処理技術などにより、本格的な作品作りを目指す方にも満足してお使いいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

カラーモード 詳しくはP.100をご覧ください。

ナチュラル＋（sRGB）

ナチュラルは被写体の持つ自然な質感を重視し、人物その他に適しています。一方ナチュラル＋（ナチュラルプラス）では、ナチュラルよりも締まりのある、質感と透明感のある画像が得られます。風景やマクロ撮影に適しています。

ナチュラル＋（sRGB）

ナチュラル（sRGB）

ゾーン切り替え 詳しくはP.143をご覧ください。

高輝度域あるいは低輝度域の多い被写体で、白とびや黒つぶれをやわらげることができます。

ゾーン切り替え（HIGH）で撮影

通常撮影

目次

準備と基本撮影 18

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

各機能の説明（撮影） 37

露出モードやドライブモードの変更、露出・コントラスト補正など、さまざまな撮影方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

各機能の説明（撮影、続き）

各機能の説明（再生） 82

再生時の機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

メニュー機能 90

メニューボタンで設定する項目について説明しています。必要に応じてお読みください。

メニュー機能（続き）

パソコンへの接続 ... 157

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

その他 ... 185

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

 危険　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 警告　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

充電式リチウムイオン電池 NP-400 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のACコードは、100〜120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

⚠ 警告

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して、特に取り外したレンズのみで太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。弊社αデジタルホットラインにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

カメラ・充電器・電池について（続き）

直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

目の周りにかゆみや炎症が起こった場合は、使用を止め、医師にご相談ください。
アイピースカップに長時間触れていると、かゆみや炎症の原因となることがあります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器やＡＣアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

充電器やACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録（オンライン登録）をお済ませください。ユーザー登録は、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）のユーザー登録のページで行なうことができます。

- このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正のリチウムイオン電池をお使いください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されている内容物は以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（α-7 DIGITAL）
ボディキャップBDC-1000、アクセサリーシューキャップSC-1000、アイピースカップEC-1400付き
ワイドストラップ WS-4
アイピースキャップII、リモートコードクリップ付き
充電式リチウムイオン電池 NP-400
リチウムイオン電池充電器 BC-400
ACコードAPC-170付き
ビデオケーブル VC-500
USBケーブル USB-2
液晶モニター保護パネルMPP-1000
ディマージュ ビューアー CD-ROM
- **DiMAGE Viewer**
- **Windows98/98SE用USBドライバ**

本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
コニカミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

- 本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ背面

CCD面位置表示（33）
視度調整ダイヤル（79）
ドライブモードレバー（62）
1コマ撮影
連続撮影（62）
ブラケット撮影（64）
セルフタイマー（63）
オートロック
アクセサリーシュー（191）
露出モードダイヤル
ロック解除ボタン（52〜56）
ファインダー（15）
露出モードダイヤル（52）
メインスイッチ
（27）
ホワイトバランス設定ボタン（66〜69）
ホワイトバランスモードレバー（66）
AWB　オートホワイトバランス
PWB　プリセットホワイトバランス（66）
カスタムホワイトバランス（68）
K　色温度設定（69）
AF/MFコントロールボタン（49, 133）
ストラップ取り付け部（19）
後ダイヤル
測光モードレバー（60）
14分割ハニカムパターン測光（60）
中央重点的平均測光（61）
スポット測光（61）
USB／ビデオ出力端子（89、159）
カードスロットふた（25）
アイセンサー
（141）
液晶モニター（16, 17）
AEロックボタン（70, 73, 134）
スポットAF（44, 45）／実行ボタン
AFワイド/ローカル切り替えレバー（44）
ローカルフォーカスフレーム（45）
LOCK　フォーカスフレームロック（46）
ワイドフォーカスフレーム（44）
ダイレクトフォーカスフレーム
セレクター（44, 45）／十字キー
手ぶれ補正スイッチ（74）
アクセスランプ（26）

ボディ背面（液晶モニター周辺）

ファインダー

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

液晶モニター（撮影情報画面）

露出モード（52）

絞り値

登録番号（77〜79）

シャッター速度

測光インジケーター（57, 65, 70）
- 露出補正（40）
- 調光補正（41）
- メータードマニュアル（57）

フラッシュモード（104）

画像パラメーター（102）
- コントラスト（102）
- COL 彩度（103）
- シャープネス（103）
- 色合い（103）

カラーモード（100）

画像サイズ（97）

画質（98）

測光モード（60）

撮像感度（72）

フォーカスフレーム（44）

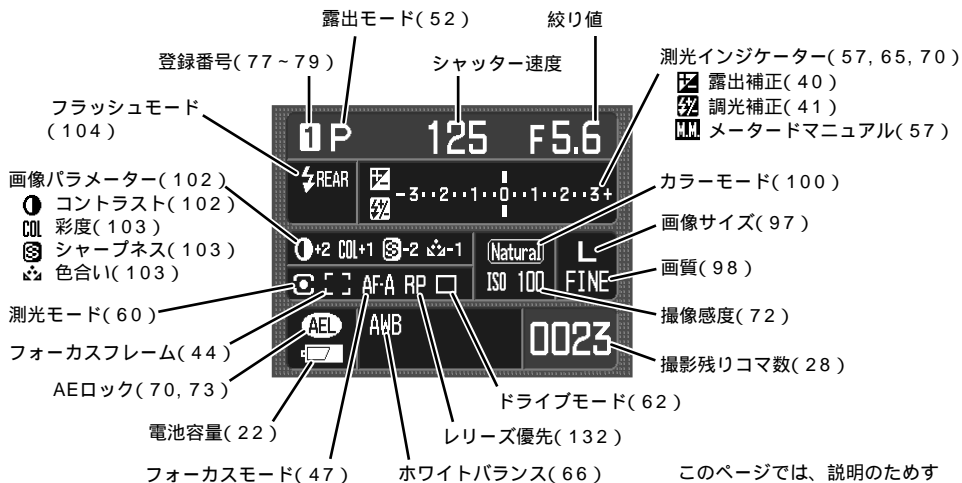
撮影残りコマ数（28）

AEロック（70, 73）

ドライブモード（62）

電池容量（22）

レリーズ優先（132）

フォーカスモード（47）

ホワイトバランス（66）

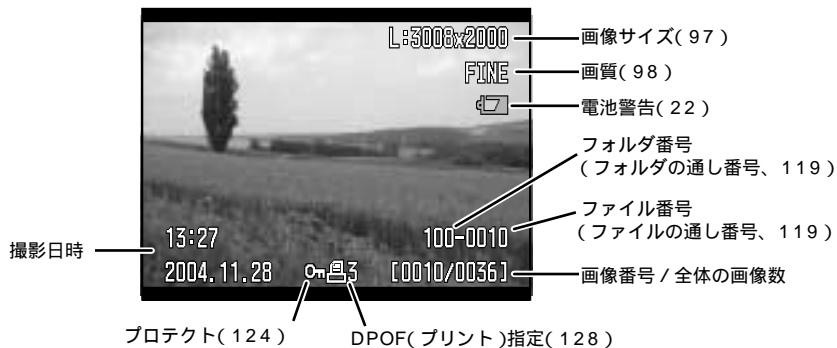
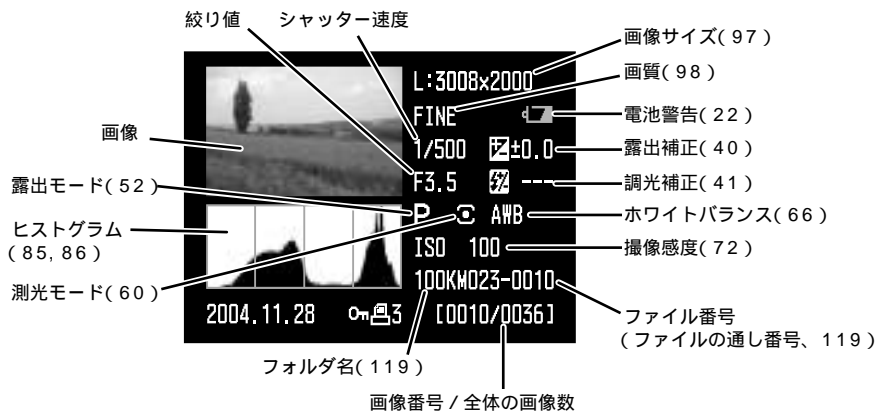
※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

操作ガイド

液晶モニター下部に、次に行なう操作が表示されることがあります。

- 十字キー左右
- 十字キー上下
- 十字キー上下左右
- 十字キー中央の実行ボタン
- 前ダイヤル
- 後ダイヤル
- 前後ダイヤル
- MENU メニューボタンで元に戻る

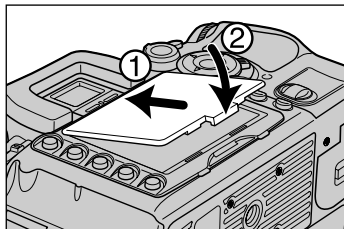
例（左図の場合）
前ダイヤルで絵表示（プリセットホワイトバランス）を選択し、後ダイヤルで数値の調整を行なう。十字キー中央の実行ボタンを押せば操作が完了する。

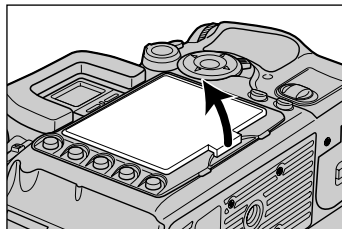
液晶モニター（1コマ再生）

液晶モニター（ヒストグラム再生）

準備と基本撮影

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

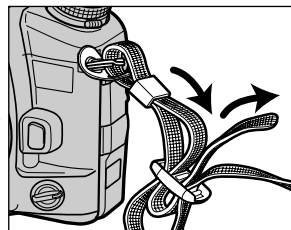
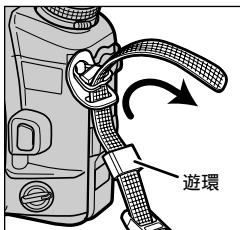
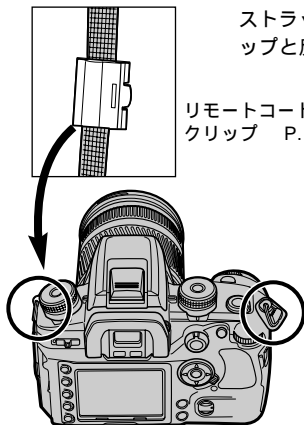
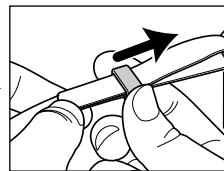
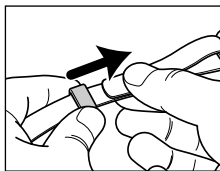
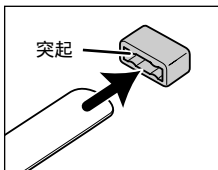
液晶モニター保護パネル

液晶モニターの保護のため、液晶モニター保護パネルを取り付けてお使いください。

取り付け方法

保護パネルの上部をカメラの液晶モニター上部に差し込み①、次に下側をはめ込んで②、全体をしっかり押さえます。

取り外し方法

保護パネルの下部から先に外します。

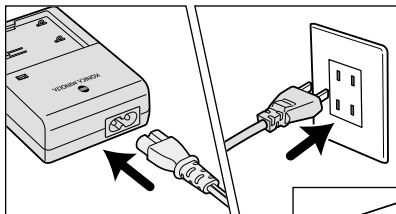
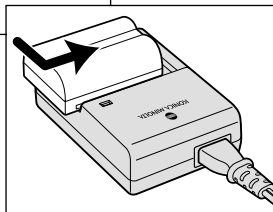
ストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。リモートコードクリップのある方をグリップと反対側にして、ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

ストラップを遊環に通す際、固くて通しにくい場合は、以下の通り、ストラップの先端部分を指で固定して、ストラップでなく遊環を移動させるとスムーズに通ります。

遊環がストラップから外れてしまった場合は、突起部のある方から先に通してください。

電池を入れる

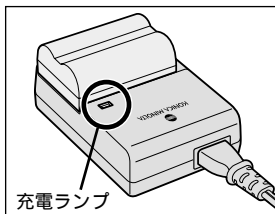
このカメラには、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-400）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 充電器に付属のコードは日本国内用です。海外でのご使用については →P.190

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約150分です。

充電ランプ

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

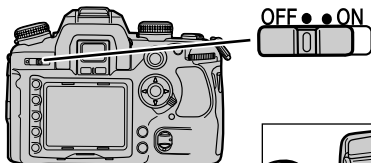
● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

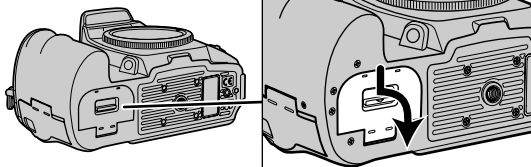
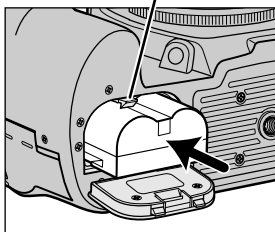
● 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

● 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。

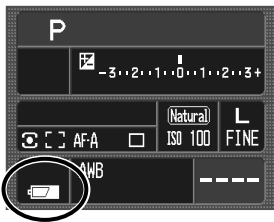
● 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。
リサイクル協力店お問い合わせ先
社団法人 電池工業会
TEL：03-3434-0261
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.baj.or.jp/

● 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
● 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池を入れる

1. カメラ背面のメインスイッチがOFFになっているのを確認します。

2. カメラ底面の電池室ふたのレバーを図の方向に押します。
● ふたが開きます。

3. 電池室ふた内側の表示にしたがって電池を入れます。
● 電池室内のロックレバーが、しっかり電池をロックするまで押し込んでください。

4. ふたを閉めます。

電池容量の確認

メインスイッチを入れると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

（白）　電池容量は十分です。

（白）　新しい電池の準備をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

（赤）　電池の交換をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

「電池がなくなりました」　新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターをおすすめします。→P.189

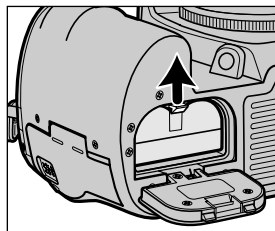
パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

このカメラは、約5秒以上何も操作をしないでいると、液晶モニターの撮影情報画面が消えます。また約3分以上操作をしないでいると、省電力設定になり、ほぼ電源OFFに近い状態になります（パワーセーブ）。シャッターボタンを半押しなど何かカメラを操作すれば、撮影が再開できます。

● 上記の時間（初期設定は5秒／3分）は変更することもできます。→P.153

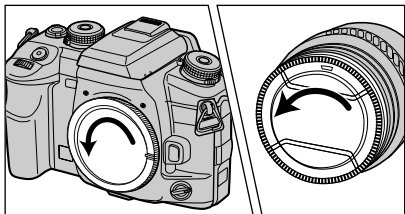
電池を取り出す

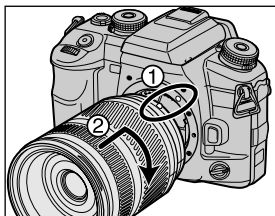
1. カメラの電源が切れているのを確認し、電池室を開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押して、電池を取り出します。

電池の追加購入

このカメラの専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-400）を追加で購入される場合は、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービス窓口、コニカミノルタネットショップ（弊社ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/ よりアクセス可能）、お買い求めの販売店のいずれかでご購入ください。

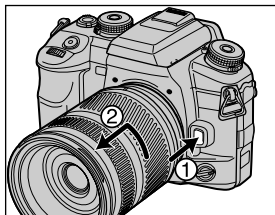
レンズを取り付ける／取り外す

レンズを取り付ける

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

- カメラの内部にホコリや水滴が入らないよう、また内部に触れたり傷つけたりしないように気を付けてください。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、レンズを軽くカメラに押し付けながら、カチッと音がするまで時計方向にゆっくり回します②。

- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

- レンズに無理な力を加えないでください。
- フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

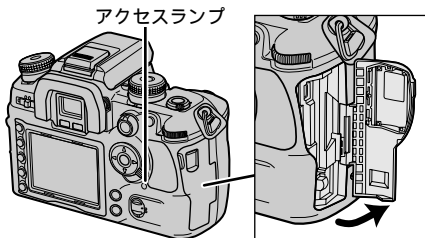
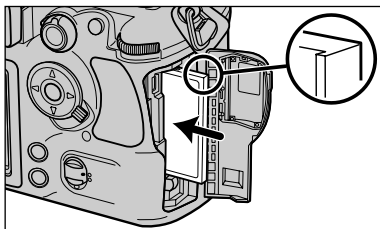
- 取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

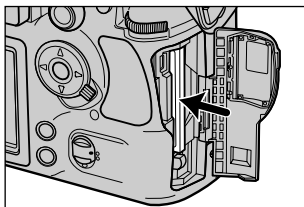
レンズ交換の際に、カメラ内にホコリが入らないように！

カメラ内にゴミやホコリが入ってCCD表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやホコリが画像に写り込むことがあります。弊社の品質基準においてはゴミやホコリは厳重に対策を行なっておりますが、レンズの取り付け／取り外しを行なう際に紛れ込むことがありますので、ホコリの多い場所でのレンズ交換は避けるようにしてください。またカメラを保管する際には、必ずレンズまたはボディキャップを取り付けてください。ボディキャップを取り付ける際も、先にキャップのホコリを落としてからカメラに取り付けてください。
万一ゴミやホコリが入ってしまった場合は、セットアップメニューでクリーニングモード設定後、カメラ内部の清掃を行なってください（P.155）。それでも取れない場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にご依頼ください。

カードを入れる／取り出す

カードを入れる

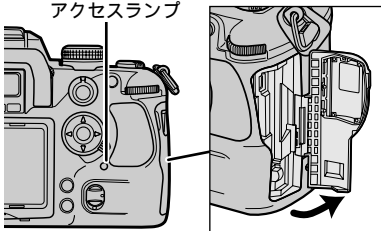
画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2. CFカードの細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

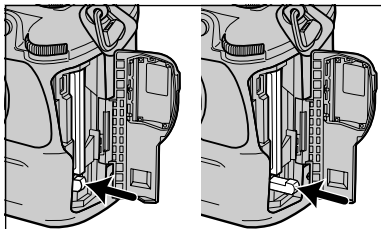
- 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3. カードを奥までしっかり押し込みます。

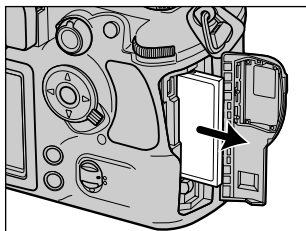
4. ふたを閉めます。

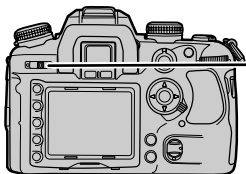
- CFカードの互換性については、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から「互換性情報」をご覧ください。
- CFカードの代わりに、マイクロドライブや、SDメモリーカード＋SD-CFアダプターの使用も可能です。

※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません」のメッセージが現れる場合は →P.198

カードを取り出す

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

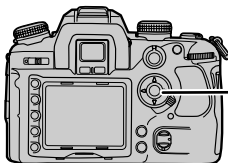
アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを中に押し込みます。
- レバーが出てきます。

3. 再度カード取り出しレバーを押し込みます。
- カードが出てきます。

4. カードを取り出し、ふたを閉めます。
- レバーが出ていてきっちり閉まらない場合は、レバーを押し込んでからふたを閉めてください。
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

電源（メインスイッチ）を入れる

電源を入れて、カメラを撮影モードにします。

メインスイッチをONの方向にスライドさせて、電源を入れます。

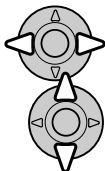
日時の設定

ご購入後初めて使用されるときや、長時間電池を抜いたままにした後は、右のメッセージが現れます。以下の要領で日時を設定してください。

1. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 後で設定する場合は、十字キーの右で［いいえ］を選んでから実行ボタンを押してください。

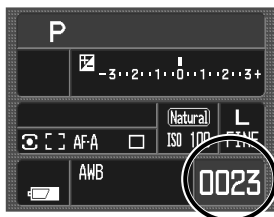
2. 十字キーの左右で修正したい項目を選びます。

3. 十字キーの上下で数値を変更します。

4. 必要なだけ2、3の操作を繰り返します。
- 「年/月/日」は年月日の並び順を表します。

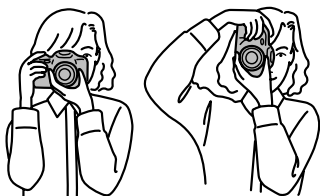
5. 修正が終わったら、十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 時計がスタートします。

- 途中でメニューボタンを押すと、日時設定はキャンセルされます。

※いったん［いいえ］を選んで後で修正する場合は →P.149

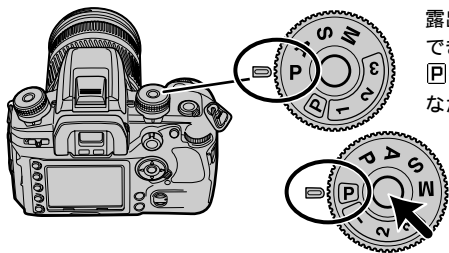
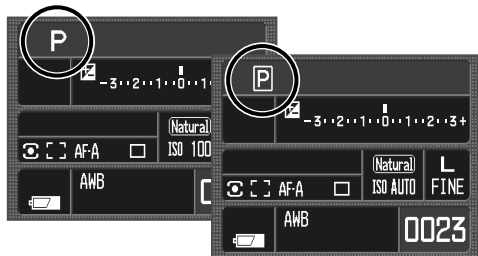
撮影できるコマ数

CFカードを入れてメインスイッチをONにすると、液晶モニターに、撮影残りコマ数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

- 1枚のCFカードに記録できるコマ数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として256MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できるコマ数は約81枚です（画像サイズL:3008×2000、画質ファイン）。 ※詳細は →P.100
- 0000が赤く点滅したときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。
- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。
- 旅行など撮影枚数の多い場合は、予備のカードを用意されることをおすすめします。

ファインダーには、連続して撮影できる最大コマ数（＝カメラの内蔵メモリに保存できる枚数）が表示されます。10コマ以上の場合でも、表示される最大コマ数は8～9コマです。続けて撮影して数が減っても、撮影データのカードへの保存が終了すれば、コマ数は元に戻ります。

カメラを構える

カメラが動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。手ぶれ補正機能をONにして使われることをおすすめします。→P.74

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠レンズで撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ補正スイッチをOFFにして、三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。
- 別売りの縦位置コントロールグリップVC-7Dを使用すると、縦位置でも横位置とほとんど変わらない操作性を保つことができます。

Ｐモードとフルオートプログラム🄿について

露出モードダイヤルで、基本的な撮影モードを選ぶことができます。カメラを基本の状態で使いたい場合、Ｐまたは🄿位置をおすすめします。中央のロック解除ボタンを押しながらダイヤルを回してください。

Ｐ：Ｐ（プログラム）モード撮影
このカメラの最も基本的なモードです。一度行なった設定は原則として再度変更するまで保持されます。Ｐモードでは、シャッター速度と絞り値が自動で設定されます。**→P.52**

🄿：フルオートプログラム撮影
カメラの主な機能が、一時的に自動設定になります。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。🄿位置で新たな設定を加えることも可能です。

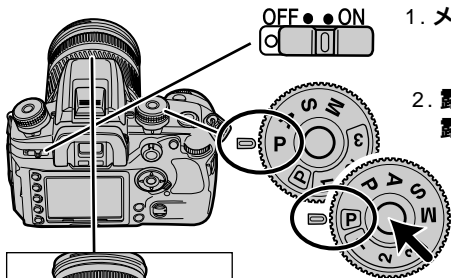
● フルオートプログラム撮影で一時的に自動設定に戻る項目は以下の通りです。　※一覧表は →P.186

◆ダイヤルやレバーでの設定
露出補正、調光補正、フォーカスフレーム、フォーカスモード、測光モード、ドライブモード、ホワイトバランス、撮像感度

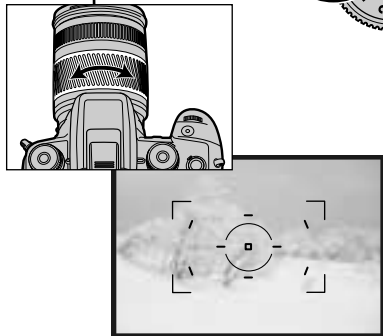
◆撮影メニュー
画像サイズ、画質、カラーモード、画像パラメーター、フラッシュモード、調光モード、定常光／フラッシュブラケット設定、ノイズリダクション

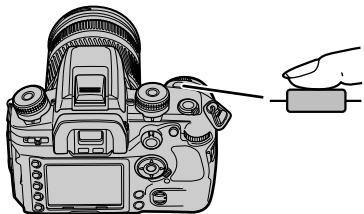
● フルオートプログラム撮影では、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しない場合があります。レバーの位置ではなく、液晶モニターの情報を元に撮影を行なってください。

撮影する

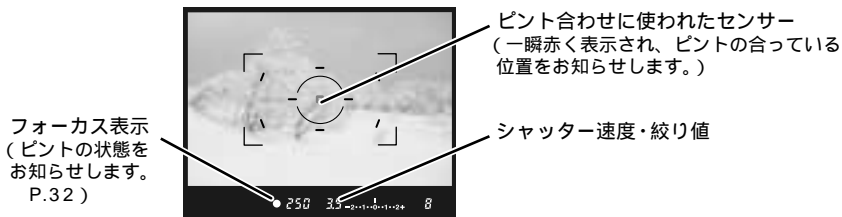
ここでは、最も基本的な全自動撮影について説明しています。

1. メインスイッチをONにして電源を入れます。

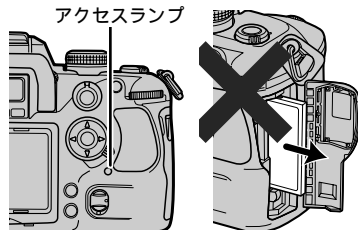
2. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをPまたは🄿に合わせます。

※Pと🄿について →P.29

3. ファインダーをのぞき、ズームレンズの場合はズームリングを回して構図を決めます。

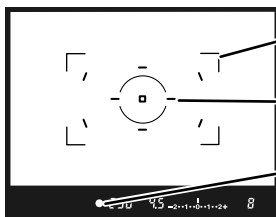
- フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.34
- レンズに記載されている焦点距離はフィルムカメラ用です。この値を約1.5倍にすると、このカメラでの35mmフィルム換算に相当する値を求めることができます。※換算表は →P.37

4. シャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。
- ［　］の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.32
- ファインダーの画像や表示がはっきり見えないときは、視度を調整してください。→P.79

● 半押しして現れるファインダー内の表示は以下の通りです。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、液晶モニターに撮影画像が2秒間表示されます。表示時間の変更もできます。→アフタービュー、P.113
- 撮影された画像が自動的にCFカードに記録・保存されます。保存中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

ファインダー内に が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。手ぶれ補正スイッチをONにするか（P.74）、フラッシュ撮影（P.34）または三脚の使用をおすすめします。

- 撮影後は、メインスイッチをOFFにしてください。
- レンズキャップを付けるか、レンズを外す場合はボディキャップを付けて保管してください。

ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム[ ]の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が9個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

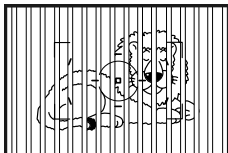
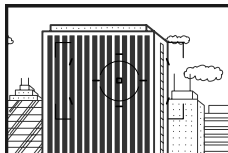
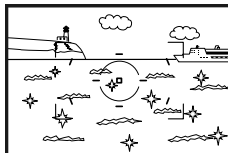
フォーカス表示

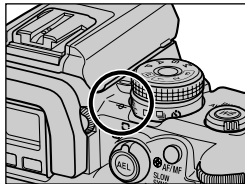
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
● 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
((●)) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。撮影できます。
(( )) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。以下を確認してください。 撮りたいものに近づき過ぎていませんか？ ご使用のレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。 被写体が[ ]から外れていませんか？ 外れるとピントが合いません。 被写体が動いていませんか？ 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→P.48 オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？ オートフォーカスの苦手な被写体（P.33）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.43）またはマニュアルフォーカス撮影（P.48）を行なってください。 ※ ● の点滅中でもシャッターが切れるようにする場合は →レリーズ優先、P.132

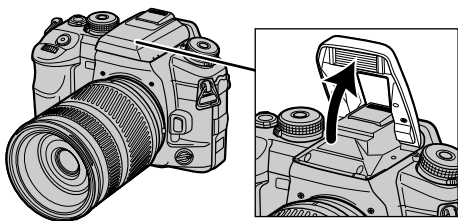
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、ファインダー内のフォーカス表示が点滅します（P.32）。このような場合は、フォーカスロック撮影（P.43）またはマニュアルフォーカス撮影（P.48）を行なってください。

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　] の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

ビルの外観など、
繰り返しパターンの
連続するもの

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

撮影距離を正確に測るには

カメラ上面の－⊖－のマークは、CCD*面の位置を表します。このマークの位置から被写体までの距離が正確な撮影距離です。

*CCD ＝ デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

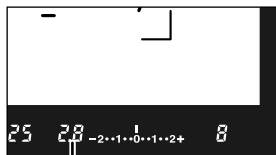
フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュが上がっているときにシャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にフラッシュ表示が現れます。

フラッシュ表示	状況
ϟ 点灯	**フラッシュの充電が完了しました。フラッシュ撮影ができます。** この表示が現われないときは、フラッシュが充電中です。点灯するのを待って撮影してください。
ϟ 点滅（撮影後）	**フラッシュ光が被写体に届きました。** この表示が現われないときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。

- 暗いところでフラッシュ撮影をすると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが発光することがあります。これはオートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。→P.79
- このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが数回続けて発光します。※詳しくは → P.110

フラッシュ光の届く距離（フラッシュ調光距離）

内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値と撮像感度によって異なります。右の表は、初期設定の撮像感度ISO 100時の調光距離です。

※撮像感度 →P.72

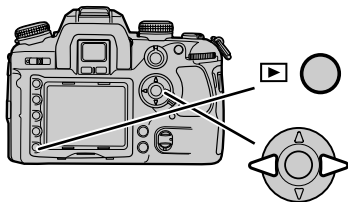
絞り値	調光距離
F2.8	1.0〜4.3m
F4	1.0〜3.0m
F5.6	1.0〜2.1m

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

- 被写体から1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取り外してください。
- このカメラの内蔵フラッシュは、レンズ表記上24mm以上の焦点距離の画角をカバーします。
- AFアポテレ600mm F4（ハイスピードタイプを含む）では、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

撮影した画像を確認する／消去する

画像を確認する

撮影した画像はすぐに見ることができます。

1. 撮影後、再生ボタンを押します。

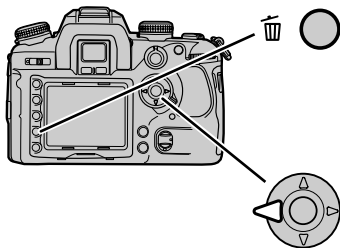
● 直前に撮影された画像が液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

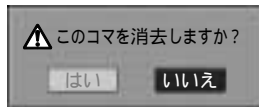
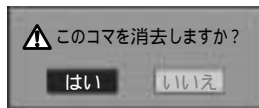
3. もう一度再生ボタンを押すと撮影モードに戻ります。

※再生の詳細について →P.83

画像を消去する

1. 上記の要領で、再生ボタンと十字キーで消去したい画像を表示させます。

2. 消去ボタンを押します。

● 右の画面が現れます。

● 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

3. 十字キーの左側で「はい」を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 選んだ画像が消去されます。

● この後、続けて画像を消去することもできます。

5. 再生ボタンを押して（またはシャッターボタンを半押しして）通常の撮影モードに戻ります。

● 消去する際、「はい」を先に選択した状態にすることもできます。→P.154

※複数の画像を一度に消去するときは →P.120

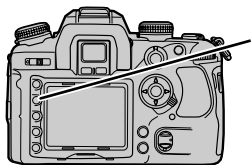
各機能の説明（撮影）

この章では、撮影の際の各種設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

焦点距離について

35mmフィルムカメラのフィルムサイズが36×24mmなのに対し、このカメラのCCD（フィルムの役割を果たす部分）のサイズは23.5×15.7mmです。このため、同じ焦点距離のレンズでも、フィルムカメラとこのカメラでは得られる画角が異なります。
例えばフィルムカメラでは、焦点距離50mmのレンズを付けると、画角47°の画像が得られます。同じく焦点距離50mmのレンズをこのカメラに付けると、画角は32°となり、従来のフィルムカメラで約75mmに相当する画像が得られます。
お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍（36÷23.5　1.5）にすると、このカメラで撮影する場合の35mmフィルム換算焦点距離が得られます。以下は主な焦点距離の換算表です。

レンズの仕様上の焦点距離	17	24	28	35	50	75	105	200	300
このカメラでの35mm換算焦点距離	25.5	36	42	52.5	75	112.5	157.5	300	450

撮影情報画面の切り替え

撮影時には、カメラ背面の液晶モニターに、各種の撮影情報が表示されます。
表示切り替えボタンを押すと、数多くの表示が可能な詳細画面と、大きくて見やすい拡大画面とを切り替えることができます。表示をなくして、電池の消耗を少なくすることもできます。

※個々の表示内容について →P.16

またカメラを縦位置に構えると、画面が自動的に縦向きに変わります。

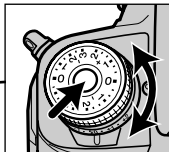
- この使用説明書では、横方向の詳細画面（次ページ左上）で説明しています。
- 露出モードダイヤルがPまたは登録1～3の場合、カメラのダイヤルやレバーの位置は、実際のカメラの設定と異なります。液晶モニターの撮影情報は正確ですので、撮影情報画面を参考に撮影を行なってください。
- 縦位置に構えても縦画面を出さないようにすることもできます。→P.142

P 60 F2.8
0029
詳細画面
表示切り替えボタン
縦横
切り替え
詳細画面（縦）
拡大画面
拡大画面（縦）
表示なし
表示切り替えボタン
表示なし

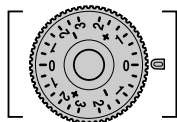
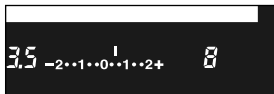
露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0の範囲で0.3段ごと、または±3.0の範囲で0.5段ごとに設定できます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

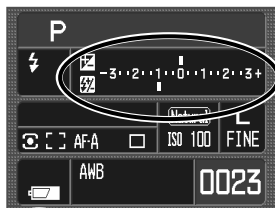
露出補正－側

露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出補正ダイヤルを希望の補正量の位置まで回します。

- ダイヤル上で、オレンジ色の文字側が0.3段刻みの1/3Evステップ側、白い文字側が0.5段刻みの1/2Evステップ側です。

1/2Evステップ側（0.5段刻み）

1/3Evステップ側（0.3段刻み）

- 露出補正0位置から他へ移動するときと、1/3Evステップ・1/2Evステップ間を行き来するときだけ、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押してダイヤルを回してください。それ以外は押さなくても回ります。
- 設定した露出補正値は、液晶モニターの測光インジケーターに表示されます。シャッターボタンを半押しすればファインダー内にも現れます。
- 露出補正をひんぱんに使用する場合、前または後ダイヤルを回すだけで露出補正ができるようすることもできます。→P.137
- レンズに記載されている最大／最小絞り値は、1/2Evステップによる値です。1/3Evステップに設定した場合、レンズによっては記載値通りの最大／最小絞り値が表示されないことがありますが、実際には記載されている最大／最小絞り値で制御されています。

調光補正

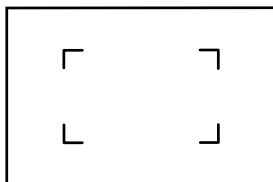
フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。±2.0の範囲で0.5段ごとに設定できます。

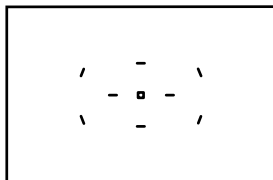
フラッシュ調光補正レバーを、希望の補正量の位置まで回します。

- 内蔵フラッシュを上げると、設定した調光補正値が液晶モニターの測光インジケーターの下側に表示されます。
- シャッターボタンを半押しすれば、ファインダー内に が表示されます。
- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化*します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

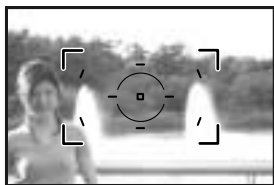
* 露出補正をかけてもフラッシュの発光量を変化させないようにすることもできます。→P.139

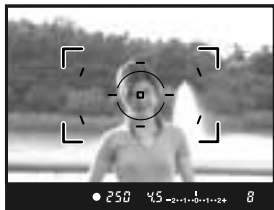
フォーカス ― フォーカスフレーム関連

ワイドフォーカスフレーム

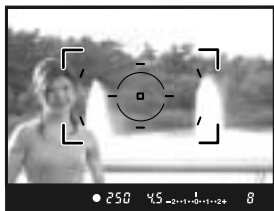
このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスを採用、動きのある被写体でもピント合わせが容易に行えるようになっています。ワイドフォーカスでピント合わせができる範囲は、ワイドフォーカスフレームで表されています。

ローカルフォーカスフレーム
（中央はｽﾎﾟｯﾄﾌｫｰｶｽﾌﾚｰﾑ）

ワイドフォーカスフレーム内には9つのセンサーがあり、センサーのある位置はローカルフォーカスフレームで表されています。被写体の位置に応じて、9ヵ所のセンサーのうちのどれかが作動してピントを合わせます。シャッターボタンを半押ししてピントが固定されると、ピント合わせに使われたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが一瞬点灯して、どの部分にピントが合っているかをお知らせします。

● 中央のローカルフォーカスフレーム（スポットフォーカスフレーム）はクロス型センサー（＋）となっており、あらゆる被写体に対してより正確なピント合わせができるような仕組みになっています。
● 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなど、ローカルフォーカスフレームが点灯しないことがあります。
● ローカルフォーカスフレームの点灯時間を変更したり、点灯しないようにすることもできます。→P.141

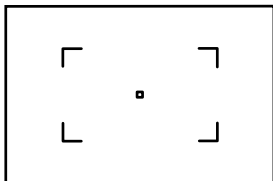
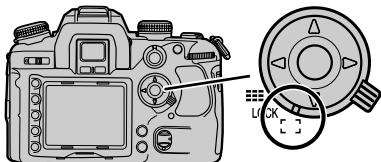
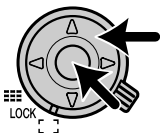
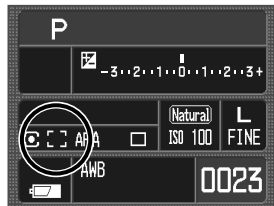
被写体がフォーカスフレームに入らないときは（フォーカスロック撮影）

オートフォーカスで撮影する場合、通常は、ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレーム［　］に入れて撮影します。
ピントを合わせたいものが［　］に入らないときにそのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

● この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮影する際にも有効です。→P.33

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ファインダー内の ● が点灯し、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

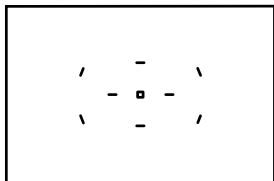
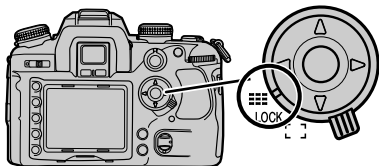
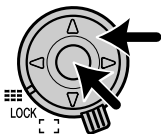
● ピントと同時に露出も固定されます（14分割ハニカムパターン測光選択時のみ、P.60）。
● 撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。
● ファインダー内の ● が点灯しないとき（被写体が動いているとき）は、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません。
● ［　］内の任意の位置でピントを合わせたり（ダイレクトフォーカスフレームセレクター）、シャッターボタン半押し以外でのフォーカスロック撮影も可能です（P.44）。

ワイド／スポットフォーカスフレームを使用する

ワイドフォーカスフレーム内の9つのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）のうち、どれをピント合わせに使うかをカメラが自動的に決定します。また、スポットAFボタンを押すだけで中央のスポットフォーカスフレームを選ぶこともできます。

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを［　］（ワイド）に合わせます。

2. ダイレクトフォーカスフレームセレクター（以下セレクター）を押すと、ワイドフォーカスフレームでピントが合います。
スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。

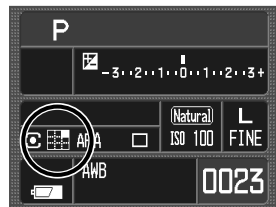
- ピントが合うと、ピント合わせに使われたフレームが一瞬点灯します。
- セレクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。
- セレクターを押す方向と実際にピント合わせに使われるフレームとは無関係です。

3. セレクターまたはスポットAFボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後も、セレクターまたはスポットAFボタンを押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。
- 14分割ハニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。

ローカル／スポットフォーカスフレームを使用する

9つのローカルフォーカスフレームから任意のフレームを選ぶ方法です。

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを☷（ローカル）に合わせます。

2. ダイレクトフォーカスフレームセレクター（以下セレクター）を押すと、押した位置のローカルフォーカスフレームでピントが合います。
スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。

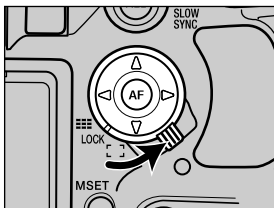
- セレクターは8方向に押せるので、すべてのフレームが瞬時に選べます。選んだフレームは一瞬点灯します。
- セレクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。

3. シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後も、セレクターまたはスポットAFボタンを押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。
- 14分割ハニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。
- AFレフレックス500mm F8およびAFパワーズーム35-80mm F4-5.6使用時には、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。

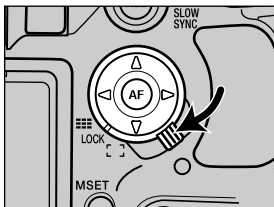
常に同じフォーカスフレームでピントを合わせる

P.44〜45で選択したフォーカスフレームをロックして、常にそれを使用することができます。

- AFワイド／ローカル切り替えレバーをロックした状態では、セレクターやスポットAFボタンの操作は無効となります（押しても何も起こりません）。間違って操作したくない場合にお使いください。
- 撮影後も、同じフォーカスフレームのままで撮影を続けることができます。

ローカルフォーカスフレーム（またはスポットフォーカスフレーム）をロックする

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを ☷ に合わせて、希望のローカルフォーカスフレームまたはスポットフォーカスフレームを選択します。

2. AFワイド／ローカル切り替えレバーをLOCKに合わせます。

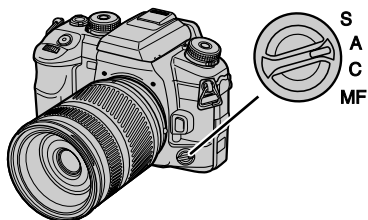
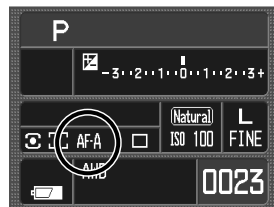
ワイドフォーカスフレームをロックする

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを［　］に合わせます。

2. AFワイド／ローカル切り替えレバーをLOCKに合わせます。

フォーカス ― フォーカスモード

このカメラには、3種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF-A	AF制御自動切り替え	被写体に応じて、AF-SとAF-Cが自動的に切り替わります。
AF-S	ワンショットAF	シャッターボタン半押しでピントが固定されます。
AF-C	コンティニュアスAF	シャッターボタンを半押ししている間、ピントが動き続けます。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

AF = Autofocus（オートフォーカス）、MF = Manual focus（マニュアルフォーカス）の略
A = Automatic、S = Single、C = Continuous の略

フォーカスモードレバーで希望の設定を選びます。

オートフォーカス

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

AF制御自動切り替え（AF-A）

被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いているときは、シャッターボタン半押し中はピントを合わせ続けます。静止被写体の場合は、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこでピント位置を固定（フォーカスロック）します。人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

ワンショットAF（AF-S）

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。

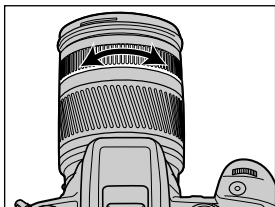
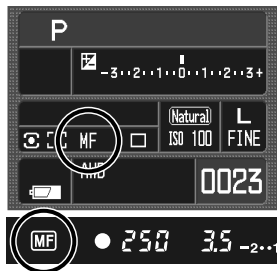
コンティニュアスAF（AF-C）

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

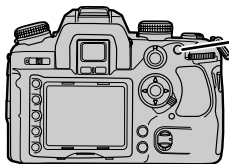
- ワイドフォーカスフレーム設定時は、被写体が動くと、それに合わせてピントを合わせるフレームも変わります。新たにピントの合ったフレームは赤く点灯します。
- ピントが合ったときのブザー音は鳴りません。→P.148

マニュアルフォーカス

被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. フォーカスモードレバーをMFに合わせます。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。ワイドフォーカスフレーム時は中央のフレームが、ローカルフォーカスフレーム時はセレクターで選んだフレームが使用されます。
- AF/MFコントロールボタンを使えば、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えがより簡単にできます。→P.49
- AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合は、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでシャッターボタンを押して撮影してください。
- このカメラでは、マニュアルフォーカス時でもより安定した露出が得られるよう、露出の決定に距離情報を利用しています。距離情報の精度を高めるため、メインスイッチをONにすると、ピントがいったん無限遠位置（∞）にリセットされます。

※テレコンバーター使用時など、フォーカスリングの動きが重いときは →P.51

AF/MFコントロールボタン

フォーカスモードは通常はカメラ前面のフォーカスモードで選びますが、背面のAF/MFコントロールボタンを使うと、撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、より簡単にオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます。

- Xiズームレンズ、AFパワーズームレンズ、STF135mm F2.8 [T4.5]レンズでは、AF/MFコントロールボタンは使用できません。

オートフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使う

オートフォーカス（AF-A・S・C）設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、押している間は一時的にマニュアルフォーカスになります。AF/MFコントロールボタンを押したまま、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせてください。

- マニュアルフォーカス中は、ファインダー内に MF が表示されます。液晶モニターの表示はオートフォーカスのままです。
- AF/MFコントロールボタンを押している間は、それまでのピント位置はそのまま保持されるので、フォーカスロックとして使うこともできます。
- AF/MFコントロールボタンを一度押すとマニュアルフォーカス、もう一度押すとオートフォーカスに戻る、という設定にすることができます。→P.133

マニュアルフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使う

マニュアルフォーカス（MF）設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、オートフォーカスが起動してピントを合わせます。

- ピントが合った後、AF/MFコントロールボタンを押している間はピント位置が固定されています。
- マニュアルフォーカスを中心に使用、必要時のみオートフォーカスを使われる方に便利な機能です。
- AF/MFコントロールボタンを押している間は、ファインダー内の MF は消灯します。液晶モニターの表示はMFのままです。
- AF/MFコントロールボタンを一度押すとオートフォーカスが起動、もう一度押すとマニュアルフォーカスに戻る、という設定にすることができます。→P.133

フォーカス機能あれこれ

このカメラではさまざまな方法でピントのコントロールができます。以下に主なものをまとめました。

◆カメラのホールディングを崩さずに素早くオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える
- AF/MFコントロールボタンを使用する。→P.49

◆オートフォーカスでピントを合わせた後、マニュアルフォーカスでピントの微調整をする
- オートフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使用する。ボタンを押したままフォーカスリングを回してピントを合わせる。→P.49
- カスタムメニューでDMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）を選択、オートフォーカスでシャッターボタン半押しでピントを固定させた後、フォーカスリングを回してピントを合わせる。→P.136

◆マニュアルフォーカスを中心に使用、必要に応じてオートフォーカスにする
- マニュアルフォーカスに設定、AF/MFコントロールボタンでオートフォーカスを行なう。→P.49

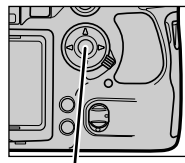
◆オートフォーカスでフォーカスロック（ピントの固定）をする
- シャッターボタンを半押しし続ける。→P.43
- ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンを押し続ける。→P.44, 45
- AF/MFコントロールボタンを押し続ける。→P.49

- シャッターボタン半押しでのピント合わせがわずらわしい場合は、解除することもできます。→P.135

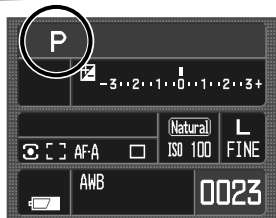
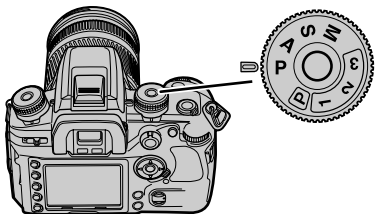
テレコンバーター使用時など、マニュアルフォーカスでフォーカスリングの回転が重く感じられるときは、以下いずれかの方法をお試しください。

スポットAFボタン

◆レンズがすでに取り付けられている場合
1. フォーカスモードレバーをMFに合わせます。
2. スポットAFボタンを押しながらレンズ取り外しボタンを押します。
3. レンズ取り外しボタン、次にスポットAFボタンの順に手を離します。

◆レンズを取り付ける前
フォーカスモードレバーをMFに合わせ、スポットAFボタンを押しながらレンズを取り付けます。

- 液晶モニターのMFの表示が反転して MF になります。
- AF/MFコントロールボタンは機能しません。
- 距離情報が得られなくなるので、手ぶれ補正の効果が落ちます。また、露出やフラッシュ調光の性能も十分に発揮することはできません(例：測光モードレバーで14分割ハニカムパターン測光を選択していても、カメラは中央重点的平均測光に近い方式で測光を行います)。その他の撮影には支障ありません。
- Xiズームレンズ、AFパワーズームレンズではこの設定はできません。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。露出モードダイヤルで設定します。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードで前または後ダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。

Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.54

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.55

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.56

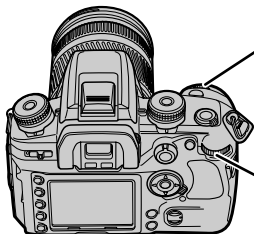
P（プログラム）モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをPに合わせます。

プログラムシフト

Pモードのまま、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます(PA／Psシフト)。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、前ダイヤルを回すとPsシフトになります。

● 希望のシャッター速度を選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。

後ダイヤルを回すとPAシフトになります。

● 希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

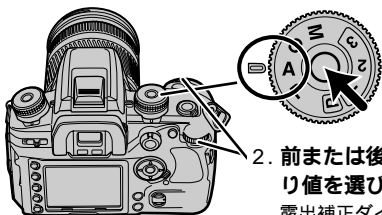
● 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。
● 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押すか、数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

A（絞り優先）モード

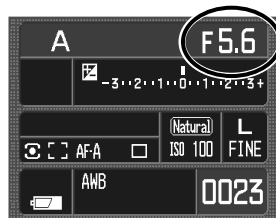
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。
逆に16などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

● プレビュー機能を使うと、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。→P.75

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをAに合わせます。

2. 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

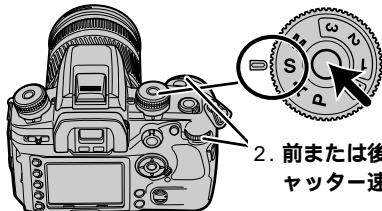
● 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとに絞り値が変わります。→P.40

● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しない範囲で絞り値を設定してください。

● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。

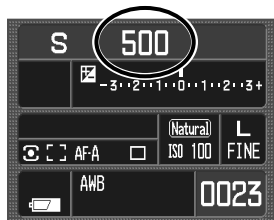
S（シャッター速度優先）モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

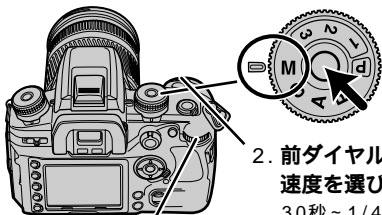
シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき
（流し撮りの例）

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをSに合わせます。

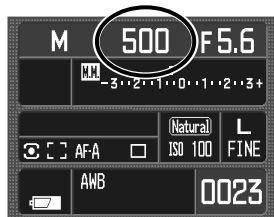
2. 前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 30秒〜1/4000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒〜1/125秒（手ぶれ補正ON時）または1/160秒（手ぶれ補正OFF時）の範囲で選ぶことができます。
- 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとにシャッター速度が変わります。→P.40

- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。
- フラッシュを使用する場合、シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる（絞り値が大きくなる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。シャッター速度を遅くしたい場合は、スローシンクロ撮影をおすすめします。→P.73
- シャッター速度が1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。→P.115

M（マニュアル）モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをMに合わせます。

2. 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

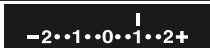
- 30秒～1/4000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒～1/125秒（手ぶれ補正ON時）または1/160秒（手ぶれ補正OFF時）の範囲で選ぶことができます。
- 30秒の次にはBULB（バルブ撮影）が表示されます。→P.58

3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
- Mモードでは、撮像感度（P.72）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- シャッター速度が1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。→P.115
- 前後ダイヤルの機能を入れ替えて、前ダイヤルで絞り値、後ダイヤルでシャッター速度が選べるようにすることもできます。→P.137

Mモード時の測光インジケーター

Mモード撮影では、液晶モニターとファインダー内の測光インジケーターに、カメラが測光した値を基準値（0）として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による値が表示されます（メータードマニュアル）。

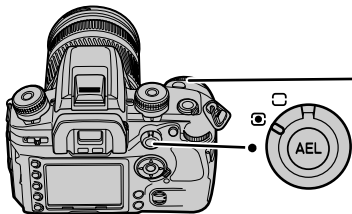
M.M. ＝ Metered manual（メータードマニュアル）の略

基準露出
（カメラが測光した基準値と撮影者が設定した値が同じ）

＋1段露出オーバー
（撮影者が設定した値は、カメラが測光した基準値より＋1段オーバー）

インジケーターの端まで来ると、まず◁▷が点灯、次に点滅します。

- 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは測光インジケーターも1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとの表示になります。→P.40
- 露出補正をかけると、露出補正分もインジケーターに反映されます。

マニュアルシフト

Mモードに設定後、露出はそのままでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

1. Mモードでシャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

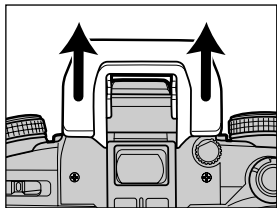
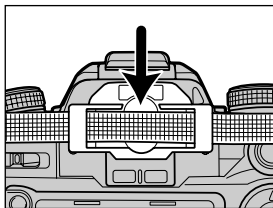
バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。

1. 露出モードダイヤルをMに合わせてMモードを設定します。
2. 前ダイヤルを左に回して、BULBを選びます。
3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。
4. アイピースキャップを取り付けます。→P.59
5. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 完全に充電した電池で、約3.5時間のバルブ撮影が可能です。
- 撮影後は最長30秒間、ノイズ軽減処理が行なわれます（ノイズリダクション）。その間は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、次の撮影はできません。　※この機能を解除するには →P.115
- 手ぶれ補正機能は、自動的にOFFになります。
- 撮像感度が高いほど、また露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.192

アイピースキャップの取り付け

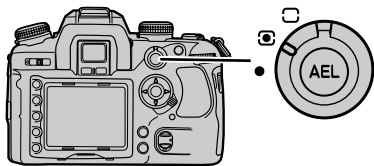
バルブ撮影やセルフタイマー撮影など、ファインダーを覗かずにシャッターを切る場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、アイピースキャップを取り付けてください。

1. アイピースカップを取り外します。

2. ストラップに付いているアイピースキャップを取り付けます。

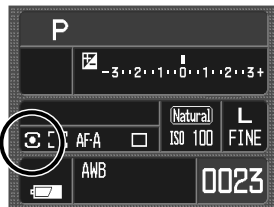
測光モード

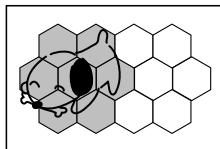
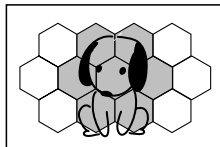
測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

14分割ハニカムパターン測光：　画面全体を14分割して測光します。

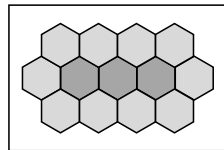
中央重点的平均測光：　画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。

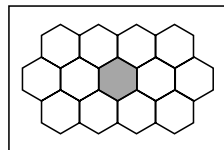
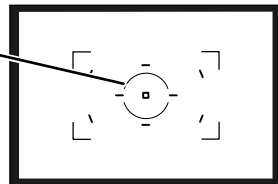
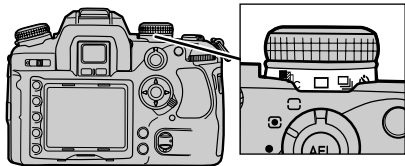
● スポット測光：　中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

測光モードレバーを、希望の測光モードに合わせます。

● スポット測光は、液晶モニターでは ◘ と表示されます。

14分割ハニカムパターン測光

画面全体を14分割して測光します。画面内には、13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しており、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

● 14分割ハニカムパターン測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカスでAFモードがS（ワンショット）またはA（自動切り替え）の場合のみ）。

中央重点的平均測光

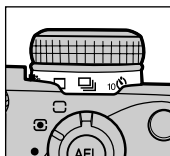
画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.40

● スポット測光

画面中央部のスポット測光サークル内（中央の1個の素子）のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影を行なってください。→P.70

ドライブモード

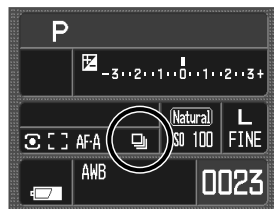
ドライブモードレバーで、連続撮影、セルフタイマー、ブラケット（露出ずらし）撮影、といった撮影ができます。

□	1コマ撮影：	シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。
連続撮影マーク	連続撮影：	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。→P.62
セルフタイマーマーク 10	10秒セルフタイマー：	シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。→P.63
セルフタイマーマーク 2	2秒セルフタイマー：	シャッターボタンを押してから2秒後に撮影されます。→P.63
ブラケットマーク C	連続ブラケット撮影：	露出をずらした写真を連続して撮影します。→P.64
ブラケットマーク S	1コマブラケット撮影：	露出をずらした写真を1コマずつ撮影します。→P.64

連続撮影

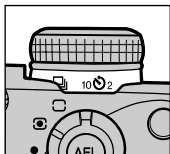
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約3コマの速度で連続して撮影できます。

1. ドライブモードレバーを連続撮影マークに合わせます。

- ファインダー内に、連続して撮影できる最大コマ数が表示されます（最大9コマまで表示）。

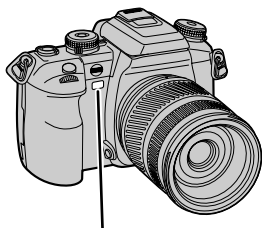
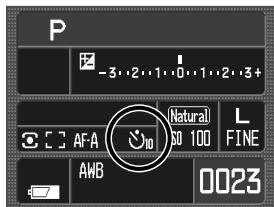
2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● AFモードがC（コンティニュアス）またはA（自動切り替え）のときは、1コマごとにピントと露出が変わります。S（ワンショット）時は、ピントと露出は1コマ目で固定されます。
● カメラの内蔵メモリ容量の関係上、連続撮影の枚数には上限があります（右表参照）。
※これらの値は被写体等により異なるので、あくまでも目安です。
● AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

	L:3008x2000	M:2256x1496	S:1504x1000
スタンダード	19	26	43
ファイン	15	19	30
エクストラファイン	12	14	20
RAW＋JPEG	9	9	9
RAW	9	—	—

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、約10秒後または2秒後に撮影されます。10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーはミラーが先に上がるので、シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

1. カメラを三脚などに固定します。

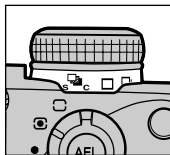
2. ドライブモードレバーを10（10秒セルフタイマー）または2（2秒セルフタイマー）に合わせます。

3. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

セルフタイマーランプ

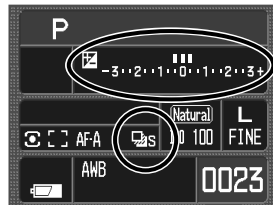
● 10秒セルフタイマーの場合、作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅、直前には点灯します。ランプと同様に音でもお知らせします。
● 作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモードレバーを動かしてください。2秒セルフタイマーは途中で止められません。
● カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーを覗かずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、ストラップに付いているアイピースキャップを付けてください。→P.59

ブラケット（露出ずらし）撮影

厳密な露出を要求される撮影では、基準露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。このカメラでは、それらの撮影が自動でできます。C*ではシャッターボタンを押し続けている間連続して撮影されます（連続ブラケット）。S*では1コマずつシャッターボタンを押して撮影します（1コマブラケット）。初期設定では、0.3段露出をずらした3枚の写真が撮れます。

* C ＝ Continuous、S ＝ Singleの略

1. ドライブモードレバーを C（連続ブラケット）または S（1コマブラケット）に合わせます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

- C（連続）の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けてください。S（1コマ）の場合は、1コマずつシャッターボタンを押してください。
- フラッシュが発光する場合は、連続・1コマの設定にかかわらず、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。

- 基準となる露出値は、ブラケット1コマ目で固定されます。露出補正をかけると、基準値が移動します。
- ピント位置は、撮影のたびに変わります。連続ブラケット撮影で、AFモードがS（ワンショット）またはA（自動切り替え）で被写体が静止している場合のみ、ピント位置は固定されます。
- フラッシュが発光しない場合は、定常光*ブラケット撮影となり、シャッター速度と絞り値が変化してブラケット撮影が行なわれます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュブラケット撮影となり、フラッシュ光が変化します。
- ブラケット段数を0.5段、枚数を5枚に変更することもできます。定常光ブラケットとフラッシュブラケットで別に設定できます。→P.112
- 定常光ブラケット撮影では、Pモードではシャッター速度と絞り値、Aモードではシャッター速度、Sモードでは絞り値が変化します。Mモードでは通常はシャッター速度が変化しますが、AEロックボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。
- フラッシュブラケット撮影では、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。フラッシュの発光量が変化してブラケットを行ないます。

● 撮影は、0（適正）、－、＋の順に行なわれます。変更もできます。→P.112
● 1コマブラケットを途中で解除するには、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモードレバーを動かしてください。
* 定常光 ＝ 自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれる。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

ブラケット撮影にすると、液晶モニターの測光インジケーター表示が変わります。

定常光ブラケット（上段に表示）
段数0.3段、枚数3枚

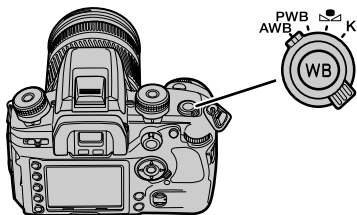
定常光ブラケット（上段に表示）
段数0.3段、枚数3枚
露出補正＋1.0段

フラッシュブラケット（下段に表示）
段数0.5段、枚数5枚
調光補正－1.0段

ファインダー内表示

ファインダー内表示

● 定常光ブラケットの測光インジケーターは、ファインダー内にも表示されます。フラッシュブラケットは表示されません。
● ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。
● 1コマブラケットの場合、ファインダー内に、定常光ブラケットの場合は [br 1]、フラッシュブラケットの場合は [Fbr 1] の表示が現れます。撮影を開始すると、[br 2] [br 3] などと次のコマが何コマ目かが表示されます。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。このカメラでは、4種類のホワイトバランスの設定方法が可能です。

AWB* オートホワイトバランス： ホワイトバランスは自動的に調整されます。
PWB* プリセットホワイトバランス： 被写体を照射している光源を選ぶことができます。→P.66
カスタムホワイトバランス： 白く再現したい被写体を選んでカメラに記憶させます。→P.68
K 色温度設定： 色温度を選んで撮影します。→P.69

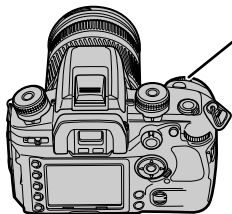
* AWB = Auto White Balance、PWB = Preset White Balance の略

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートで思うような色が出ないときにお使いください。

1. ホワイトバランスモードレバーをPWBに合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

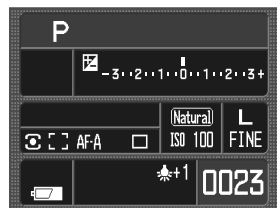
3. 前ダイヤルまたは十字キー左右で、光源を選びます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 日陰（晴れた明るい屋外の日陰）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- フラッシュ光

4. 必要ならば、後ダイヤルまたは十字キー上下で微調整を行ないます。

● ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。

● 蛍光灯設定時に上記の操作を行なった場合は、微調整でなく、以下の通り蛍光灯の種類を選ぶことになります。＋側ほど赤っぽく、－側ほど青白く写ります。

－2	電球色蛍光灯	＋2	昼白色蛍光灯（三波長）
－1	温白色蛍光灯（三波長）	＋3	昼光色蛍光灯（三波長）
0	白色蛍光灯	＋4	昼光色蛍光灯
＋1	昼白色蛍光灯		

5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定時には、光源や数値が、ファインダー内にも以下の通り表示されます。

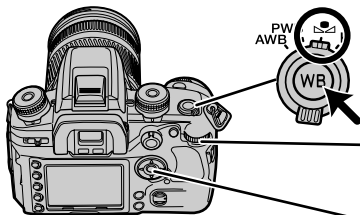
昼光 ＝ dAy (daylight)	白熱灯 ＝ tung (tungsten)
日陰 ＝ SHAd (shade)	蛍光灯 ＝ FLor (fluorescent)
曇天 ＝ CLud (cloudy)	フラッシュ光 ＝ FLSH (flash)

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。カスタム1～3の3つまでをカメラに登録させせることができます。

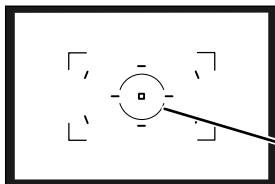
● P.76の登録機能とは関係ありません。

カスタムホワイトバランス値を登録する

1. ホワイトバランスモードレバーをに合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前または後ダイヤルでSetを選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● SETが赤く表示されます。

5. 白く写したいものがスポット測光サークルを覆うようにカメラを構え、シャッターボタンを押します。

● ピントを合わせる必要はありません。

スポット測光サークル

登録先を選択

選択　完了

6. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、登録先の番号（1～3）を選びます。

● を選ぶと登録されません。

7. 十字キー中央の実行ボタンを押して登録します。

● 登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影画面に戻ります。

- この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に同じ操作で同じ番号に別の値が登録されるまで有効です（メインスイッチをOFFにしても消えません）。
- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
- 「カスタムWB設定エラー」のメッセージが表示されたときは、登録しようとしている値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。登録する場合は登録先の番号を、キャンセルする場合は を選んで実行ボタンを押してください。登録すると、液晶モニターの表示が黄色になります。撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、再度設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランス値を呼び出す

1. ホワイトバランスモードレバーを に合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、呼び出したい番号を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

色温度設定

ホワイトバランス値を、色温度で指定することができます。

- カラーメーターで測定した色温度を設定する場合は、事前にテスト撮影を行なってください。

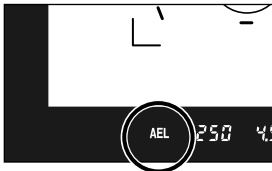
1. ホワイトバランスモードレバーをKに合わせます。

K ＝ ケルビン（色温度を表す単位）

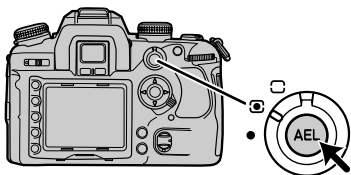
2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前後ダイヤルまたは十字キーで、希望の色温度を選びます。

- 前ダイヤルまたは十字キー左右で1000Kずつ、後ダイヤルまたは十字キー上下で100Kずつ数値が変わります。
- 2500K～9900Kの範囲から選ぶことができます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

露出を固定する（AEロック撮影）

AE*ロックボタンを押すと、その時の露出値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

*AE = Auto exposure（自動露出）の略
AEL = Auto exposure lockの略

1. 測光したい状態にカメラを構えます。

● ピントを合わせておいてください（固定させる必要はありません）。

2. AEロックボタンを押します。

● ファインダーと液晶モニターの**AEL**が点灯し、露出値がロック（固定）されていることをお知らせします。

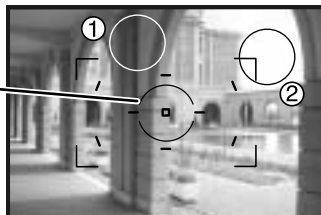
3. AEロックボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
● P／Aモードでのフラッシュ発光時は、AEロックと同時にスローシンクロ撮影になります。→P.73
● AEロックボタンから指を離しても露出値が固定されたままになるように（押し続けなくてもいいように）することができます。→P.134
● どの測光モードを選択していても、AEロックボタンを押すと一時的にスポット測光で露出が固定される（スポットAEロック）ようにすることもできます。→P.134

AEロックボタンを押したときの測光インジケーター

AEロックボタンを押して露出を固定すると、固定された露出値を基準値（0）として、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値が、測光インジケーターに表示されます。画面内の複数箇所の明るさの違いを知ることができます。

● 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは測光インジケーターも1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとの表示になります。→P.40
● 基準値に対して±2段を越える場合は、まず ◁▷ が点灯、次に点滅します。

例：右の場面で構図を決めてAEロックボタンを押した場合

スポット測光サークル

14分割ハニカムパターン測光・中央重点的平均測光の場合

AEロックボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

スポット測光サークル内の測光値

固定された露出値（それぞれの測光モードによる）

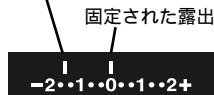
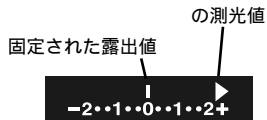
−2••1••0••1••2+

AEロックボタンを押したままスポット測光サークルを①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。

AEロックボタンを押したまま②に合わせると、②の測光値が表示されます。ここでは②が白くとんでしまうことが分かります。

②の測光値

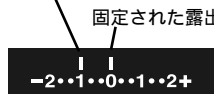
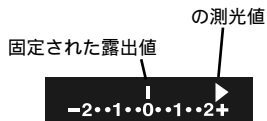
固定された露出値

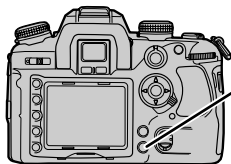
−2••1••0••1••2+

スポット測光の場合

AEロックボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

固定された露出値（＝その時のスポット測光サークル内の測光値）

−2••1••0••1••2+

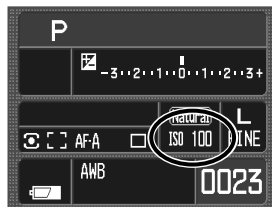
AEロックボタンを押したままスポット測光サークルを①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。

AEロックボタンを押したまま②に合わせると、②の測光値が表示されます。ここでは②が白くとんでしまうことが分かります。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。画質を重視する場合は、ISO 100などに感度を下げてください。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなり、ノイズが発生しやすくなります。

1. ISO（撮像感度）ボタンを押します。

2. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、希望の感度を選びます。

- 以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（AUTO）、ISO 100、200、400、800、1600

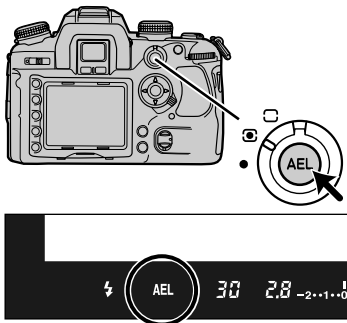
3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- オートの場合、撮像感度はISO 100～400の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- カスタムメニューで ISO 3200を選ぶこともできます。→P.144

内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値と撮像感度によって異なります。以下を目安に撮影距離を決めてください。

絞り値	撮像感度					
	ISO 100	ISO 200	ISO 400	ISO 800	ISO 1600	ISO 3200
F2.8	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m	2.8～17m	4～24m
F4	1～3m	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m	2.8～17m
F5.6	1～2.1m	1～3m	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m

スローシンクロ撮影（夜景を背景にしたフラッシュ撮影）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

スローシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

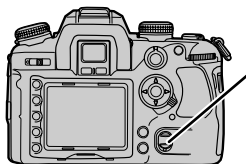
1. 内蔵フラッシュを上げます（またはプログラムフラッシュをONにします）。

2. AEロックボタンを押しながら撮影します。

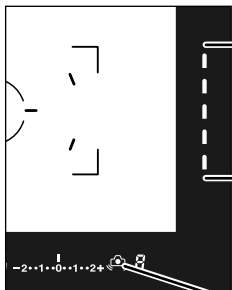
● 液晶モニターとファインダー内の**AEL**が点灯し、露出値がロック（固定）されていることをお知らせします。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
● フラッシュが発光しないときにAEロックボタンを押しながら撮影すると、露出が固定されます（AEロック撮影、P.70）。
● S・Mモードでは、AEロックボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
● AEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように（押し続けなくてもいいように）することもできます。→P.134

手ぶれ補正

カメラを手持ちで撮影する場合は、この機能により手ぶれを減少させることができます。フラッシュを発光させずに撮影するときや、望遠側で撮影するときに特に威力を発揮します。

1. 手ぶれ補正スイッチをONにします。

2. シャッターボタンを半押しします。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

ファインダー内右側の手ぶれインジケーターはカメラの揺れの大きさを、右下の手ぶれ警告表示 はシャッター速度や焦点距離、手ぶれ補正のON/OFFから判断した手ぶれ写真の可能性を表します。手ぶれ警告表示が点灯し、インジケーターの点灯数が多いほど、手ぶれの可能性があります。しっかりカメラを構えて撮影してください。

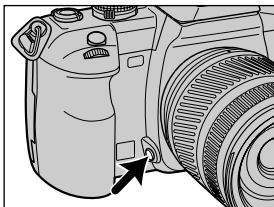
手ぶれインジケーター
手ぶれ補正スイッチがONの時には必ず点灯します。点灯するランプの数が多いほど、カメラの揺れが大きいことを表します（最大5つ）。手ぶれ補正がOFF時には点灯しません。

手ぶれ警告表示
手ぶれ補正スイッチがON/OFFにかかわらず点灯します。点灯すれば手ぶれの恐れがあるので、手ぶれ補正スイッチをONにするか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

- メインスイッチをONにした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだ時は、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。手ぶれインジケーターの点灯数が減るのを待ってから、ゆっくりシャッターボタンを押し込んでください。
- マクロ撮影など近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。手ぶれ補正をOFFにして三脚を使用されることをおすすめします。
- このカメラの手ぶれ補正機能は、シャッター速度で約2～3段分の補正効果を発揮します。被写体を追いながら流し撮り撮影を行なう場合や、夜景撮影などシャッター速度が1/4秒以上の場合は、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。可能であれば手ぶれ補正をOFFにして、三脚をご使用ください。

● 以下の場合には、手ぶれ補正機能が十分に作動しないため、手ぶれ補正をOFFにすることをおすすめします。
・三脚使用時
・マクロ切り替えレバー付きレンズのマクロ領域での撮影
・フォーカスレンジリミッター付きレンズ（SSMレンズと（D）の名称の付くマクロレンズを除く）で、最近接撮影距離からリミッター設定位置までの間で撮影する場合（リミッターを外して使用される場合は問題ありません。）
・AFマクロズーム3X-1X F1.7-2.8使用時
● 他社製レンズと組み合わせた場合、手ぶれ補正機能の性能については保証いたしませんのでご了承願います。
● 手ぶれインジケーターの表示を消すこともできます。→P.142

プレビュー（絞り込み）

ファインダーには絞りが一番開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合いも変わるため、ファインダーで見えるぼけ具合いと実際の写真のぼけ具合いとは異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合いを確認することができます。　※絞りとぼけ具合いについて →Aモード、P.54

ピントを合わせた後、プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。
● 押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。
● 絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。
● プレビュー中に絞り値を変更することもできます。

● ピントを固定したまま（＝ファインダー内に ● が点灯した状態で）プレビューボタンを押すと、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。
● フォーカスホールドボタン付きレンズ使用時には、フォーカスホールドボタンでプレビューを行なうようにすることができます。→P.132

登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、3通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

登録できる項目	ページ	補足
露出補正	40	1/3Evまたは1/2Evステップ、どちらの値でも登録できます。
調光補正	41	—
フォーカスフレーム	44, 45	ローカルフォーカスフレームの位置も合わせて登録されます。
フォーカスモード	47	—
露出モード	52	Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。プログラムシフトとマニュアルシフトは登録できません。
測光モード	60	—
ドライブモード	62	ブラケット撮影の場合、定常光ブラケット設定・フラッシュブラケット設定の段数と枚数がそれぞれ登録されます。
ホワイトバランス	66	微調整を含むプリセットホワイトバランス値と色温度設定値も登録されます。カスタムホワイトバランスは、1～3の番号のみ登録されます（設定値は登録されません）。
撮像感度	72	ゾーン切り替えを含むISOボタンの機能、ISO 3200を含むISO設定範囲も同時に登録されます。
画像サイズ	97	—
画質	98	—
カラーモード	100	—
画像パラメーター	102	—
フラッシュモード	104	フラッシュのON/OFFは登録されません。
調光モード	110	内蔵マニュアル発光の発光量も同時に登録されます。
フォーカス／レリーズ優先	132	—
AF-Aの機能	136	DMFそのものは登録できません。

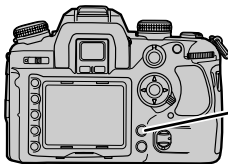
登録1〜3

このカメラでは3通りまでの登録が可能です。例えば、1には人物を撮るためのポートレート用の登録、2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1〜3いずれも未登録（フルオート*が登録されている状態）になっています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1〜3のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、１つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても保持されています。設定値リセット（P.156）で未登録状態（フルオート*）に戻ります。

* 撮像感度のみ、ISO AUTO でなく ISO 100

新しい設定を登録する

1. 前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

MSET

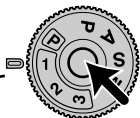
2. 登録設定ボタンを押します。

3. 前ダイヤル、後ダイヤル、十字キー左右のいずれかで、登録先の番号を選びます。

- 液晶モニターには、これから登録しようとしている登録内容一覧が表示されます。
- メニューボタンを押すと、登録されずに元の撮影モードに戻ります。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 設定が登録されます。

登録を呼び出す

露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルを呼び出したい番号（1～3）に合わせます。

● 呼び出された設定が表示されます。

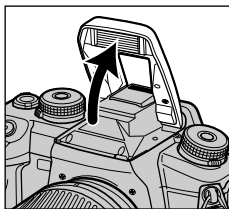
登録1、の意味

登録を呼び出すと、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。レバーの位置ではなく、液晶モニターの情報を元に撮影を行なってください。

登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。

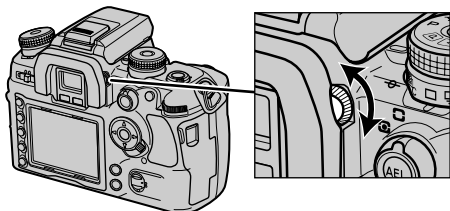
● 変更を加えた後、前ページの要領で再度それを登録することもできます。改めて登録しない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

● 登録呼び出し位置（1～3）で変更を加えた場合、P/A/S/Mモードに戻しても、加えた変更分はそのまま残ります。

AF補助光

被写体が暗いときに内蔵フラッシュを上げていると、シャッターボタン半押し等オートフォーカスでピントを合わせたときに、フラッシュが発光することがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

- 補助光の届く範囲は、約1～5mです（当社試験条件による）。
- フォーカスモードをコンティニュアスAF（C）にしているときや、被写体が動いているとき（ファインダー内にフォーカス表示(◉)が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300㎜以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3X-1X使用時にも、AF補助光は発光しません。
- プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
- AF補助光の発光をなくすこともできます。→P.140

視度調整

ファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームがはっきり見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

- アイピースカップを外すと回す方向が分かります（P.193）。遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください。

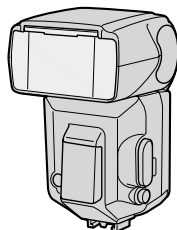
- カメラをできるだけ明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。
- 別売りの視度調整アタッチメント1000を併用することもできます。カメラ本体の視度調整機能を用いてもはっきりと見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

ハイスピードシンクロ（HSS）撮影

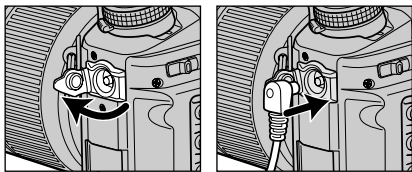
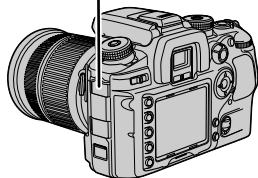
ハイスピードシンクロ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）または3600HS（D）が必要です。

プログラムフラッシュ5600HS（D）

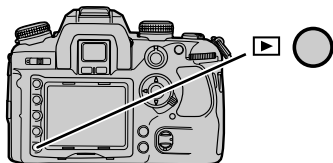
プログラムフラッシュ5600HS（D）または3600HS（D）をこのカメラに取り付けて、フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されている状態にすると、フラッシュ同調速度*の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域（30秒～1/4000秒）でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。
またAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。

*同調速度 ＝ このカメラでは、手ぶれ補正ON時で1/125秒、手ぶれ補正OFF時で1/160秒。ハイスピードシンクロ撮影以外のフラッシュ撮影では、これより高速のシャッター速度にはならない。

- ハイスピードシンクロ撮影となるとき（シャッター速度が上記の同調速度より高速になる場合）は、ファインダー内に ***H*** が点灯します。
- ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がフラッシュの表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。

- 2秒セルフタイマー・後幕シンクロ選択時には、ハイスピードシンクロ撮影にはなりません。
- フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影はできません。ハイスピードシンクロを解除する（フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されていない状態にする）か、同調速度より低速側のシャッター速度を選んでください。

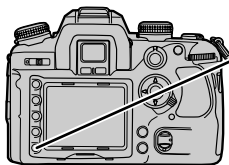
シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。シンクロターミナルのカバーを開け、コードを差し込んでください。

- 露出モードはMモードで、シャッター速度は1/125秒（手ぶれ補正ON時）／1/160秒（手ぶれ補正OFF時）またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- シンクロ電圧は400V以下でご使用ください。
- シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。フラッシュ調光補正（P.41）はできません。ブラケット撮影は、AEロックボタンを押しながら撮影（絞り値が変化する、P.64）すれば可能です。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るには、カスタムホワイトバランスをお使いください。
- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

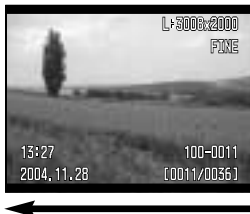
各機能の説明（再生）

この章では、画像再生中の機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

撮影した画像を再生するには、再生ボタンを押します。画像はカメラ背面の液晶モニターに表示されます。

撮影に戻るには、もう一度再生ボタンを押してください。

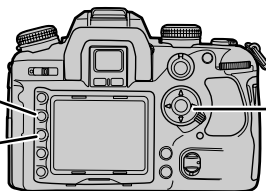
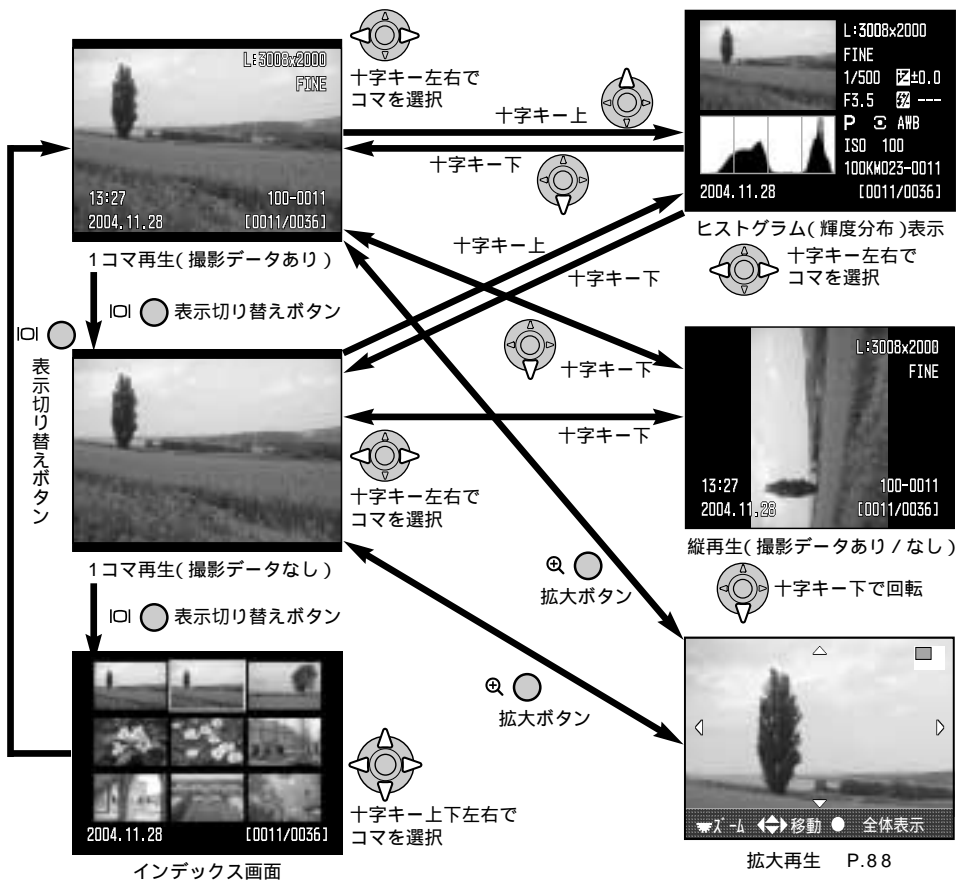
- シャッターボタン半押し等でも戻ります。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

前後ダイヤルまたは十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

古い画像 ⟷ **新しい画像**

- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に、ダイヤルを右に回すか十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- 再生中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに撮影モードに戻り、撮影が可能です。

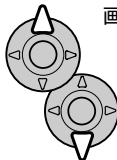
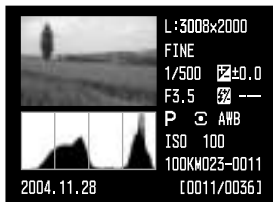
再生画面の切り替え

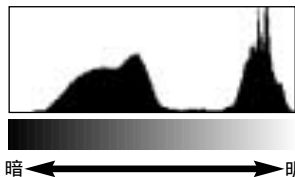
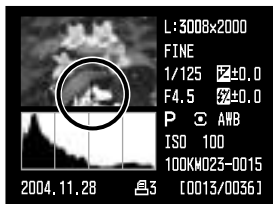
再生中は、表示切り替えボタンや十字キーなどにより、次ページの通り画面の切り替えができます。

次ページへ続く

※個々の表示内容について →P.17

インデックス画面

9コマ分を一度に液晶モニターに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

● 一度に再生されるコマ数を、4コマまたは16コマにすることができます。タブブラウズ（フォルダごとの表示）も可能です。→P.126

ヒストグラム（輝度分布）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。1コマ再生時に、十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。

● 左右キーを押すとコマの選択ができます。

画像に白とびまたは黒つぶれの箇所が存在する場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

※ヒストグラムについて →P.86

ヒストグラムについて

画素数

暗　明

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について →P.97

＋側に
露出補正を
かける

＋側に露出補正をかけて撮影すると、画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白１００%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。ヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

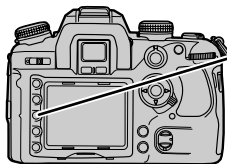
*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

縦再生

1コマ再生時に十字キーの下を押すと、画像が回転します。カメラ縦位置で撮った画像を見るときに便利です。

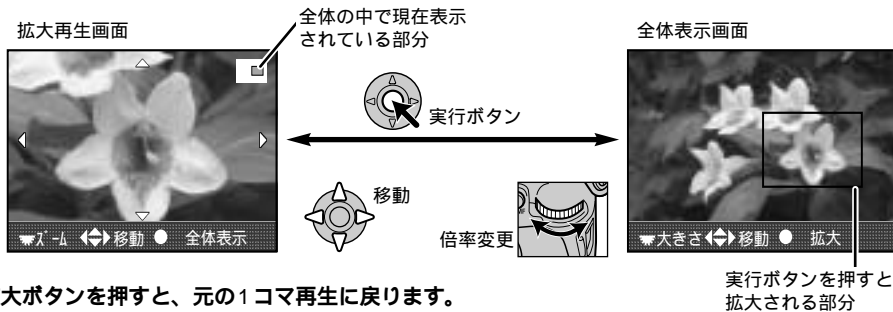
- パソコンに取り込んだ画像は、使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。付属のDiMAGE Viewerでは、正しく回転された状態で表示されます。
- SDメモリーカードとSD-CFアダプターを使用している場合、SDメモリーカードが書き込み禁止になっていると、縦再生はできません。

拡大再生

画像再生中に、画像の一部を拡大することができます。

1. 1コマ再生中に拡大ボタンを押します。

- 画面中央部分が拡大されます。
- RAW画像は拡大再生できません。

2. 十字キー上下左右と前後ダイヤルで、拡大したい場所や大きさなどを選びます。

- 十字キー上下左右で、拡大する場所を選ぶことができます。
- 後ダイヤルを回すと、拡大倍率が変わります。
- 前ダイヤルを回すと、コマの選択ができます。
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、拡大再生画面と全体表示画面が交互に表示されます。

3. 拡大ボタンを押すと、元の1コマ再生に戻ります。

- 拡大倍率範囲は右表の通りです（倍率は表示されません）。
- 表示切り替えボタン ◯ を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

画像サイズ	拡大倍率範囲
L: 3008×2000	約1.1～4.7倍
M: 2256×1496	約1.1～3.5倍
S: 1504×1000	約1.1～2.4倍

画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルVC-500でカメラとテレビを接続して、画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

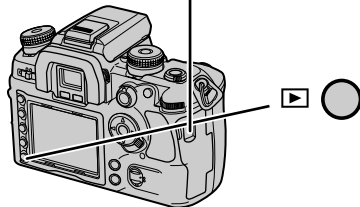
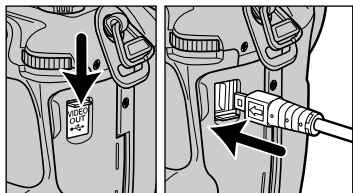
2. ビデオケーブルの黄色のプラグを、テレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に差し込みます。

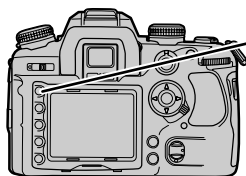
3. ビデオケーブルの反対側のコネクタを、カメラのビデオ出力端子に差し込みます。

● カメラのビデオ出力端子のカバーを開け、コネクタの矢印をカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

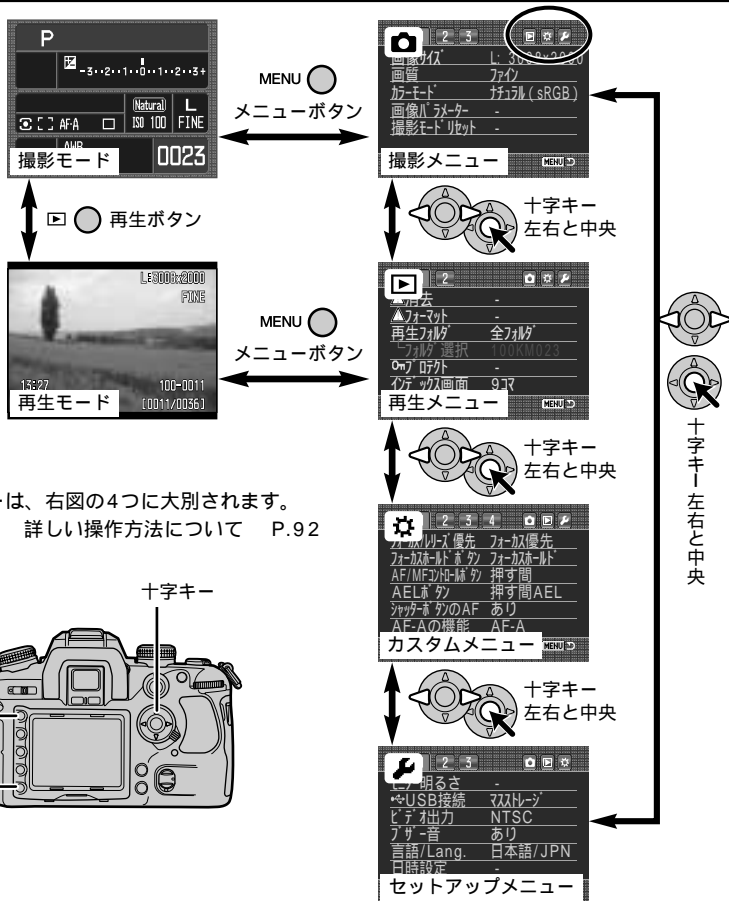
5. カメラのメインスイッチをONにして、再生ボタンを押します。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替え等行なうことができます。
● カメラ背面の液晶モニターは点灯しません。
● テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.147

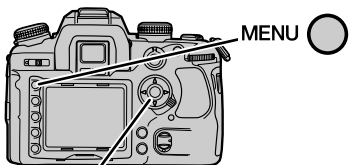
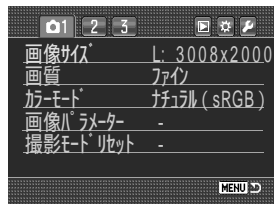
メニュー機能

この章では、メニューボタンを押して設定できる項目について説明しています。このカメラのメニューは、以下の4つに大別されます。

撮影メニュー
再生メニュー
カスタムメニュー
セットアップメニュー

メニュー操作

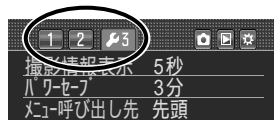
このカメラのメニューは、右図の4つに大別されます。

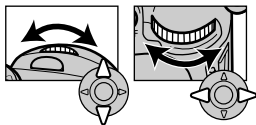
※詳しい操作方法について →P.92

メニュー設定方法

ここでの操作は、全メニューに共通です。

1. メニューボタンを押します。
- メニュー画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、4つのうちの希望のメニューを選び、中央の実行ボタンを押します。

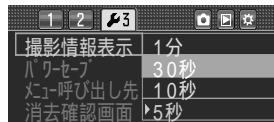
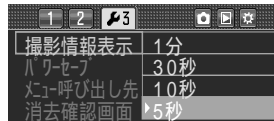
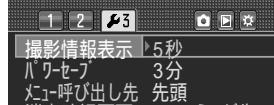
撮影メニュー　カスタムメニュー
再生メニュー　セットアップメニュー

- すでに希望のメニューになっている（左側に表示されている）ときは、この操作は不要です。

3. 十字キーの左右で、各メニューの1～4のいずれかを選びます。

前後ダイヤル

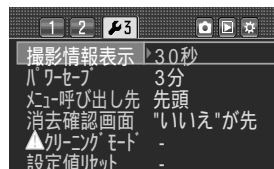
メニューの設定では、十字キー上下左右の代わりに、前後ダイヤルも使用できます。前ダイヤルを回すと上下、後ダイヤルを回すと左右に移動します。

4. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

5. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。
- 左側で元に戻ります。

6. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

7. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

MENU

8. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

● 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、撮影モードに戻ります。
● ここでは、基本的なメニューの入り方を説明しています。特定のメニュー項目にすぐ行けるようにしたり（P.144）、前回使用したメニューに戻れるようにする（P.154）こともできます。

メニュー一覧

撮影メニュー

1	
画像サイズ（P.97）	◯L: 3008×2000 M: 2256×1496 S: 1504×1000
画質（P.98）	RAW RAW＋JPEG エクストラファイン ◯ファイン スタンダード
カラーモード（P.100）	◯ナチュラル（sRGB） ナチュラル＋（sRGB） AdobeRGB（ICC）
画像パラメーター（P.102）	設定する
撮影モードリセット（P.103）	実行する

◯印は初期設定値です。

2	
フラッシュモード（P.104）	◯通常発光 赤目軽減発光 後幕シンクロ ワイヤレス
調光モード（P.110）	◯ADI 調光 P-TTL調光 内蔵マニュアル
内蔵マニュアル発光レベル（P.111）	◯1/1 1/2 1/4 1/8 1/16
定常光ブラケット設定（P.112）	◯0.3段／3枚 0.3段／5枚 0.5段／3枚 0.5段／5枚
フラッシュブラケット設定（P.112）	◯0.3段／3枚 0.3段／5枚 0.5段／3枚 0.5段／5枚
ブラケット順序（P.112）	◯0 → － → ＋ － → 0 → ＋

次ページへ続く

📷3	
アフタービュー（P.113）	10秒 5秒 ○2秒 なし
アフタービュー 表示の種類（P.114）	画像のみ ○画像＋情報 画像＋ヒストグラム
ノイズリダクション（P.115）	○あり なし
インターバル撮影（P.116）	設定 開始

再生メニュー

▶1	
消去（P.120）	コマを指定 フォルダ内全コマ カード内全コマ
フォーマット（P.122）	実行する
再生フォルダ（P.123）	指定フォルダ ○全フォルダ
再生フォルダ フォルダ選択（P.123）	—
プロテクト（P.124）	コマを指定 フォルダ内全コマ カード内全コマ フォルダ内全コマ取り消し カード内全コマ取り消し
インデックス画面（P.126）	16コマ ○9コマ 4コマ タブブラウズ

○印は初期設定値です。

▶2	
スライドショー（P.127）	実行する
DPOF指定（P.128）	コマを指定 フォルダ内全コマ カード内全コマ
DPOF指定 日付プリント（P.130）	あり ○なし
DPOF指定 インデックスプリント（P.130）	作成する 作成しない
DPOF指定 取り消し（P.131）	フォルダ内全コマ カード内全コマ

カスタムメニュー

⚙1	
フォーカス／レリーズ優先（P.132）	◯フォーカス優先 レリーズ優先（RP）
フォーカスホールドボタンの機能（P.132）	◯フォーカスホールド プレビュー
AF/MFコントロールボタン（P.133）	◯押す間 押すたびに切り替え
AELボタン（P.134）	◯押す間AEL 再押しAEL 押す間スポットAEL 再押しスポットAEL
シャッターボタンのAF（P.135）	◯あり なし
フォーカスモードレバー AF-Aの機能（P.136）	◯AF-A DMF（ﾀﾞｲﾚｸﾄﾏﾆｭｱﾙﾌｫｰｶｽ）

⚙2	
前後ダイヤルの設定（P.137）	◯前：ｼｬｯﾀｰ　後：絞り 前：絞り　後：ｼｬｯﾀｰ
前後ダイヤル露出補正（P.137）	◯なし 前ダイヤル 後ダイヤル
前後ダイヤルロック機能（P.138）	あり ◯なし
露出補正の効果（P.139）	◯定常光＋フラッシュ 定常光のみ
AF補助光（P.140）	◯あり なし

⚙3	
レンズなし レリーズロック（P.140）	◯あり なし
AFフレーム投光時間（P.141）	◯0.3秒 0.6秒 表示なし
モニター自動消灯（P.141）	◯あり なし
撮影情報画面（P.142）	◯縦横自動切り替え 横のみ
手ぶれインジケーター（P.142）	◯あり なし

⚙4	
ISOボタンの機能（P.143）	◯ISO設定 ゾーン切り替え
ISO設定範囲（P.144）	◯100～1600 100～3200
登録ボタンの機能（P.144）	◯撮影設定の登録 メニューのショートカット
カスタム設定リセット（P.145）	実行する

セットアップメニュー

🔧1	
モニター明るさ（P.146）	実行する
USB接続（P.147）	○マスストレージ PTP
ビデオ出力形式（P.147）	○NTSC PAL
ブザー音（P.148）	○あり なし
言語／Lang.（P.148）	○日本語／JPN English（英語） Deutsch（ドイツ語） Français（フランス語） Español（スペイン語） 中文／CHN（中国語） Italiano（イタリア語） Svenska（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ語）
日時設定（P.149）	実行する

🔧2	
ファイルNo.メモリー（P152）	あり ○なし
フォルダ形式（P.150）	○標準形式 日付形式
フォルダ選択（P.151）	○100KM023
フォルダ選択 新規作成（P.151）	実行する

○印は初期設定値です。

🔧3	
撮影情報表示（P.153）	1分 30秒 10秒 ○5秒
パワーセーブ（P.153）	30分 10分 5分 ○3分 1分
メニュー呼び出し先（P.154）	○先頭 前回位置
消去確認画面（P.154）	"はい"が先 ○"いいえ"が先
クリーニングモード（P.155）	実行する
設定値リセット（P.156）	実行する

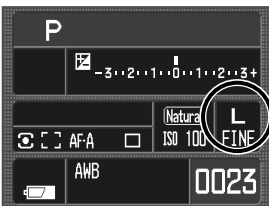
画像サイズ

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズL（3008×2000ピクセル）の場合、画像は横に3008、縦に2000に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセル、ドットといった単位で表されます。
画像をプリントする場合は、サイズが大きいほどきれいにプリントできますが、1枚あたりのファイルサイズ（データ量）が大きくなるので、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の3通りの中から選ぶことができます。

画像サイズ	説明
L 3008×2000	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、A5（210×148mm）～A3（420×297mm）程度の大きさにプリントする場合におすすめします。約600万画素の画像が撮影できます。
M 2256×1496	パソコンに取り込んで編集するときや、2L版（178×127mm）～A4（297×210mm）程度の大きさにプリントする場合におすすめします。約340万画素の画像が撮影できます。
S 1504×1000	ファイルサイズが小さいので、1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。L版（127×89mm）～A5（210×148mm）程度の大きさにプリントする場合におすすめします。約150万画素の画像が撮影できます。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpiの場合を指しています。
※画像サイズを変更した場合のファイルサイズと撮影コマ数について →P.100

P.92～93の要領で、希望の画像サイズを選びます。

MENU → 1 → 画像サイズ → 右へ → 希望のサイズ → ●実行 → MENU

● 画質（P.98）をRAWにすると、画像サイズはL: 3008×2000で固定されます。

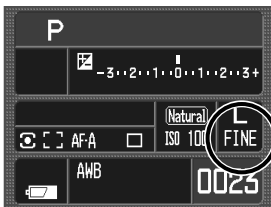
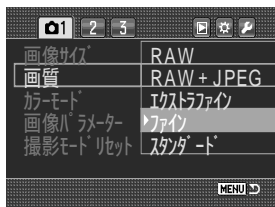
画質

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（P.100）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
このカメラでは、初期設定（ファイン、FINE）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。高画質になるほど1枚あたりのファイルサイズが大きくなるので、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画質を以下の5通りの中から選ぶことができます。

画質	液晶ﾓﾆﾀｰ	ファイル形式	説明
RAW	RAW	RAW （生データ）	より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。付属のディマージュビューアーCD-ROM内の DiMAGE Viewerで開くことができます。→詳細はP.99
RAW＋JPEG	RAW＋	RAW （生データ） ＋ JPEG （圧縮率小）	一度シャッターボタンを押すと、上記RAW画像と下記のJPEG画像（ファイン）が同時に作成されます。JPEG画像のサイズは撮影メニューの設定通り（P.97）です。閲覧用と編集用の両方の画像を作成したい場合や、RAWでの撮影時に拡大再生でピント確認等をしたい場合に便利です。
エクストラファイン	X.FINE	JPEG （圧縮率極小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えますが、画質は劣化します。 いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。 一般的な目安は以下の通りです。 画像加工用：エクストラファイン プリント用（A5程度以上）：エクストラファイン、ファイン プリント用（L版～2L版程度）：ファイン、スタンダード メール添付用：スタンダード
ファイン	FINE	JPEG （圧縮率小）	
スタンダード	STD.	JPEG （圧縮率中）	

※画質を変更した場合のファイルサイズと撮影コマ数について →P.100

P.92〜93の要領で、希望の画質を選びます。

MENU → 📷1 → 画質 → 右へ → 希望の画質 → ●実行 → MENU

- RAW設定時は、画像サイズは常にL: 3008×2000で固定されます。液晶モニターには画像サイズは表示されません。
- RAW＋JPEG設定時は、JPEG画像（ファイン）の画像サイズが表示されます。

RAWについて

デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。

このカメラで撮影したRAW画像はコニカミノルタ規格のRAW画像であり、これを開くには付属のDiMAGE Viewer（ディマージュビューアー）や、別売りのDiMAGE Masterなどが必要です。このソフトを使えば、RAWファイルを開いた後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換することも可能です。

RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

- 画像サイズは常に最大サイズ（L: 3008×2000）になります。
- 拡大再生やDPOF（プリント）指定はできません。
- ホワイトバランス、彩度、コントラスト等については、DiMAGE Viewerにて画像を表示させる際に再調整することができます。このカメラで撮影したRAW画像をDiMAGE Viewerで開ける場合、DiMAGE Viewerの使用説明書に記載されている画面とは設定項目が多少異なります（右図参照）。
- RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生やアフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

ファイルサイズと撮影コマ数

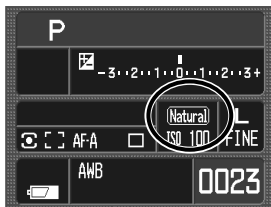
画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影コマ数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として256MBの1枚のCFカードに記録できる撮影コマ数は以下の通りです。
● 下記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

	ファイルサイズ			256MB CFカード使用時の撮影コマ数		
	L:3008x2000	M:2256x1496	S:1504x1000	L:3008x2000	M:2256x1496	S:1504x1000
スタンダード	1.8MB	1.0MB	540KB	約138コマ	約235コマ	約463コマ
ファイン	3.0MB	1.7MB	850KB	約81コマ	約141コマ	約292コマ
エクストラファイン	5.9MB	3.3MB	1.6MB	約41コマ	約72コマ	約157コマ
RAW+JPEG	11.5MB	10.2MB	9.3MB	約19コマ	約21コマ	約23コマ
RAW	8.6MB	—	—	約26コマ	—	—

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラル、ナチュラル+（プラス）、Adobe RGBの中から選ぶことができます。
● ゾーン切り替え（P.143）選択時は、カラーモードの設定はできません。

P.92～93の要領で、希望のカラーモードを選びます。

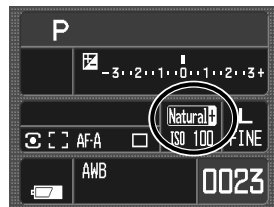
MENU → 1 → カラーモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ナチュラル（sRGB）

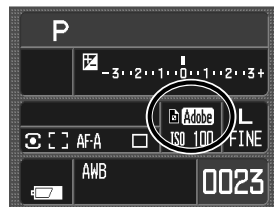
24bitの自然な色のカラー画像（sRGB※）として記録されます。初期設定はこの設定です。

※sRGB ＝ 平均的なモニターの特性を反映させた色空間。ホームページなどWeb表示用の画像を扱う場合に適しています。

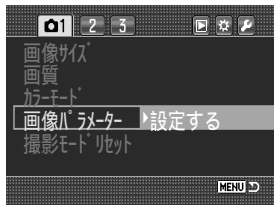
ナチュラル＋（sRGB）

ナチュラル＋（ナチュラルプラス）は24bitのカラー画像ですが、ナチュラルより締まりのある、質感と透明感のある画像が得られます。

※カラー写真参照 →P.2

Adobe RGB（ICC）

Adobe RGBは、ナチュラルやナチュラル＋のsRGBに比べて広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。
画像の表示やプリントには、DiMAGE Viewer等カラーマネジメントに対応したソフトをお使いください。

- このカラーモードで撮影した画像の表示、編集や加工、プリントには、付属のDiMAGE Viewer*や別売りのDiMAGE Masterなど、カラーマネジメントに対応したアプリケーションソフトをご利用ください。カラーマネジメント非対応のソフトでは、正しい色で表示やプリントができないことがあります。お持ちでない場合は、ナチュラルまたはナチュラル＋での撮影をおすすめします。
  *DiMAGE Viewerで、Adobe RGBで撮影したRAW画像を開くときは、Version 2.3.7以降をお使いください。それ以前のバージョンは α-7 DIGITALには対応していません。
- Adobe RGBを選択して、カラーマネジメントと埋め込まれたICCプロファイルの両方に対応しているソフトを使うと、最も正確な色情報が得られます。
  カラーマネジメント対応でもICCプロファイルに対応していないソフトの場合は、ソフト側で設定を行なう必要があります。詳しくはソフトの使用説明書をご覧ください。
- Adobe RGBで撮影すると、画像ファイル名には拡張子 ".JPE" が付きます。DPOF指定（P.128）はできません。

画像パラメーター

撮影する画像の各種パラメーター（コントラスト・彩度・シャープネス・色合い）を調整することができます。

1. P.92〜93の要領で、画像パラメーターを選びます。

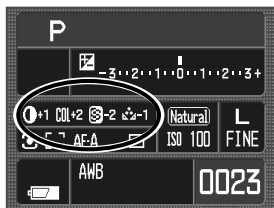
MENU → 1 → 画像パラメーター → 設定する → ●実行

2. 十字キー上下で、調整したい項目を選びます。

3. 十字キー左右で、希望の数値を選びます。

- ＋にすると強く、－にすると弱くなります。

4. 必要なだけ2、3の操作を繰り返します。

5. 設定が終われば十字キー中央の実行ボタンを押します。

- JPEG画像の場合、圧縮される前に調整が行われるので、ここで設定を行なうと、後でパソコンで加工するのと比べてより画像の劣化を押さえることができます。

コントラスト

コントラスト（明暗差）を調整します。＋側にするとコントラストが強くなり、メリハリの効いたくっきりした画像になります。－側にするとコントラストが弱くなり、白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

※カラー写真参照 →P.211

彩度

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。＋側にすると彩度が強くなり、鮮やかなくっきりした画像になります。－側にすると落ち着いた画像になります。

※カラー写真参照 →P.211

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。＋側にすると輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。－側にすると輪郭のやわらかな画像になります。

※カラー写真参照 →P.211

色合い

カラーホイールを少しずらし、色相の調整を行ないます。

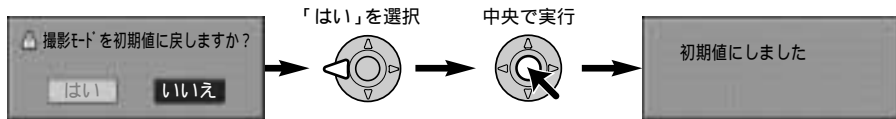
※カラー写真および詳しい説明について →P.211

撮影モードリセット

撮影モードリセットを行なうと、カメラの撮影モードの主な設定が初期設定に戻ります。

1. P.92〜93の要領で、撮影モードリセットを選びます。

MENU → 1 → 撮影モードリセット → 実行する → ●実行

2. 撮影モードリセットを実行します。

次ページへ続く

● 撮影モードリセットを実行すると、以下の項目が（　）の設定に戻ります。

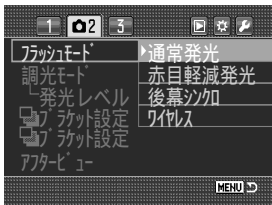
・ローカルフォーカスフレーム位置（中央）
・プリセットホワイトバランス（昼光±0）
・カスタムホワイトバランス番号（No.1）
・ホワイトバランス色温度設定（5500K）
・画像パラメーター（±0）
・フラッシュモード（通常または赤目軽減）
・調光モード（ADI調光）
・内蔵マニュアル発光レベル（1/1）
・定常光ブラケット設定（0.3段／3枚）
・フラッシュブラケット設定（0.3段／3枚）
・前後ダイヤルによる露出補正（±0）

※一覧表は →P.186

フラッシュモード

フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュの中から選ぶことができます。

P.92〜93の要領で、希望のフラッシュモードを選びます。

MENU → 📷2 → フラッシュモード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

● 撮影情報画面のフラッシュ表示は、フラッシュが上がっているとき（またはプログラムフラッシュON時）のみ現れます。

通常発光

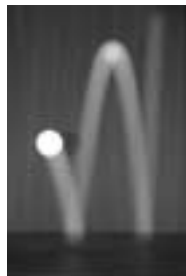
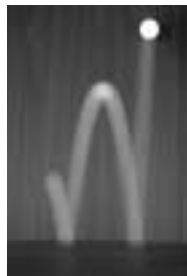
内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

- 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です（別売りのプログラムフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどないため）。

REAR 後幕シンクロ

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。

後幕シンクロ

通常発光

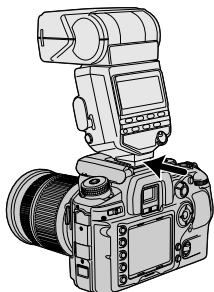
WL ワイヤレスフラッシュ

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）のいずれかが必要です。

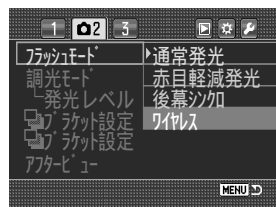
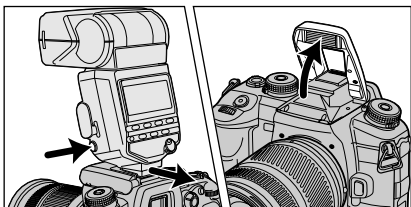
フラッシュをカメラに
取り付けて撮影（写真①）

ワイヤレスフラッシュ撮影
（写真②）

内蔵フラッシュで撮影したり別売りのフラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります（写真①）。このような場合にフラッシュをカメラから取り外して離して撮影すると（写真②）、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。
一般的にこのような撮影をする場合はカメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラではコードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス※フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

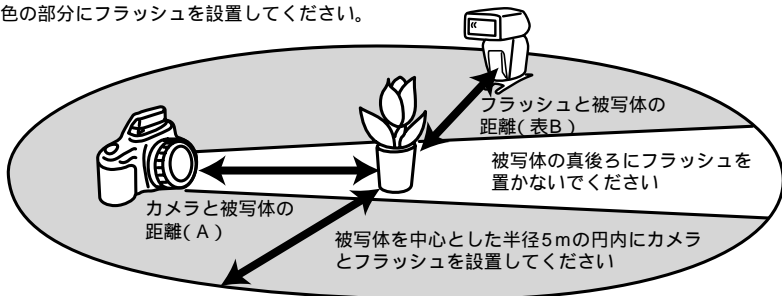
※ワイヤレス＝Wireless（コードのない、の意味）

1. フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源をONにします。
2. P.92〜93の要領で、ワイヤレスを選びます。

MENU → 📷2 → フラッシュモード → 右へ → ワイヤレス → ●実行 → MENU

● ファインダー内にWLが表示されます。

3. フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

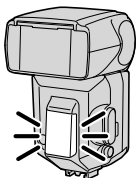
4. カメラとフラッシュの位置を決めます。

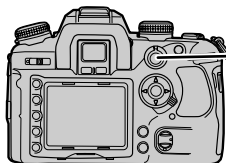
このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離したプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の灰色の部分にフラッシュを設置してください。

ワイヤレスフラッシュ調光距離（撮像感度 ISO 100時）

	カメラと被写体の距離（A）	フラッシュと被写体の距離（B）5600HS（D）使用時			フラッシュと被写体の距離（B）3600HS（D）使用時		
シャッター速度 / 絞り値	全シャッター速度	同調速度以下	1/250秒	1/1000秒	同調速度以下	1/250秒	1/1000秒
2.8	1.4－5m	1－5m	1－5m	1－2.5m	1－5m	1－4m	1－2m
4	1－5m	1－5m	1－3.5m	1－1.7m	1－5m	1－3m	1－1.5m
5.6	1－5m	1－5m	1－2.5m	1－1.2m	1－5m	1－2m	

- 同調速度は、手ぶれ補正ON時で1/125秒、OFF時で1/160秒です。
- ISO 400の場合は、遠い側が上記の値の2倍になります（上限は5mです）。

次ページへ続く

5. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

● 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ϟ が点灯すれば充電完了です。
● プログラムフラッシュは、背面の ϟ が点灯して前面の赤いランプが点滅すれば充電完了です。

6. カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

● 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えてください。

AEロックボタンの機能と操作を変更している場合

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、カスタムメニューのAEロックボタンの機能と操作（P.134）を、「押す間AEL」または「押す間スポットAEL」に設定しておくことをおすすめします。
ボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL／再押しスポットAEL）だと、ファインダーと液晶モニターにAELが点灯している間は、スローシンクロ撮影になります。またテスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。

7. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ワイヤレスフラッシュ撮影時は、撮影後ファインダー内の ϟ は点滅しません。

● ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。（カメラとフラッシュを別々に解除する、P.106の要領でフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス以外を設定する、のどちらの方法でも可能。）ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出は得られません。
● ワイヤレスフラッシュでも、ハイスピードシンクロ（HSS）撮影が可能です。→P.80

ワイヤレスフラッシュのチャンネルについて

P.106～107の方法でワイヤレスフラッシュを設定すると、設定すると同時にフラッシュのチャンネル情報がカメラに転送されます。撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。
チャンネルの変更は、5600HS（D）の場合はフラッシュ側のカスタム設定で、3600HS（D）の場合はワイヤレスフラッシュボタンを押し続けて行います。詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。チャンネルの変更後、再度フラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にすると、フラッシュのチャンネルがカメラに転送されます。

フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定にする

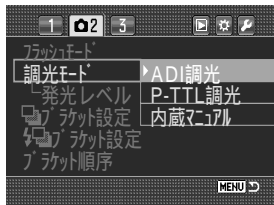
P.106～107ではフラッシュをカメラに取り付けて設定する方法を説明しましたが、いったんこの方法でワイヤレス設定を行なう（＝フラッシュのチャンネル情報をカメラに転送する）と、その後はカメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定することもできます。

カメラのワイヤレス設定
カメラの撮影モードメニューで設定する（P.106の要領で「フラッシュモード」→「ワイヤレス」を選択する）。

フラッシュのワイヤレス設定
5600HS（D）：モードボタンで［TTL］または［M］を表示させた後、セレクトボタンで［WL］を点滅させ、＋または－ボタンで［WL On］を選択、セレクトボタンで確定。
3600HS（D）：ワイヤレスフラッシュボタンを押して、WL CH1またはCH2のランプを点灯させる。
（フラッシュの操作方法については、詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。）

調光モード

フラッシュの調光モードを、ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光の中から選ぶことができます。

ADI ＝ Advanced Distance Integrationの略
P-TTL ＝ Pre-flash, Through the lensの略

P.92〜93の要領で、希望の調光モードを選びます。

MENU → 📷2 → 調光モード → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ADI調光

撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させてその反射光を測光、被写体までの距離情報も合わせて調光演算に反映するため、被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光が可能です。初期設定はADI調光です。

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（別売りのプログラムフラッシュでワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行なう場合や、マクロツインフラッシュ2400・マクロリングフラッシュ1200使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。
- プログラムフラッシュ2500（D）でADI調光を行なうには、このメニュー項目とフラッシュの調光モード切り替えスイッチの両方をADI調光に設定してください。

P-TTL調光

ADI調光と同じく、撮影の直前にプリ発光が行われますが、被写体までの距離情報は加味されません。以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、P-TTL調光に設定してください。

- プログラムフラッシュ3600HS（D）にワイドパネルを取り付けた場合
- プログラムフラッシュ2500（D）でバウンス撮影を行なう場合
- フラッシュ発光部にディフューザーを取り付けた場合
- 露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時
- クローズアップレンズ使用時

内蔵マニュアル発光

ADI調光やP-TTL調光では、被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、マニュアル発光にすると、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量を得ることができます（内蔵フラッシュでのみ可能）。

発光量は右の5つから選択することができます。プリ発光を行ないたくない場合や、日中シンクロ撮影*などの補助フラッシュ、スレーブフラッシュ撮影での信号光としてお使いください。**

*日中シンクロ撮影 ＝ 昼間の撮影で、太陽光を主としながら補助光としてフラッシュを発光させる撮影。

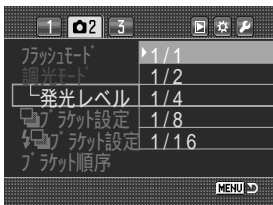
**スレーブフラッシュ撮影 ＝ 市販のスレーブユニットを使用、内蔵フラッシュ等を信号光として、他のフラッシュを発光させる撮影。

発光量	ｶﾞｲﾄﾞﾅﾝﾊﾞｰ (ISO 100、m)
1/1	約12
1/2	約8.5
1/4	約6
1/8	約4.2
1/16	約3

内蔵マニュアルの発光量の設定

内蔵マニュアル発光を設定後、P.92〜93の要領で内蔵マニュアル発光の発光レベルを選びます。

P.92〜93

MENU → 📷2 → 発光レベル → 右へ → 希望の発光量 → ●実行 → MENU

- ワイヤレスフラッシュ選択時は、内蔵マニュアル発光は設定できません。後からワイヤレスを選択すると、調光モードは自動的にADI調光になります。
- マニュアル発光ではフラッシュの発光量があらかじめ決められてしまうため、設定によっては適正露出が得られないことがあります。

ブラケット撮影の段数と枚数の変更

ブラケット撮影（P.64）で、ずらし段数と撮影枚数を変更することができます。段数は0.3段または0.5段、枚数は3枚または5枚が選べます。フラッシュが発光しない定常光ブラケット と、フラッシュが発光するフラッシュブラケット とそれぞれ別に設定します。

P.92〜93の要領で、希望のブラケット（ または ）と設定を選びます。

MENU → 2 → ブラケット設定 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

MENU → 2 → ブラケット設定 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

- ブラケット撮影を選択すると、液晶モニターの測光インジケーターに、設定した段数と枚数が反映されます。

ブラケット撮影の撮影順序

ブラケット撮影（P.64）で、撮影する順序が選べます。定常光ブラケット とフラッシュブラケット の両方に共通です。

P.92〜93の要領で、希望の順序を選びます。

MENU → 2 → ブラケット順序 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

0 → − → ＋

最もシャッターチャンスの大きい1枚目が最初に撮影されます。

撮影例：±0段 → −0.3段 → ＋0.3段 → −0.7段 → ＋0.7段

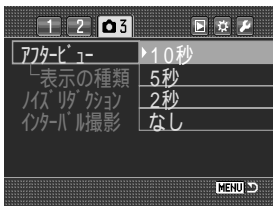
− → 0 → ＋

露出が暗い方から順に並びます。

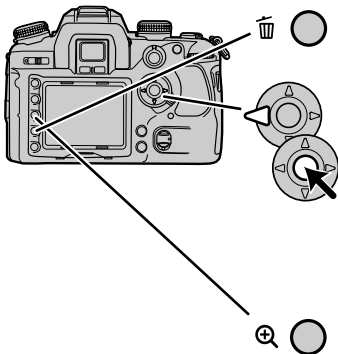
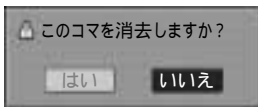
撮影例：−0.7段 → −0.3段 → ±0段 → ＋0.3段 → ＋0.7段

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。表示の種類を切り替えることもできます。

アフタービューの設定と時間

撮影後、設定した時間（10秒／5秒／2秒間）撮影した画像が液晶モニターに表示されます。
「なし」を選ぶとアフタービューは表示されません。

P.92〜93の要領で、希望の設定（時間）を選びます。

MENU → 3 → アフタービュー → 右へ → 希望の時間 → ●実行 → MENU

アフタービュー中に消去を行なうときは、消去ボタンを押してください。
下の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去できます。

アフタービュー画面

アフタービュー中に拡大ボタンを押すと、画像の拡大ができます。
→ 拡大再生、P.88

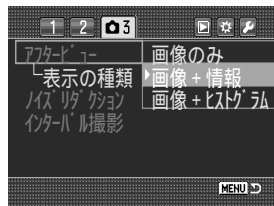
- 操作方法は拡大再生と同じですが、表示切り替えボタンで表示を消すことはできません。
- ローカルフォーカスフレームを選択していると、選んだフレームを中心に拡大されます。

次ページへ続く

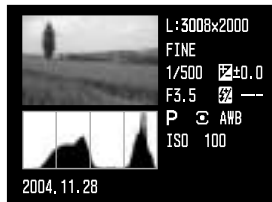
アフタービューの表示の種類

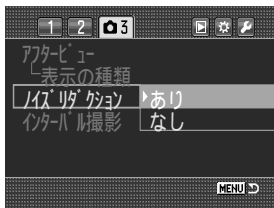
アフタービューの表示を、以下の3つから選ぶことができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定（表示）を選びます。

MENU → 📷3 → 表示の種類 → 右へ
→ 希望の表示 → ●実行 → MENU

画像のみ

画像＋情報

画像＋ヒストグラム

● 連続ブラケット撮影時にアフタービューありにすると、ここでの設定にかかわらず、常に6コマ表示のインデックス画面になります（ブラケット撮影一覧表示機能）。前ページの要領で消去すると、一連のコマがすべて消去されます。

ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が1秒以上の場合はノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズなどを低減させます。
このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

*リダクション ＝ Reduction（低減、削減）

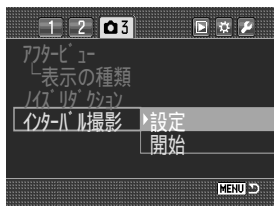
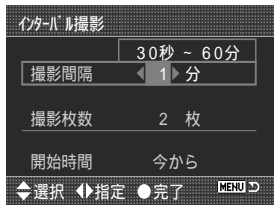
P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 3 → ノイズリダクション → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

- ノイズリダクションが「あり」の状態で1秒以上の撮影を行なうと、撮影後最長30秒間ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。この間、液晶モニターには「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。終了するまで次の撮影はできません。
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理が行われません。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利ですが、ノイズが目立ちやすくなるので、長時間露光時にはノイズリダクション「あり」をおすすめします。
- 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、ここでの設定にかかわらずノイズリダクションは行なわれません。

インターバル撮影

一定時間ごとに自動的に撮影が行われます。撮影間隔は30秒〜60分、撮影枚数は2〜240枚、開始時刻は0〜24時間後の中から選ぶことができます。花が開いていく様子の撮影など、定点観測に便利です。

インターバル設定

1. P.92〜93の要領で、インターバル設定を選びます。

2. 十字キーの上下または前ダイヤルで、設定したい項目（撮影間隔・枚数・開始時間）を選びます。

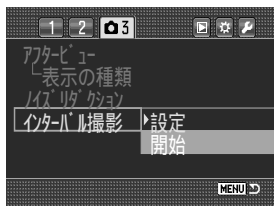
3. 十字キー左右または後ダイヤルで、希望の数値を選びます。

- 以下の範囲内で設定することができます。
  撮影間隔：30秒、1〜10、15、20、30、45、60分
  撮影枚数：2〜240枚
  撮影開始時間：0〜24時間後（30分刻み）
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

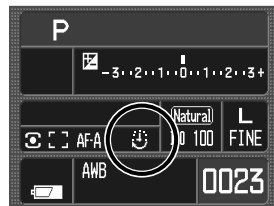
4. 必要なだけ2、3の操作を繰り返します。

5. 設定が終われば十字キー中央の実行ボタンを押します。

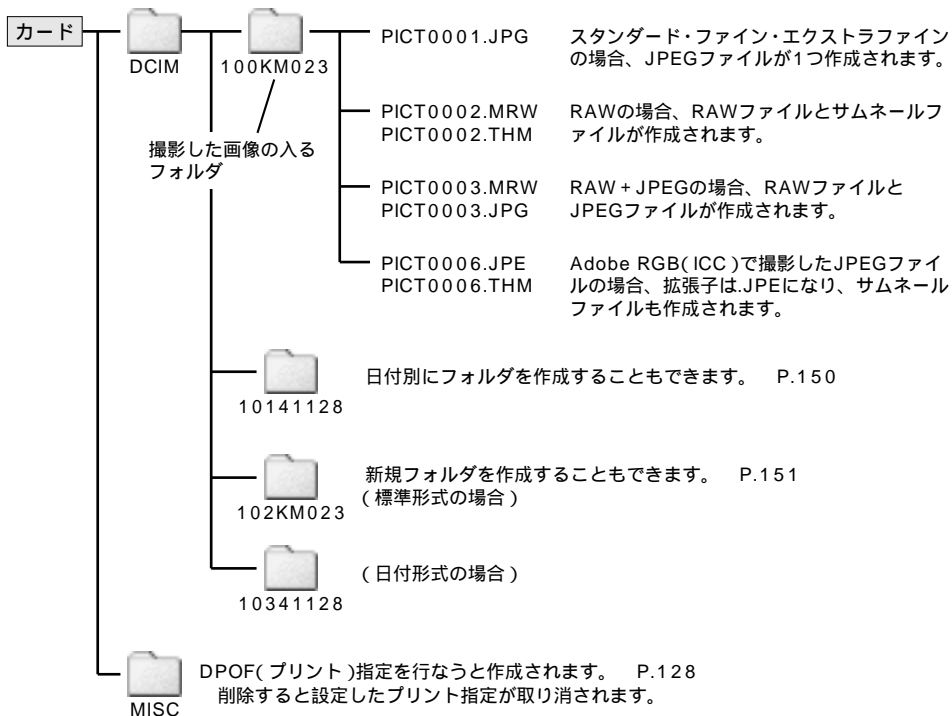
6. メニューボタンを押してメニュー画面を消します。

インターバル撮影

1. P.92～93の要領で、インターバル撮影を選びます。

MENU → 3 → インターバル撮影 → 右へ → 開始 → ●実行

2. ピントが合っているのを確認し、シャッターボタンを押してインターバル撮影を開始します。

- 設定した撮影開始時間後に1枚目の撮影が行われます。撮影開始時間を「今から」(0時間)にしていると、シャッターボタンを押すと同時に1枚目の撮影が行われます。その後は設定された撮影間隔ごとに撮影が行われ、設定された枚数分が終わると撮影は終了します。
- 各撮影の直前に、オートフォーカスの作動やフラッシュ充電など撮影に必要な準備が始まります。
- インターバル中にメインスイッチまたはシャッターボタンを押したり、カードの空きがなくなったりすると、インターバルは途中で終了します。
- 撮影が長時間になるとき、枚数が多いとき、フラッシュ撮影を行なう場合は、ACアダプターの使用をおすすめします。
- カードの種類や撮影条件等により、撮影間隔は若干変動することがあります。

フォルダとファイルの構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに保存されます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

カードとフォルダ

画像を撮影すると、画像ファイルが "100KM023" 等のフォルダに保存されます。新規にフォルダを作成すると、フォルダが2つに増えます。フォルダが1枚のカードに複数存在する場合、再生・消去などの際に、カード内すべての画像を対象にするのか、ある特定のフォルダの画像を対象にするのかを選ぶことができます。

フォルダ名

例： 100 KM 023

フォルダ番号
(100〜)

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋KM＋023、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。続く "KM" はコニカミノルタを、"023" はこのカメラ（α-7 DIGITAL）を意味します。日付別にフォルダを自動的に作成したり（P.150）、新規フォルダを作成したり（P.151）することもできます。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.157〜）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.122）。

ファイル名

例： PICT 0001 .JPG

ファイル番号
(0001〜)

拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

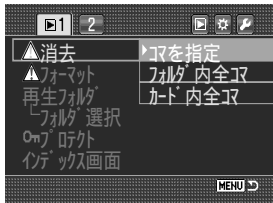
- カメラでフォルダ内の最新画像以外を消去すると、消去した画像のファイル番号は欠番となります。
- フォルダ内の画像をすべて消去したり、フォルダを変更したりすると、ファイル番号は再び0001から始まります。 ※続き番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.152
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "104KM023" ）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

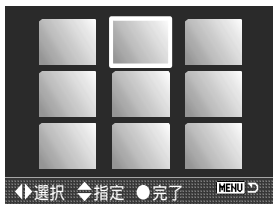
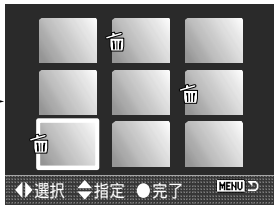
画像の消去

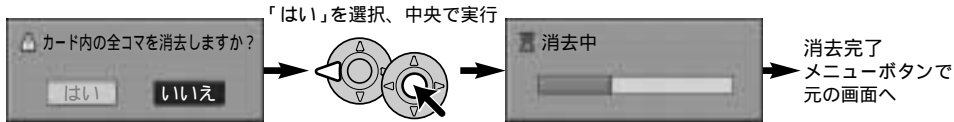
画像を消去します。再生メニューによる消去方法には、以下の3通りがあります。

コマを指定：　指定した画像だけを消去します。
フォルダ内全コマ：指定したフォルダ内の画像すべてを消去します。
（再生フォルダの選択で、指定フォルダを選んだときのみ有効です。→P.123）
カード内全コマ：　カード内の画像すべてを消去します。

※1コマずつ手早く消去するには、消去ボタンをお使いください。→P.36

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. P.92～93の要領で、希望の消去方法を選びます。

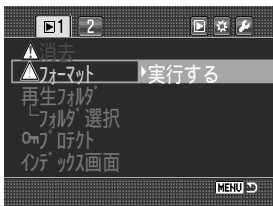
2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. 確認後、消去します。（下図はカード内全コマ消去の場合）

上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.124

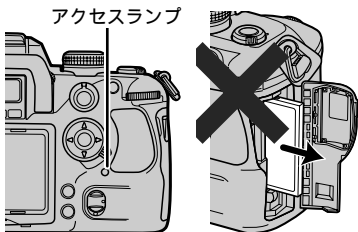
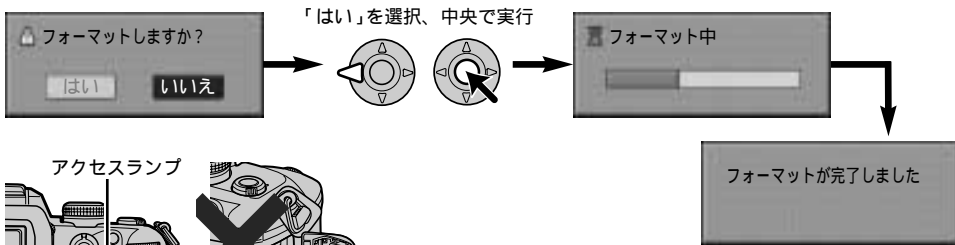
● 3の画面で、「はい」を常に先に選択した状態にすることもできます。
→P.154

CFカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、CF（コンパクトフラッシュ）カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. P.92〜93の要領で、フォーマットを選びます。

MENU → ▶1 → フォーマット → 実行する → ●実行

2. 十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。
● カードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。

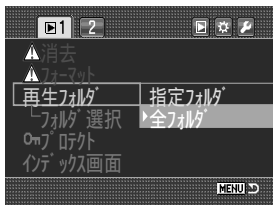
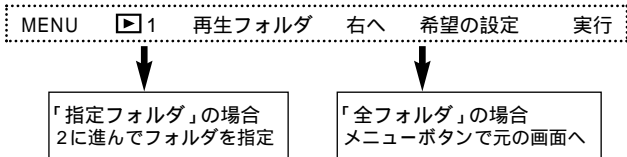
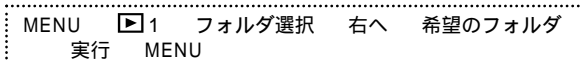
● カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、フォーマットの形式によってはカードが使えなくなることがあります。

再生フォルダの選択

初期設定では、撮影された画像はフォルダに関係なく、すべて再生されます。すべての画像でなく、ある特定のフォルダ内の画像だけを選んで再生することもできます。

指定フォルダ：　指定したフォルダ内の画像だけを再生します。
全フォルダ：　　すべてのフォルダ内の画像を再生します（初期設定）。

● 消去やプロテクトなどで「フォルダ内全コマ」を選択する場合、あらかじめ「指定フォルダ」にしておく必要があります。

※フォルダやファイルについて →P.118

1. P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

2.「指定フォルダ」の場合、希望のフォルダを選びます。

● ここで選んだ再生フォルダは、その時に限り有効です。いったん撮影モードに切り替えると、選んだ再生フォルダは解除され、それまで撮影していたフォルダに戻ります。

※撮影フォルダを選択するときは →撮影フォルダの選択、P.151

プロテクト（誤消去防止）

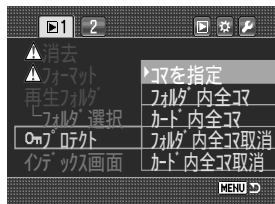
撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の5通りのプロテクト方法と解除方法があります。

コマを指定：　指定した画像だけにプロテクトをかけます。
プロテクトを取り消す場合にも使用できます。

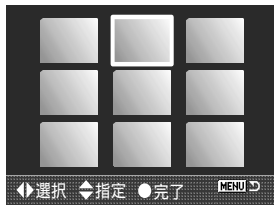
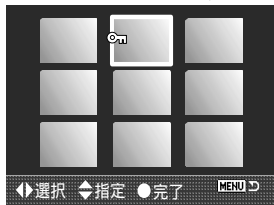
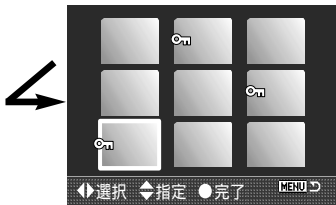
フォルダ内全コマ：　指定したフォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
（再生フォルダの選択で、指定フォルダを選んだときのみ有効です。→P.123）

カード内全コマ：　カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

ﾌｫﾙﾀﾞ内全ｺﾏ取り消し：指定したフォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。
（再生フォルダの選択で、指定フォルダを選んだときのみ有効です。→P.123）

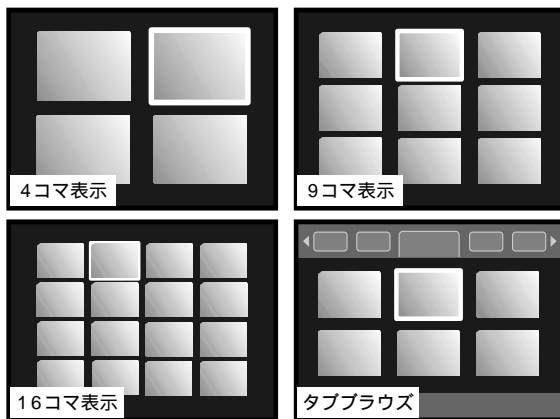
ｶｰﾄﾞ内全ｺﾏ取り消し：　カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1. P.92～93の要領で、希望のプロテクト方法を選びます。

● プロテクトのかかった画像には、再生時に 🔑 が表示されます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

インデックス画面の切り替え

インデックス画面（P.85）に表示される画像の数を、4コマ、9コマ、16コマの中から選ぶことができます。また、フォルダごとに画像が再生できるタブブラウズも選択できます。

- 4コマ／9コマ／16コマ表示の場合、再生フォルダの選択で設定したフォルダの画像が再生されます。→P.123
- タブブラウズの場合、再生フォルダの選択での設定とは関係なく、全フォルダの画像が再生されます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ▶1 → インデックス画面 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

タブブラウズ

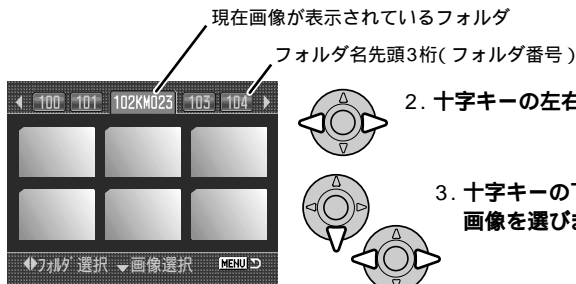
フォルダごとに画像を管理している場合、インデックス画面をタブブラウズにしておくと便利です。

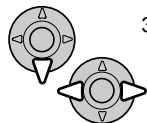
十字キーの左右で、同一フォルダ内の他の画像に移動することができます。

他のフォルダの画像を見るには

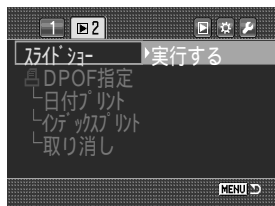
1. 十字キーの上でフォルダ名を反転させます。

現在画像が表示されているフォルダ

フォルダ名先頭3桁（フォルダ番号）

2. 十字キーの左右で希望のフォルダを選びます。

3. 十字キーの下で画像領域に移動し、左右で希望の画像を選びます。

スライドショー（画像の自動再生）

撮影した画像を、5秒ずつ順番に表示させることができます。

● 再生フォルダの選択（P.123）で設定したフォルダの画像が再生されます。

1. P.92～93の要領で、スライドショーを開始します。

MENU → ▶2 → スライドショー → 実行する → ●実行

● スライドショーが開始されます。

スライドショー再生中の操作

十字キー左でコマ戻し

十字キー右でコマ送り

十字キー中央で一時停止と再生開始の繰り返し

撮影データあり／なしの切り替え

2. スライドショーを終えるときは、十字キーの下側またはメニューボタンを押します。

● 元の再生モードに戻ります。繰り返しはできません。

DPOF（プリント）指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

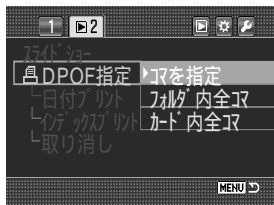
● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

DPOF指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

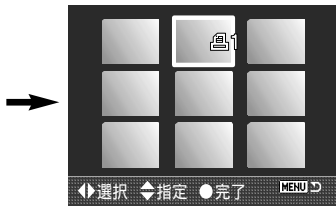
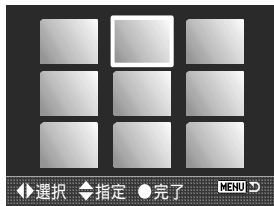
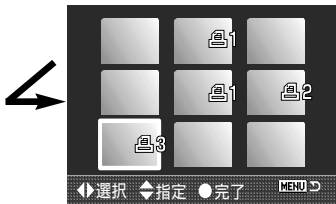
コマを指定：　指定した画像だけをプリントします。
フォルダ内全コマ：指定したフォルダ内の画像すべてをプリントします。
（再生フォルダの選択で、指定フォルダを選んだときのみ有効です。→P.123）
カード内全コマ：　カード内の画像すべてをプリントします。

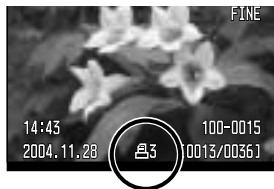
● RAW画像およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像にはDPOF指定はできません。

1. P.92〜93の要領で、希望のDPOF指定方法を選びます。

「フォルダ内全コマ」「カード内全コマ」の場合

● 全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでDPOF指定するコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

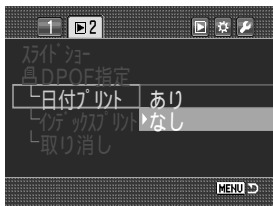
● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。

DPOF指定したコマには が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。

● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

● 再生時、DPOF指定された画像には、 と枚数が表示されます。

● 他のデジタルカメラでDPOF指定したカードをこのカメラに入れ、新たに指定を行なうと、他のカメラでの指定はキャンセルされます。

日付プリント

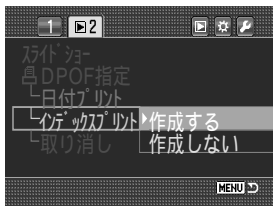
プリントする際に、プリンタ側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）は、お使いのプリンタによって異なります。

- プリントされるのは年月日だけです。時刻は入りません。
- プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ▶2 → 日付プリント → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの作成を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

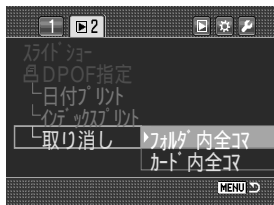
- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。RAW画像やAdobe RGBで撮影した画像は、インデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

P.92～93の要領で、作成する／しないを選びます。

MENU → ▶2 → インデックスプリント → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

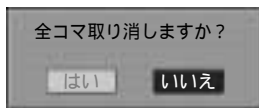
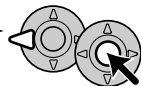
DPOF指定の取り消し

P.128～129で指定したDPOF指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。DPOF印刷後もDPOF指定は残ったままなので、いったん取り消されることをおすすめします。

フォルダ内全コマ： フォルダ内のすべての画像のDPOF指定を取り消します。
（再生フォルダの選択で、指定フォルダを選んだときのみ有効です。→P.123）

カード内全コマ： CFカード内のすべての画像のDPOF指定を取り消します。

1. P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ▶2 → 取り消し → 右へ → 希望の設定 → ●実行

2. 十字キーでDPOF指定の取り消しを行ないます。

取り消し完了
メニューボタンで
元の画面へ

デジカメで撮影した画像のプリント方法

①ご自分のプリンタで印刷する
画像をパソコンに取り込んで、そこから印刷する方法です。PictBridge対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属のUSBケーブルで接続してプリントすることもできます。→P.176～

②ネットプリントを利用する
インターネットでプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントのほかに、「オンラインアルバム」「オンラインDVDサービス」などさまざまなサービスをご用意しております。

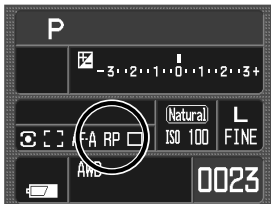
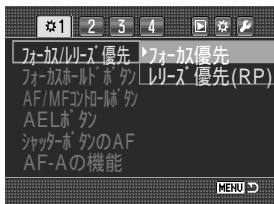
③ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する
カードを、ご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

オートフォーカス優先／レリーズ優先

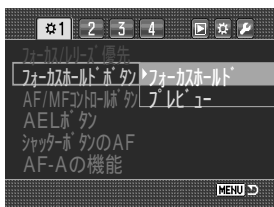
初期設定のオートフォーカス優先では、ピントが合わなければシャッターは切れません。シャッターチャンスを優先したい場合は、レリーズ優先（RP*）にすると、ピントが合わなくてもシャッターを切ることができます。

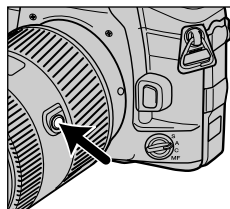
*RP＝Release Priority（レリーズ優先）の略

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼1 → フォーカス／レリーズ優先 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

● レリーズ優先にすると、撮影情報画面に"RP" が表示されます。ファインダー内でピントが合うのを確認してから撮影することをおすすめします。

フォーカスホールドボタンの機能

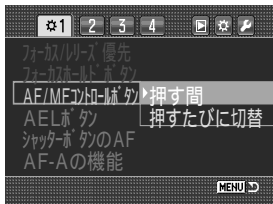
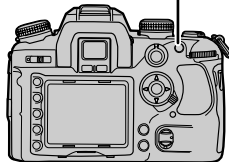
フォーカスホールドボタンの付いたレンズをお使いの場合、そのボタンの機能をプレビューボタンに変更することができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼1 → フォーカスホールドボタン → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

フォーカスホールドボタン

● プレビューに設定した場合、フォーカスホールドボタンがプレビューボタンとして使えます。操作方法は同じですが、Dレンズ（名称に（D）の付いているレンズ）以外をお使いの場合は、シャッターボタンを半押し等でファインダー内に測光値を表示させた状態で、フォーカスホールドボタンを押してください。

※プレビューについて →P.75

AF/MFコントロールボタンの操作方法

AF/MFコントロールボタンの操作方法を変更し、ボタンを押し続けている間機能するか、押していったん手を離せるかを選ぶことができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼1 → AF/MFコントロールボタン → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

※AF/MFコントロールボタン →P.49

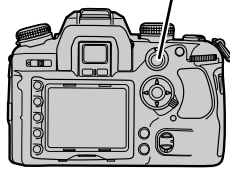
設定内容	オートフォーカス時	マニュアルフォーカス時
押す間（押している間だけ機能する）	ボタンを押している間のみマニュアルフォーカスが可能です。ボタンを押したままレンズのフォーカスリングを回して、ピントを合わせてください。	ボタンを押すとオートフォーカスが起動し、押している間はピントが固定されます。ボタンから手を離すとマニュアルフォーカスに戻り、レンズのフォーカスリングを回してピント位置を変えることができます。
押すたびに切り替え（一度ボタンを押すと機能し、再度押すと解除）	AF/MFコントロールボタンを一度押して離すと、一時的にマニュアルフォーカスになります。もう一度ボタンを押すとオートフォーカスに戻ります。ボタンを押し続ける必要はありません。	AF/MFコントロールボタンを押すとオートフォーカスが起動し、手を離しても一時的にオートフォーカスのままの状態が続きます。もう一度ボタンを押すとマニュアルフォーカスに戻ります。

- フォーカスモードを切り替えたりメインスイッチをOFFにしたりすると、AF/MFコントロールボタンで一時的に選んだマニュアルフォーカスまたはオートフォーカスは解除されます。
- マニュアルフォーカス中は、ファインダー内に MF が点灯します。

AEロックボタンの機能と操作方法

AEロックボタンの機能と操作方法を変更することができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

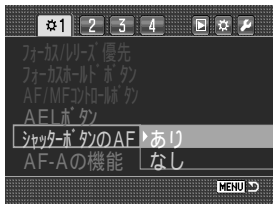
MENU → ☼1 → AELボタン → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

※AEロックボタン →P.70

AEロックボタンの機能には、測光モードにかかわらず測光値（シャッター速度と絞り値）をロックする「AEL*」、一時的にスポット測光になってその測光値をロックする「スポットAEL」の2つがあります。操作方法には、押している間だけ機能する「押す間」、一度押して機能・再度押して解除という「再押し」の2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

押す間AEL（初期設定）	押し続けている間、選択されている測光モードでその時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
再押しAEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでその時の測光値がロック、再度押すと解除	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
押す間スポットAEL	押し続けている間、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。通常は14分割ハニカムパターンまたは中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。
再押しスポットAEL	一度押して放すと、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック。再度押すと解除。	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。通常は14分割ハニカムパターンまたは中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。

*AE＝Auto Exposure（自動露出）、L＝Lock（ロック、固定）の略

● 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内にAELが点灯します。特に再押しを選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
● P／Aモードのフラッシュ発光時は、AEロックでなくスローシンクロ撮影になります。→P.73
● ここでの設定は、Mモードでのマニュアルシフト（P.57）にも影響します。

シャッターボタン半押しによるAF

シャッターボタンの半押しによりオートフォーカスが作動しますが、それを解除することもできます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼1 → シャッターボタンのAF → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

●「なし」を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもオートフォーカスは作動しません。ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンでピント合わせを行なってください。ピントが合っていなくてもシャッターは切れます。同じピント位置で撮影を続ける場合に便利です。

フォーカスモードレバーAF-Aの機能（ダイレクトマニュアルフォーカス）

フォーカスモードレバーA（AF-A）の位置には、初期設定ではAF制御自動切り替えが割り当てられています。この機能をダイレクトマニュアルフォーカス（DMF*）に変更することができます。

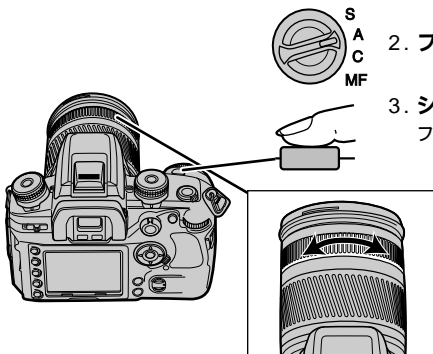
*DMF＝Direct Manual Focus の略

※AF制御自動切り替え →P.47

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼1 → AF-Aの機能 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ダイレクトマニュアルフォーカス

オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合などに便利です。

1. 上記の要領で、DMFを設定します。

2. フォーカスモードレバーをA位置に合わせます。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

● ファインダー内に MF が点灯します。

4. シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整します。

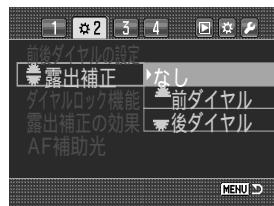
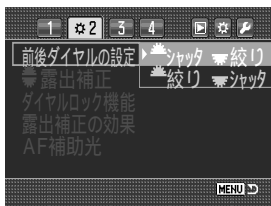
5. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

● シャッターボタンから指を離すと、次に半押しした時に再度ピント合わせが行われます。

前後ダイヤルの設定

前後ダイヤルの機能や操作方法を変更することができます。

前後ダイヤルの入れ替えと露出補正

初期設定では、プログラムシフトやMモードでは、前ダイヤルでシャッター速度、後ダイヤルで絞り値を設定します。この機能を前／後ダイヤルで入れ替えたり、片方のダイヤルに露出補正を割り当てたりすることができます。

P.92～93の要領で、希望の項目と設定を選びます。

：前ダイヤル
：後ダイヤル

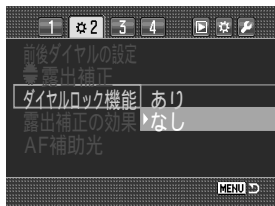
MENU → 2 → 前後ダイヤルの設定 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

MENU → 2 → 露出補正 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

前後ダイヤル設定	ダイヤルによる露出補正	Pモード	Aモード	Sモード	Mモード
シャッター 絞り （初期設定）	なし （初期設定）	前ダイヤルでPs 後ダイヤルでPA	前後ダイヤルで 絞り値設定	前後ダイヤルで シャッター速度設定	前ダイヤルで シャッター速度設定 後ダイヤルで 絞り値設定
	前ダイヤル	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルでPA	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで絞り値	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで シャッター速度	
	後ダイヤル	前ダイヤルでPs 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで絞り値 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで シャッター速度 後ダイヤルで露出補正	
絞り シャッター	なし	後ダイヤルでPA 前ダイヤルでPs	前後ダイヤルで 絞り値設定	前後ダイヤルで シャッター速度設定	前ダイヤルで 絞り値設定 後ダイヤルで シャッター速度設定
	前ダイヤル	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルでPs	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで絞り値	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで シャッター速度	
	後ダイヤル	前ダイヤルでPA 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで絞り値 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで シャッター速度 後ダイヤルで露出補正	

次ページへ続く

● 前後ダイヤルで露出補正を行なう場合、露出補正ダイヤルは0位置でお使いください。

前後ダイヤルロック機能

カメラを持ち運びするときなど、誤ってダイヤルを回して設定が変わるのを防ぐため、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されている間のみダイヤルが機能するようにすることができます。

● 初期設定はダイヤルロック機能なしで、前後ダイヤルは常に操作することができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

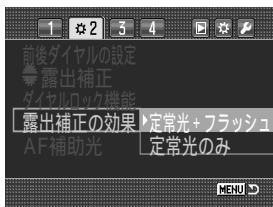
MENU → ☼2 → ダイヤルロック機能 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ダイヤルロック機能 あり

シャッターボタン半押し等により、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されている間の数秒間（測光時）*のみ、ダイヤル操作が可能です。

* 初期設定は5秒ですが、変更できます。→撮影情報画面の点灯時間、P.153

● シャッター速度と絞り値の設定以外（ホワイトバランスや登録の設定など）は、ダイヤルはロックされず、常に操作することができます。
● Mモードでは常にシャッター速度と絞り値が表示されますが、シャッターボタン半押し等で測光しない限り、ダイヤルはロックされています。

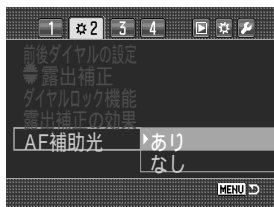
露出補正の効果

初期設定では、フラッシュ発光時に露出補正をかけると、シャッター速度、絞り値、撮像感度（オート時のみ）、フラッシュ発光量のすべてが変化して露出補正を行ないます。これを、フラッシュ発光量を一定にして、定常光（フラッシ以外の光）で照射されている背景だけに、露出補正の効果を出すことができます。

※露出補正 →P.40

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼2 → 露出補正の効果 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

フラッシュ発光時の露出補正／調光補正一覧

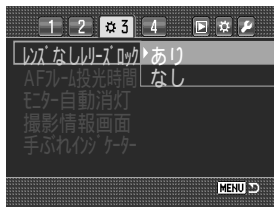
補正内容	変化するもの	変化しないもの	結果
露出補正 定常光＋フラッシュ （初期設定）	シャッター速度 絞り値 撮像感度（オート時のみ） フラッシュ発光量	—	定常光範囲（フラッシュ光の届かない背景）とフラッシュ光の届く範囲の両方に補正がかかります。
露出補正 定常光のみ	シャッター速度 絞り値 撮像感度（オート時のみ）	フラッシュ発光量	フラッシュ光の届く範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届かない定常光範囲（背景）にのみ補正をかけることができます。
（参考） 調光補正 →P.41	フラッシュ発光量	シャッター速度 絞り値 撮像感度（オート時のみ）	フラッシュ光の届かない定常光範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届く範囲にのみ補正をかけることができます。

AF補助光

暗いところでフラッシュ撮影をすると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュ光が発光することがあります。これはオートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。このAF補助光の有無を設定することができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼2 → AF補助光 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

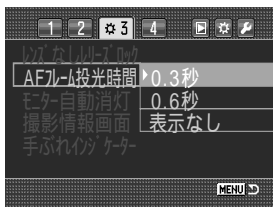
● AF補助光をなしにすると、プログラムフラッシュのAF補助光も発光しません。

レンズ未装着時のレリーズロック機能

初期設定では、レンズが取り付けられていなければシャッターは切れません。カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合などは、この機能を解除すると、シャッターが切れるようになります。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼3 → レンズなしレリーズロック → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

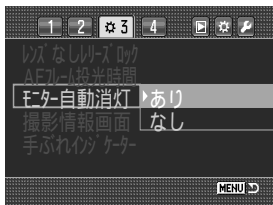
● コニカミノルタAFレンズをお使いの場合は、誤操作防止とカメラ内部へのホコリ付着防止のため、レリーズロックありでお使いになることをおすすめします。

AFフレーム投光時間

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。その点灯時間を変更したり、点灯しないようにすることができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼3 → AFフレーム投光時間 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

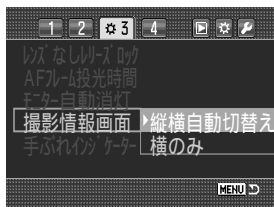
● 表示なしにした場合は、ダイレクトフォーカスフレームセレクターやスポットAFボタンを押したときだけ、ローカルフォーカスフレームが点灯します。

液晶モニターの自動消灯

ファインダーのすぐ下にはアイセンサーがあり、撮影者がファインダーを覗いているかどうかを検知します。ファインダーを覗いている間（＝アイセンサーが近くの物体を検知している間）は、初期設定では液晶モニターの撮影情報画面は消灯します。自動消灯機能をなくして、ずっと点灯させておくこともできます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

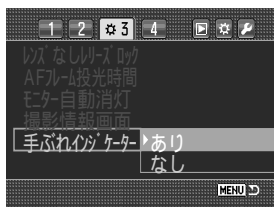
MENU → ☼3 → モニター自動消灯 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

● ここでの設定にかかわらず、一定時間（初期設定では5秒）を過ぎると、撮影情報画面は消灯します。→P.22、153

撮影情報画面の縦横切り替え

カメラを縦位置に構えると、自動的に表示が縦画面に切り替わります。この縦画面を出さないようにすることができます。

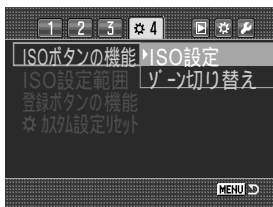
P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → ☼3 → 撮影情報画面 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

手ぶれインジケーター表示

手ぶれ補正スイッチをONにすると、ファインダー右側に手ぶれ補正インジケーターが点灯します。これを出さないようにすることができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

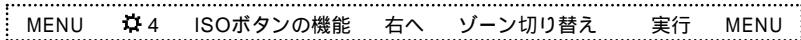
MENU → ☼3 → 手ぶれインジケーター → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ISOボタンの機能（ゾーン切り替え）

ISOボタンでは、通常は撮像感度を設定します（P.72）。これをゾーン切り替えに変更することができます。高輝度域または低輝度域の階調を広げた撮影を行ないます。RAW画像でも有効です。

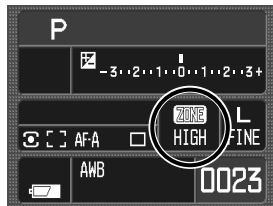
● ゾーン切り替えを設定した場合、カラーモードの選択および画像パラメーターのコントラストの調整はできません（カラーモードは常にナチュラル）。撮像感度は、HIGH（高）ではISO 250、LOW（低）ではISO 100で固定されます。

※カラー写真参照 →P.2

1. P.92～93の要領で、ゾーン切り替えを選びます。

MENU → ☼4 → ISOボタンの機能 → 右へ → ゾーン切り替え → ●実行 → MENU

2. ISOボタンを押します。

3. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、HIGH または LOW を選びます。

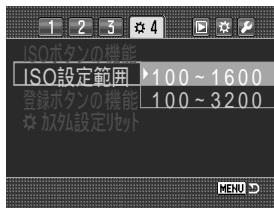
4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

HIGH（高輝度域の階調を広げる）

画面に明るい高輝度域が多く存在し、通常撮影だと白飛びが生じる場合に使用します。ややアンダー側で撮影して高輝度域の階調を広げ、同時にトーンカーブ*を持ち上げて画像を明るくし、結果として適正露出で高輝度域の階調が出るような制御を行ないます。
トーンカーブを持ち上げる際にノイズが増幅されることがあります。低輝度域の少ない画像での使用をおすすめします。

*トーンカーブ ＝ 画像の入力に対する出力の濃度を表したカーブ。中間調のみ明るくするなど、通常の補正よりもきめ細かい調整が可能。

LOW（低輝度域の階調を広げる）

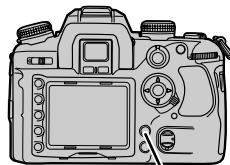
暗い低輝度域ではノイズが目立ちやすくなるので、画面に低輝度域が多く存在する場合におすすめです。ややオーバー側で撮影して低輝度域の階調を広げ、同時にトーンカーブを押し下げて画像を暗くし、結果として適正露出で低輝度域の階調が出るような制御を行ないます。
高輝度域の階調が制限されるため、白飛びが起こりやすくなります。高輝度域の少ない画像での使用をおすすめします。

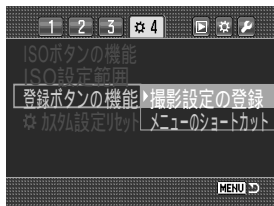
ISO設定範囲

撮像感度（P.72）の設定範囲は、通常は ISO 100～1600です。さらに感度を上げたい場合、これを ISO 3200までの範囲に広げることができます。

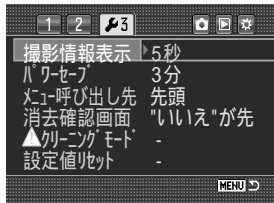
P.92～93の要領で、希望の設定範囲を選びます。

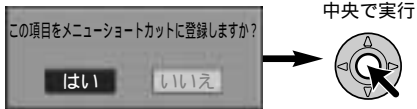
MENU → ☼4 → ISO設定範囲 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

登録設定ボタンの機能（メニューのショートカット）

登録設定ボタンは、初期設定では新規登録用に使用します。この機能を変更し、このボタンに希望のメニュー項目を割り当てて、押せばすぐにそのメニューが出てくるようにすることもできます（メニューのショートカット）。特定のメニューを頻繁に使用される場合に便利です。

登録設定ボタン MSET

ショートカットを設定する

1. P.92～93の要領で、メニューのショートカットを選びます。

MENU → ☼4 → 登録ボタンの機能 → 右へ → メニューのショートカット → ●実行

2. 希望のメニュー項目を表示させます。（左図の例：撮影情報表示の場合）

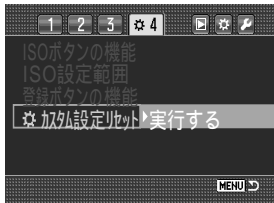
3. 登録設定ボタンを押します。

ショートカットを呼び出す

MSET

メニュー画面が表示されていない状態で、登録設定ボタンを押します。

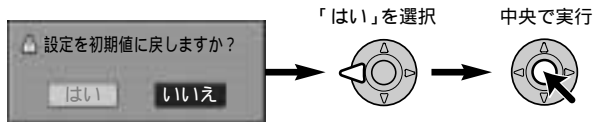
● 前ページで割り当てたメニューが呼び出されます。

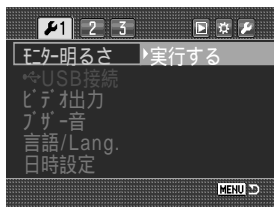
● 2回目以降のショートカットの設定は、前ページの2、3のみで行なうことができます。
● ショートカット設定中は、登録機能の新規登録はできません。新規登録する場合は、いったんショートカットを解除して、［撮影設定の登録］に戻してください。

カスタム設定リセット

4種のメニューのうち、カスタムメニューだけを初期設定値にリセットすることができます。

1. P.92～93の要領で、リセットを実行します。

MENU → ☼4 → カスタム設定リセット → 実行する → ●実行

2. 十字キーでリセットを行ないます。

● リセットされる内容については、P.95をご覧ください。

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

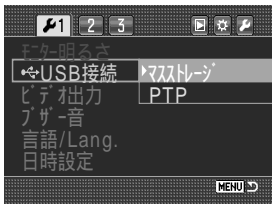
1. P.92〜93の要領で、モニター明るさ設定を選びます。

2. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、モニターの明るさを調整します。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

USB接続の種類

カメラをUSBケーブルでパソコン等に接続する際の、接続の種類を選ぶことができます。

マスストレージ	カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む時に使用します。 カメラがUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。
PTP*	撮影した画像をPictBridge対応のプリンタで印刷する場合や、その他のPTP対応機器に転送する場合に使用します。 ※PictBridge対応のプリンタでの印刷方法について →P.176 *PTP ＝ Picture Transfer Protocolの略。画像ファイルの転送における通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 1 → USB接続 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

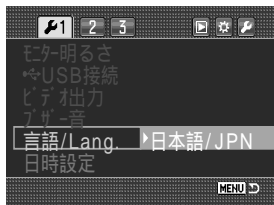
MENU → 1 → ビデオ出力 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

ブザー音の設定

ピントが合ったときやセルフタイマー作動時には、カメラからブザー音が出ます。その有無を切り替えることができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 🔧1 → ブザー音 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

言語設定

液晶モニターやファインダーに表示される言語を、8カ国語の中から選ぶことができます。

1. P.92～93の要領で、言語設定を選びます。

MENU → 🔧1 → 言語/Lang. → 現在の言語 → ●実行

2. 十字キーで希望の言語を選びます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 選べる言語は以下の通りです。

・日本語
・英語（English）
・ドイツ語（Deutsch）
・フランス語（Français）
・スペイン語（Español）
・中国語（中文）
・イタリア語（Italiano）
・スウェーデン語（Svenska）

日時設定

日時や年月日の並び順の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

1. P.92～93の要領で、日時設定を選びます。

MENU → 1 → 日時設定 → 実行する → ●実行

2. 十字キーで、日時と年月日の並び順を設定します。

左右または
後ダイヤルで
項目を選択

上下または
前ダイヤルで
数値を選択

必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。
- メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

※日時がリセットされる場合は →P.198

フォルダとファイルの設定変更

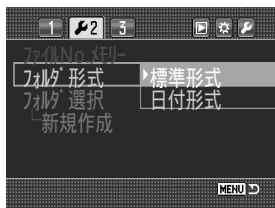
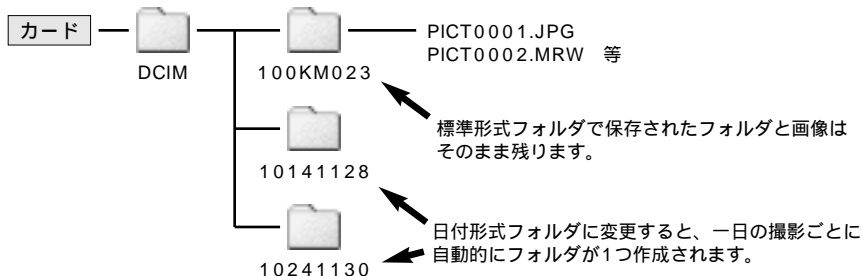
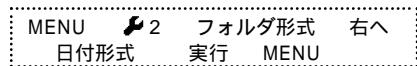
画像を1コマ撮影すると、1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに保存されます。ファイルやフォルダの設定を変更することができます。

※カード・フォルダ・ファイルの構成図について →P.118

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

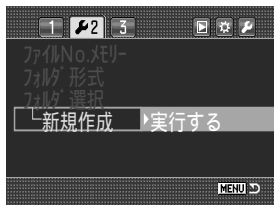
初期設定の標準形式フォルダ（100KM023等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行なうことができます。

P.92〜93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 🔧2 → フォルダ形式 → 右へ → 日付形式 → ●実行 → MENU

フォルダを日付形式にすると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

● 撮影した画像は必ず日付別のフォルダに保存されます。撮影フォルダの選択（P.151）はできません。
● 撮影するとその日の日付のフォルダが作成されるため、再生フォルダを「指定フォルダ」にしている場合は、そのままだと再生もその日に撮影した分しか再生できません。前日までに撮影した画像を見るには、再生フォルダの選択で一時的に見たい日のフォルダを選択するか、再生フォルダを「全フォルダ」に変更してください（P.123）。タブブラウズの使用も便利です（P.126）。
● 初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.152

新規フォルダの作成

ご自分で新規にフォルダを作成することができます。場面別にファイルを管理するときに便利です。

P.92〜93の要領で、フォルダの新規作成を選びます。

MENU → 🔧2 → 新規作成 → 実行する → ●実行 → MENU

新規作成したフォルダの名称は、以下の通りになります。

例：カード内にすでにフォルダ番号102のフォルダが存在している場合
103 KM023（標準形式の場合）
104 41130（日付形式の場合）
すでに存在している番号の次の番号が割り当てられます。

撮影フォルダの選択

標準形式フォルダを選択中でフォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。
● 日付形式フォルダ設定中は、撮影フォルダの選択はできません。

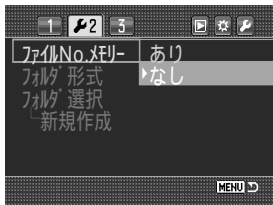
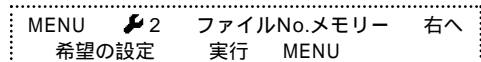
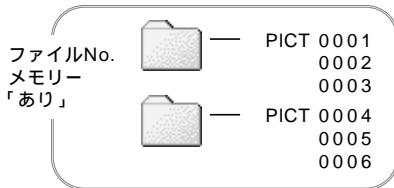
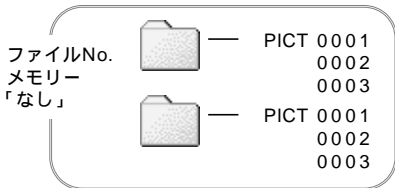
P.92〜93の要領で、希望のフォルダを選びます。

MENU → 🔧2 → フォルダ選択 → 右へ → 希望のフォルダ → ●実行 → MENU

ファイルNo.メモリー

フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び "PICT0001" から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし： ファイルNo.メモリーは機能しません。撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり： ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 2 → ファイルNo.メモリー → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

イメージ図

撮影情報画面の点灯時間

撮影時には、液晶モニターには撮影情報画面が現れます。その表示時間を変更することができます。

P.92～93の要領で、希望の時間を選びます。

MENU → 🔧3 → 撮影情報表示 → 右へ
→ 希望の時間 → ●実行 → MENU

● 消灯後は、シャッターボタン半押しなど何かカメラを操作すれば、再度点灯します。

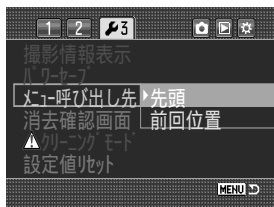
パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、ほぼ電源OFFに近い状態になります（パワーセーブ →P.22）。このパワーセーブまでの時間を変更することができます。

P.92～93の要領で、希望の時間を選びます。

MENU → 🔧3 → パワーセーブ → 右へ
→ 希望の時間 → ●実行 → MENU

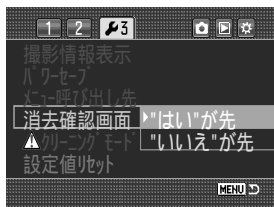
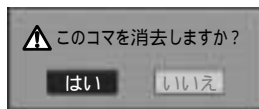
● シャッターボタン半押しなど何かカメラを操作すれば、撮影が再開できます。

メニュー呼び出し先の設定

メニューボタンを押すと、初期設定では常に📷1または▶1のメニュー画面が現れます。これを、メニューボタンを押せば前回選択したメニュー項目が最初に来るようにすることができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

MENU → 🔧3 → メニュー呼び出し先 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

● ある特定のメニュー項目を頻繁に使用する場合は、その項目を登録設定ボタンに割り当てることもできます。→メニューのショートカット、P.144

消去確認画面

画像消去の際に、「このコマを消去しますか？」等の確認画面が現れます。通常はあらかじめ "いいえ" が選択された状態になっていますが、これを "はい" を先に選択した状態にすることができます。

P.92～93の要領で、希望の設定を選びます。

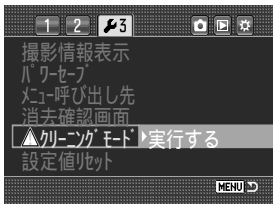
MENU → 🔧3 → 消去確認画面 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

CCDのクリーニング

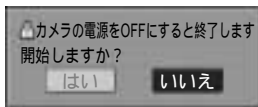
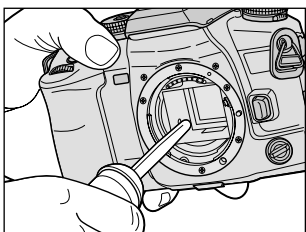
カメラ内にゴミやホコリが入ってCCD（フィルムに該当する部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやホコリが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、ブロアーを使用して、以下の要領でCCDの清掃を行なってください。

1. 電池容量が十分にあるのを確認します。

● 別売りのACアダプターの使用をおすすめします。
● が点灯しているときは、クリーニングを行なうことができません。

クリーニングの途中で電池がなくなると、シャッター幕破損の原因となります。清掃は電池容量を確認してから、すみやかに行なってください。

2. P.92〜93の要領で、CCDのクリーニングを選びます。

MENU → 3 → クリーニングモード → 実行する → ●実行

3. 十字キーでミラーを上げてクリーニングモードを実行します。

4. レンズを外します。

● ミラーが上がって、奥のCCDが見えた状態になっています。

5. ブロアーでCCD表面とその周辺のホコリを吹き飛ばします。

● ブロアーの先端をCCDに当てないように、手早く行なってください。
● ホコリが下に落ちやすいよう、カメラをやや下向きにしてください。
● スプレー式のブロアーは、水蒸気がカメラ内部に飛び散るので使用しないでください。

清掃の際に、CCD表面に触れたり、ブロアーの先端が当たったりしないようにしてください。

6. レンズを取り付け、カメラのメインスイッチをOFFにします。

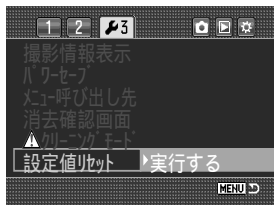
次ページへ続く

- クリーニング中に電池が消耗しそうな場合は、カメラのブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、メインスイッチをOFFにしてください。
- 前ページの要領でクリーニングを行なっても取れない場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口に清掃をご依頼ください。

カメラ内部にホコリが入りにくくするには

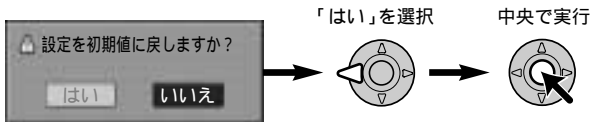
カメラ内部へのホコリの侵入を100%防ぐことはできませんが、以下の点を注意すればかなり減らすことが可能です。

・レンズ交換は素早く、ホコリの少ない場所で行なう。
・レンズやボディキャップを外したままカメラを放置しない。
・ボディキャップを取り付ける場合、先にボディキャップのホコリを落としてから取り付ける。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

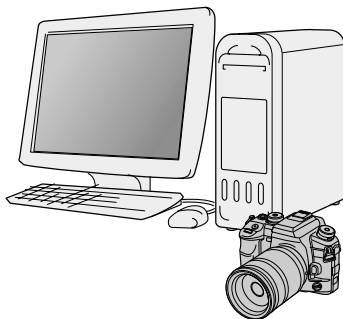
1. P.92～93の要領で、リセットを実行します。

MENU → 3 → 設定値リセット → 実行する → ●実行

2. 十字キーでリセットを行ないます。

※リセットされる内容については、P.186をご覧ください。

パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

- セットアップモードメニュー 🔧 1のUSB接続が、初期設定の「マスストレージ」になっていることが前提です。→P.147

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。接続には付属のUSBケーブル USB-2をお使いください。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home／Professional）、 Windows Me、 Windows 2000 Professional、 Windows 98／98 Second Edition （すべてプリインストールされていること）	Mac OS 9.0～9.2.2、 Mac OS X v10.1.3～10.1.5、 v10.2.1～10.2.8、v10.3～10.3.5 （すべてプリインストールされていること）
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から「互換性情報」をご覧いただくか、弊社αデジタルホットラインにお問い合わせください。

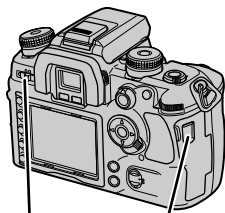
お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

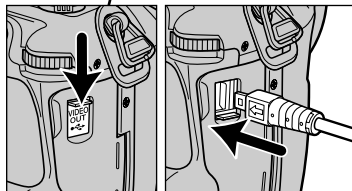
USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.159～

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.169
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.159～

パソコンへ接続する（USB接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

3. USBケーブルの小さい方のコネクタを、カメラのUSB端子に差し込みます。

● カメラのUSB端子のカバーを開け、コネクタの矢印をカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。
● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.166の指示にしたがってください。
● USB接続中は、液晶モニターは消灯します。

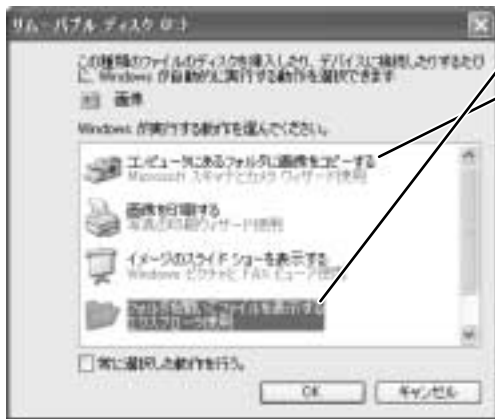
4. カメラのメインスイッチをONにします。

● USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると、自動的にカメラがパワーセーブの状態になります（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は、自動的に電源が切れることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→P.166
● Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.169へ、すでにしている場合はP.170へ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイルをパソコンにコピーして保存します。

● カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプターAC-11の使用をおすすめします。
● カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
● カードのフォーマットは、カメラ側で行なってください。→P.122
● パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

WindowsXPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

● [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
● パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［リムーバブルディスク] を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。また、USB接続が「マスストレージ」になっているかどうかも確認してください。→P.147

※それでもこの画面や「リムーバブルディスク」が現れない場合は→P.172

2. [DCIM]フォルダをダブルクリックして開きます。

● リムーバブルディスクのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
● [DCIM] 以外のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

3. [100KM023] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

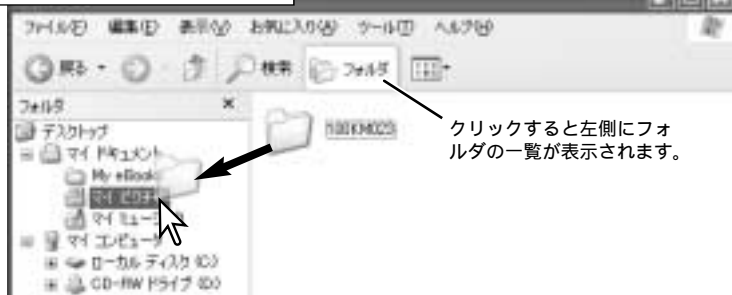
● フォルダ名の初期設定は [100KM023] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.118

フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

● お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

次ページへ続く

4. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

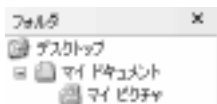
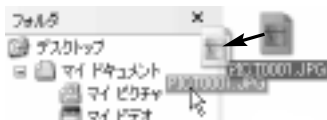
- フォルダごとコピーする場合は、[100KM023] 等のフォルダごと、[マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

[100KM023] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

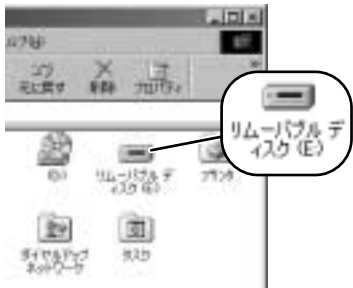
パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）

パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。

2. 押したままマウスを移動させます（ドラッグ）。

3. コピー先を反転させ、左ボタンを離します（ドロップ）。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1. デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

● カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。また、USB接続が「マスストレージ」になっているかどうかも確認してください。→P.147
※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は →P.172

2. 「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

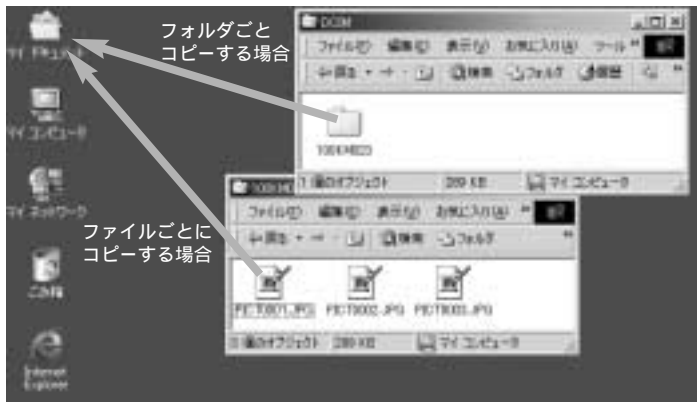
3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

● その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

4. [100KM023] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は [100KM023] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.118
● フォルダを開けると、[PICT0001] [PICT0001.JPG] 等の画像ファイルが表示されます。

5. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

［100KM023］［PICT0001.JPG］を［マイ ドキュメント］にコピーする例

● 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
● ［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

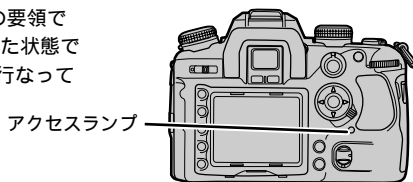
● 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

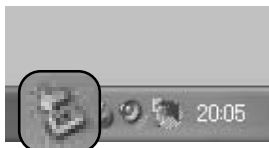
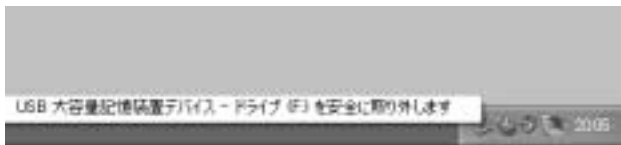
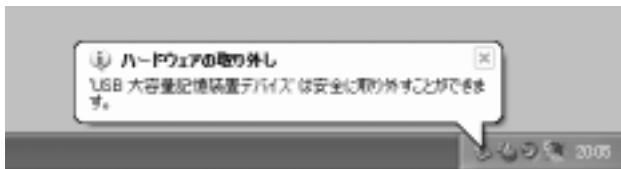
1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 前ページの3〜5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

● ［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します)］または［USBディスクの停止］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

5. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。
1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。

3. USBケーブルを取り外します。カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ピクチャなど）をダブルクリックして開けます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

スタンダード・ファイン・エクストラファインで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

RAWファイル

RAWで撮影された画像で、最後に「.MRW」が付きます。一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

JPEファイル

Adobe RGB（ICC）でICCプロファイルを埋め込んだJPEG画像で、最後に「.JPE」が付きます。DiMAGE Viewerなどカラーマネジメントに対応したソフトを使う必要があります。→P.101

THMファイル

RAWやJPEファイルのサムネール画像で、最後に「.THM」が付きます。DiMAGE Viewerのサムネール表示用に使われます。このファイルを開く必要はありません。

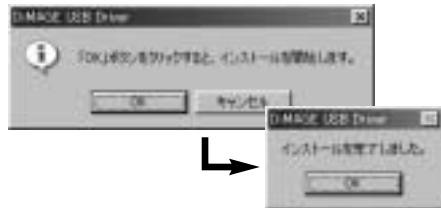
ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

4. パソコンを再起動します。

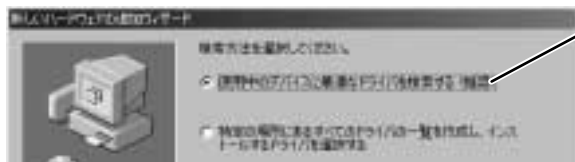
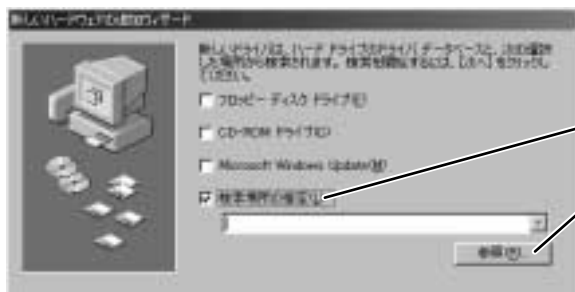
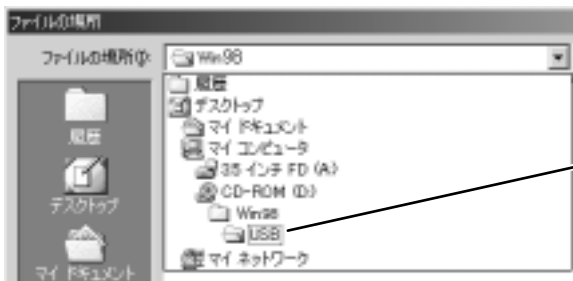
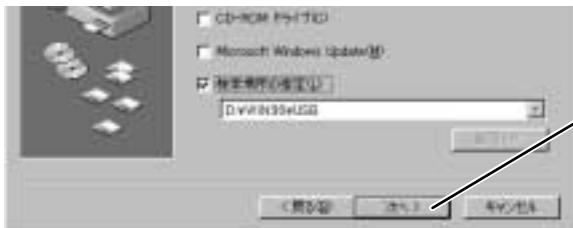
● このカメラ（α-7 DIGITAL）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、α-7 DIGITALのUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、α-7 DIGITALのドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.159〜

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. ［次へ>］をクリックします。
2. ［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］を選択し、［次へ>］をクリックします。
3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. ［検索場所の指定］を選択し、［参照］をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] ー [Win98] ー [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

9. パソコンを再起動します。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ＵＳＢ接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れない場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
以下の弊社ホームページも合わせてご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.159

● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

● Windows XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
● Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

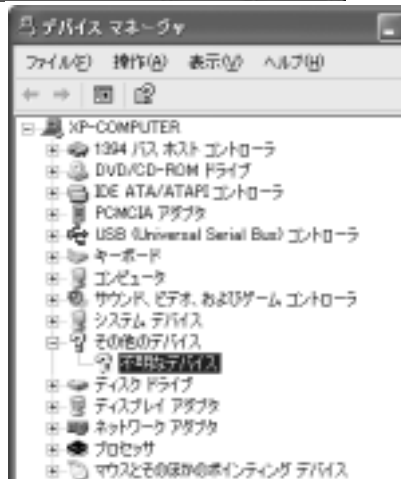
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

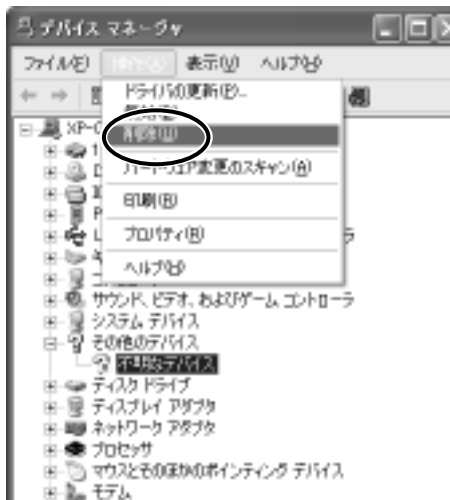
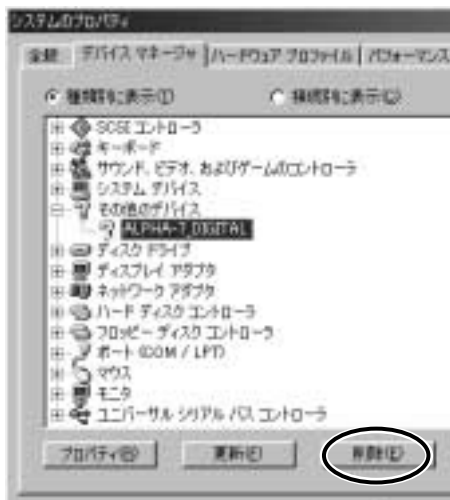
4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかに、以下のどれかが表示されるので、それを選びます。

- **「USB大容量記憶装置デバイス」**
- **弊社名（KONICA_MINOLTA）を含む項目**
- **カメラ名（ALPHA-7_DIGITAL）を含む項目**
- **「？」または「！」で表示される項目**

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.159の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

次ページへ続く

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.159の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（P.169）、その後再度USB接続を行ないます（P.159）。

付属のその他のソフトウェア

Adobe Photoshop Album Mini 2.0

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini（アドビ フォトショップ アルバム ミニ）をインストールすることができます。［Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

- このソフトはWindowsパソコンでのみご利用いただけます。Windows 98、98SEには対応しておりません。

Adobe Photoshop Album Miniを使うと、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、写真の整理、アルバムの作成、簡単な補正などができます。またインターネットで弊社のオンラインラボサービスに接続して、撮影した画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムへ画像を保管したりすることもできます。

弊社オンラインラボ（http://onlinelab.jp/）では、上記の他にも様々なサービスが楽しめます。Windows でもMacintoshでもご利用になれます。

DiMAGE PCカメラ

ディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、［DiMAGE PC cameraドライバインストーラの起動］が選択できますが、これは他のディマージュカメラの機能であり、このカメラでお使いになることはできません。

QuickTime

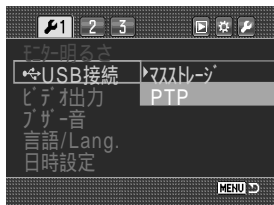
ディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、QuickTime（クイックタイム）がインストールできます。QuickTimeは動画を見るためのソフトウェアですが、このカメラでは動画の撮影はできません。お持ちのWindowsパソコンにインストールして一般の動画をご覧になることはできます。

PictBridge対応プリンタでの印刷

PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタをUSBケーブルで直接接続して、そのままプリントすることができます。パソコンを使わずに、手軽にプリントが楽しめます。

*PictBridge ＝ デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

- RAWおよびAdobe RGBで撮影した画像は、PictBridge対応プリンタではプリントできません（プリンタと接続しても表示されません）。
- プリントの途中で電池がなくなると、印刷は中断されます。フル充電した電池か、別売りのACアダプターAC-11の使用をおすすめします。

USB接続の変更

P.92〜93の要領で、USB接続の種類をPTPに設定します。

MENU → 1 → USB接続 → 右へ → PTP → ●実行 → MENU

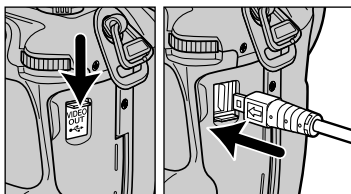
カメラとプリンタの接続

1. プリンタの電源を入れます。

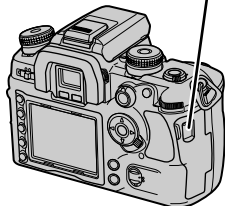
2. プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

- 用紙サイズやレイアウト等は、後でカメラ側でも設定できます。
- プリンタ側で日付写し込みを行う場合、DPOF指定での日付写し込み（P.130）とは重ならないようにしてください。

3. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

4. USBケーブルの小さい方のコネクタを、カメラのUSB端子に差し込みます。

● カメラのUSB端子のカバーを開け、コネクタの矢印をカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。

5. カメラのメインスイッチをONにします。

右の画面が現れます。

プリント方法

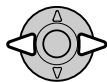
以下の3通りのプリント設定方法が可能です。

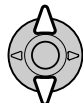
[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう →P.178
画像を確認しながら枚数を決める場合に便利です。

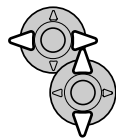
[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう →P.180
すべての画像を同一枚数プリントする場合に便利です。インデックスプリントも指定できます。
また用紙設定など各種プリント設定も、このメニュー画面で行ないます。

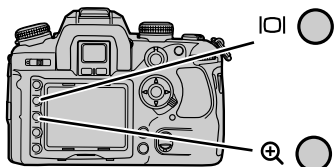
[3] DPOF（プリント）指定を使用する →P.184
あらかじめカメラでプリントする画像を指定しておく場合に便利です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう

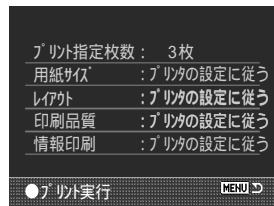
カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定やプリントを行なうことができます。画像を確認しながら、それぞれの枚数を決める場合に便利です。

1. 十字キーの左右でプリントする画像を選びます。

- その画像を1枚だけプリントする場合は、2、3を飛ばして、直接4の実行ボタンを押してください。

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選びます。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. 必要なだけ1、2の操作を繰り返します。

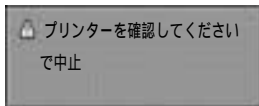
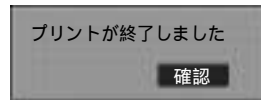
- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal欄に表示されます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。

- 表示切り替えボタンを押すと、1コマ表示とインデックス表示を切り替えることができます。
- 拡大ボタンを押すと、画像の拡大再生ができます。→P.88

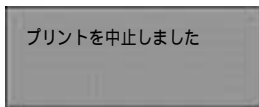
4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 右のプリント設定確認画面が表示されます。※用紙サイズ等変更する場合は →P.180

5. 確認後、再度十字キー中央の実行ボタンを押します。

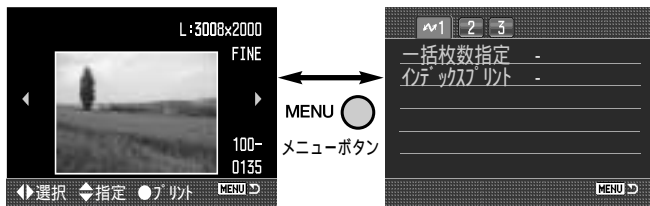
● プリントが始まります。

6. 右の画面が現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

プリンターを確認してください
●で中止

● 左のメッセージが現れた場合は、プリンタの問題（用紙切れなど）によりプリントできません。十字キー中央の実行ボタンを押して、いったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

● プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、設定を確認後、前ページの手順に従ってプリントしてください。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう

カメラとプリンタを接続後メニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。P.92～93のメニュー設定と同じ要領で、メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1	
一括枚数指定（P.181, 182）	全コマ 全コマ取り消し
インデックスプリント（P.182）	実行する

2	
用紙サイズ（P.183）	○プリンタの設定に従う L はがき 2L A4 Card size 100mm×150mm 4"×6" 8"×10" Letter
レイアウト（P.183）	○プリンタの設定に従う フチ無し1コマ／1枚 1コマ／1枚 2コマ／1枚 4コマ／1枚
印刷品質（P.183）	○プリンタの設定に従う FINE
情報印刷（P.183）	○プリンタの設定に従う なし 日付 ファイル名 日付＋ファイル名

3	
DPOFプリント（P.184）	実行する

○印は初期設定値です。

- 2はカメラ側・プリンタ側のどちらでも設定することができます。カメラ側にない項目については、プリンタ側で設定してください。
- プリンタによっては選択できない項目もあります。

一括枚数指定・全コマプリント

カード内のすべての画像を同一枚数プリントします。

- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。カード内にプリント可能な画像が51コマ以上ある場合は、50コマ以内になるよう、画像を見ながら直接プリントしてください。→P.178

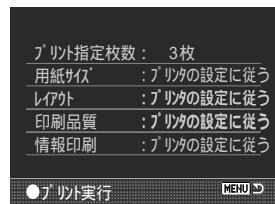
1. P.92～93の要領で、一括枚数指定・全コマを選びます。

MENU → 🖨1 → 一括枚数指定 → 右へ → 全コマ → ●実行

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選び、実行ボタンを押します。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. メニューボタンを押して、元の画面に戻ります。

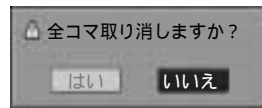
4. P.179の4～6の要領で、実行ボタンを押してプリントします。

- 1～2ですべての画像に一括枚数指定した後、P.178の1～3の要領で、一部の画像のプリント枚数を変更することができます。ほとんどすべての画像を1枚ずつプリントするが一部は印刷しない、などの場合に便利です。

一括枚数指定・全コマ取り消し

設定したプリント指定をすべて解除します。

1. P.92～93の要領で、一括枚数指定・全コマ取り消しを選びます。

MENU → 1 → 一括枚数指定 → 右へ
→ 全コマ取り消し → ●実行

2. 十字キーの左で「はい」を選び、実行ボタンを押します。

インデックスプリント

カード内のすべての画像をまとめてプリントします。

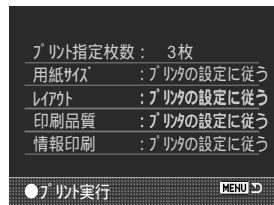
● 1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンタによって異なります。

1. P.92～93の要領で、インデックスプリントを実行します。

MENU → 1 → インデックスプリント → 実行する → ●実行

2. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

● プリントが始まります。

3.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

用紙サイズ

用紙サイズを設定します。

1. P.92～93の要領で、用紙サイズ選択画面を表示させます。

MENU → 2 → 用紙サイズ → 現在の設定 → ●実行

2. 十字キーで希望のサイズを選び、中央の実行ボタンで決定します。

- それぞれの用紙サイズは以下の通りです。プリンタ側で対応していないサイズは選択できません。

L：	89×127mm
はがき：	100×148mm
2L：	127×178mm
A4：	210×297mm
Card size：	54×85.6mm
100mm×150mm：	100×150mm
4"×6"：	101.6×152.4mm
8"×10"	203.2×254mm
Letter	216×279.4mm

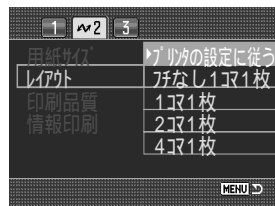
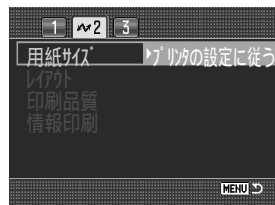
レイアウト・印刷品質・情報印刷

上記の項目をそれぞれ設定することができます。

P.92～93の要領で、希望の項目と設定を選びます。

MENU → 2 → レイアウト → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

MENU → 2 → 印刷品質 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

MENU → 2 → 情報印刷 → 右へ → 希望の設定 → ●実行 → MENU

[3] DPOF（プリント）指定を使用する

P.128のDPOF指定で設定した枚数をプリントします。カメラをプリンタに接続する前に、あらかじめ枚数を決めてカメラ側で設定しておく場合に便利です。

● DPOFに対応していないプリンタでは、この機能は使えません。

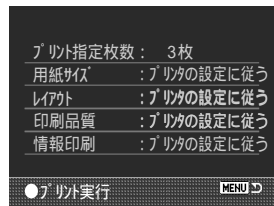
1. あらかじめカメラでDPOF指定（P.128）を行い、その後カメラとプリンタを接続します（P.176〜177）。

2. P.92〜93の要領で、DPOFプリントを実行します。

MENU → 3 → DPOFプリント → 実行する → ●実行

3. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

● プリントが始まります。

4. 「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

リセット・登録一覧表

○ リセットされるもの／登録できるもの
× リセットされないもの／登録できないもの
— 該当なし

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.29)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット (P.103)	ｶｽﾀﾑ設定リセット (P.145)	設定値リセット (P.156)	登録 (P.76)	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影情報画面	詳細画面	×	×	×	○	×	38
露出補正	±0	○	×	×	×	○	40
調光補正	±0	○	×	×	×	○	41
フォーカスフレーム	ワイド	○	×	×	×	○	44
ローカルフォーカスフレーム位置	中央	—	○	×	○	○	45
フォーカスモード	AF-A	○	×	×	×	○	47
露出モード	Pモード	—	×	×	×	○	52
測光モード	14分割ﾊﾆｶﾑﾊﾟﾀｰﾝ測光	○	×	×	×	○	60
ドライブモード	1コマ撮影	○	×	×	×	○	62
ホワイトバランス	オート（自動設定）	○	×	×	×	○	66
プリセットホワイトバランス	昼光 ±0	—	○	×	○	○	66
カスタムホワイトバランス番号	No.1	—	○	×	○	○	68
カスタムホワイトバランス値	昼光	—	×	×	○	×	68
色温度設定	5500K	—	○	×	○	○	69
撮像感度	ISO 100	○*	×	×	○	○	72
手ぶれ補正	—	×	×	×	×	×	74
登録	未登録状態（ﾌﾙｵｰﾄ）	×	×	×	○	—	76
視度調整	—	×	×	×	×	×	79
再生画面	1コマ再生（ﾃﾞｰﾀあり）	×	×	×	○	×	84

* AUTO撮影時は、ISO 100でなくISO AUTOになります。

撮影メニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.29)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット (P.103)	ｶｽﾀﾑ設定リセット (P.145)	設定値リセット (P.156)	登録 (P.76)	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	L: 3008×2000	○	×	×	○	○	97
画質	ファイン	○	×	×	○	○	98

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.29)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット (P.103)	ｶｽﾀﾑ設定リセット (P.145)	設定値リセット (P.156)	登録 (P.76)	ﾍﾟｰｼﾞ
カラーモード	ナチュラル（sRGB）	○	×	×	○	○	100
画像パラメーター	±0（全項目とも）	○	○	×	○	○	102
フラッシュモード	通常発光	○**	○**	×	○	○	104
調光モード	ADI調光	○	○	×	○	○	110
内蔵マニュアル発光	1/1	—	○	×	○	○	111
定常光ブラケット設定	0.3段／3枚	○	○	×	○	○	112
フラッシュブラケット設定	0.3段／3枚	○	○	×	○	○	112
ブラケット順序	0 → − → ＋	×	×	×	○	×	112
アフタービュー	2秒、画像＋情報	×	×	×	○	×	113
ノイズリダクション	あり	○	×	×	○	×	115
インターバル設定	1分、2枚、今から	×	×	×	○	×	116

** 通常発光または赤目軽減発光になります。後幕シンクロとワイヤレスは解除されます。

再生メニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影	撮影ﾓｰﾄﾞリセット	ｶｽﾀﾑ設定リセット	設定値リセット	登録	ﾍﾟｰｼﾞ
再生フォルダ	全フォルダ	×	×	×	○	×	123
インデックス画面	9コマ	×	×	×	○	×	126
DPOF指定	—	×	×	×	×	—	128
日付プリント	なし	×	×	×	○	—	130
インデックスプリント	—	—	—	—	—	—	130

カスタムメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影	撮影ﾓｰﾄﾞリセット	ｶｽﾀﾑ設定リセット	設定値リセット	登録	ﾍﾟｰｼﾞ
フォーカス／レリーズ優先	フォーカス優先	×	×	○	○	○	132
ﾌｫｰｶｽﾎｰﾙﾄﾞﾎﾞﾀﾝの機能	フォーカスホールド	×	×	○	○	×	132
AF/MFコントロールボタン	押す間	×	×	○	○	×	133
AELボタン	押す間AEL	×	×	○	○	×	134
シャッターボタンのAF	あり	×	×	○	○	×	135
AF-Aの機能	AF-A	×	×	○	○	○	136
前後ダイヤルの設定	前: シャッター　後: 絞り	×	×	○	○	×	137
前後ダイヤル露出補正	なし	×	×	○	○	×	137
ダイヤルによる露出補正値	±0	○	○	○	○	○	137

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.29)	撮影ﾓｰﾄﾞ リセット (P.103)	ｶｽﾀﾑ設定 リセット (P.145)	設定値 リセット (P.156)	登録 (P.76)	ﾍﾟｰｼﾞ
前後ダイヤルロック	なし	×	×	○	○	×	138
露出補正の効果	定常光＋フラッシュ	×	×	○	○	×	139
AF補助光	あり	×	×	○	○	×	140
レンズなしレリーズロック	あり	×	×	○	○	×	140
AFフレーム投光時間	0.3秒	×	×	○	○	×	141
モニター自動消灯	あり	×	×	○	○	×	141
撮影情報画面	縦横自動切り替え	×	×	○	○	×	142
手ぶれインジケーター	あり	×	×	○	○	×	142
ISOボタンの機能	ISO設定	×	×	○	○	○	143
ISO設定範囲	100～1600	×	×	○	○	○	144
登録ボタンの機能	撮影設定の登録	×	×	○	○	×	144

セットアップモードメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.29)	撮影ﾓｰﾄﾞ リセット (P.103)	ｶｽﾀﾑ設定 リセット (P.145)	設定値 リセット (P.156)	登録 (P.76)	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	×	×	×	○	×	146
USB接続	マスストレージ	×	×	×	○	×	147
ビデオ出力形式	—	×	×	×	×	×	147
ブザー音	あり	×	×	×	○	×	148
言語設定	—	×	×	×	×	×	148
日時設定	—	×	×	×	×	—	149
ファイルNo.メモリー	なし	×	×	×	○	×	152
フォルダ形式	標準形式	×	×	×	○	×	150
フォルダ選択	—	×	×	×	×	×	151
撮影情報表示	5秒	×	×	×	○	×	153
パワーセーブ	3分	×	×	×	○	×	153
メニュー呼び出し先	先頭	×	×	×	○	×	154
消去確認画面	"いいえ"が先	×	×	×	○	×	154

別売りアクセサリー

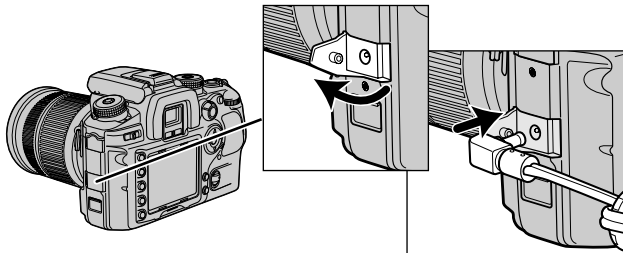
ここでは代表的なアクセサリーについて紹介しています。本使用説明書の作成後に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、裏表紙に記載の弊社αデジタルホットラインにお問い合わせください。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。

● 上記以外のレンズ（Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど）はご使用になれません。

ACアダプターAC-11

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。

接続するときは、メインスイッチをOFFにしてから、カバーを開け、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

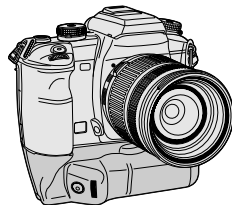
● 外すときも、電源を切ってから外してください。

● 海外では、充電器のコードが共通でお使いになれます。→P.190

● 外部電源パックキットEBP-100はご使用になれません。

縦位置コントロールグリップVC-7D

縦位置用シャッターボタンやON/OFFスイッチのほか、前後ダイヤル、AEロックボタンなど、横位置と同じ感覚で操作できます。カメラ本体と同じ充電式リチウムイオン電池NP-400を1本または2本、または単3形充電式ニッケル水素電池6本を使用します。

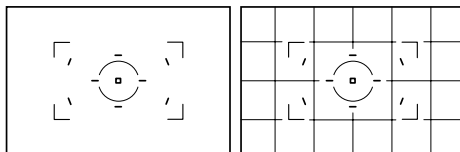
● 単3形アルカリ乾電池は使用できません。

充電式リチウムイオン電池充電器BC-400用 ACコード

付属の充電器BC-400の本体は全世界でご使用になれますが、充電器に付属のACコードはAC100V～120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ等のみで使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは弊社コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト（http://ca.konicaminolta.jp/）の「よくあるご質問」でもご覧いただけます。

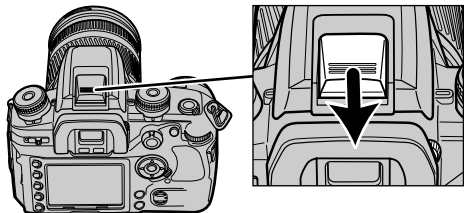
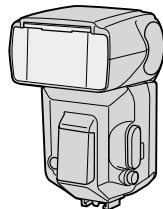
地域	ACコード
日本向け（100～120V仕様） ※アメリカ、カナダ、台湾などではそのままお使いいただけます。	ACコードAPC-170（付属品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-150（別売り）
中国向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-151（別売り）
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-160（別売り）
オーストラリア向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-230（別売り）

フォーカシングスクリーン

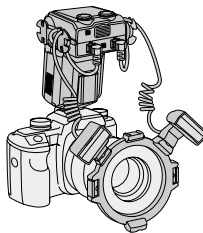
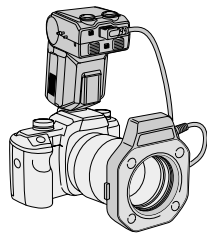
標準装備のマット（G型）のほかに、方眼マット式スクリーン（L型）、スーパースフェリカルアキュートマット採用の全面マット（M型）、L型とM型を併用したML型の3種類を用意しています。M型・ML型はピントの山やぼけ具合がつかみやすく、開放絞り値がF1.4～2.8クラスの明るいレンズをマニュアルフォーカスで使用される方におすすめです。弊社にて交換いたしますので、裏表紙記載のαデジタルホットラインにお問い合わせください。

- G型およびL型で一部の望遠レンズを取り付けた際、ファインダー周辺部が陰ることがあります。これは焦点板の拡散特性によるもので、画質には影響しません。

G型／M型　　L型／ML型

プログラムフラッシュ5600HS（D）／3600HS（D）／2500（D）

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

プログラムフラッシュ
5600HS(D)

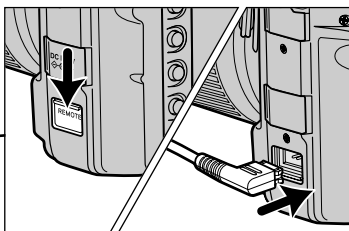
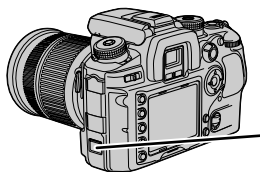
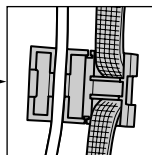
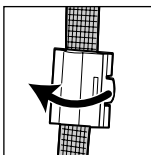
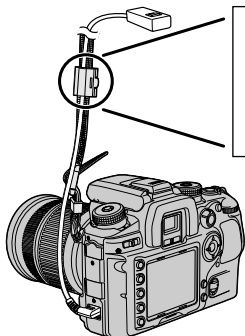
マクロツインフラッシュ2400／マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

マクロツインフラッシュ
2400

マクロリングフラッシュ
1200

その他のフラッシュ

プログラムフラッシュ5400HS、5400Xi、5200i、4000AF（4000AFはフラッシュシューアダプターFS-1100が必要）などについては使用可能ですが、オートで撮影すると調光ができずに常にフル発光となり、適正露出が得られません。マニュアル発光でならお使いになれます。

リモートコードRC-1000S／1000L

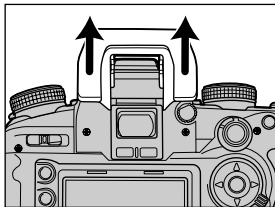
カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（P.58）には、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、リモートレリーズターミナルのカバーを開け、ターミナルにコードを接続します。

ストラップに付いているリモートコードクリップで、コードをはさんで止めることができます。

DiMAGE Master（ディマージュ マスター）

付属のCD-ROMに入っている画像表示ソフト DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューアー）の機能をさらに充実させたソフトウェアです。高度なRAWデータ処理に加えて分類機能も充実。大量の画像をより簡単に扱うことができます。

その他

下記のケースやストラップ、予備のリチウムイオン電池もご用意しております。詳しい情報については、裏表紙記載の弊社ホームページをご覧ください。

- 充電式リチウムイオン電池 NP-400
- カメラケース CS-7D
- 各種フラッシュアクセサリー（オフカメラシュー、オフカメラケーブル他）
- 各種接眼アクセサリー（アングルファインダー、マグニファイヤー、視度調整アタッチメント）
- ホールディングストラップ HS-1
- SD-CFアダプター SD-CF1

アングルファインダー等接眼アクセサリーを取り付ける場合は、アイピースカップを押し上げて外してください。

不具合が生じたときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社αデジタルホットラインにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニターが真っ暗になる	パワーセーブが作動した	液晶モニターは、初期設定では5秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。この時間を変更することもできます。	22 153
	液晶モニターをOFFにしている	表示切り替えボタン|□|を押して、液晶モニターを点灯させてください。	38
	アイセンサーの近くに手などをかざしたため、アイセンサーが作動した	ファインダー下部のアイセンサーが作動すると、撮影者がファインダーを覗いたと判断され、液晶モニターが消灯します。この機能を解除することもできます。	141
	バルブ撮影など、1秒以上の撮影をした	ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われるためです。この機能を解除することもできます。	115
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.33）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行なってください。	43 48
	被写体に近づき過ぎている	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。	―
シャッターが切れない	ピントが合っていない	ピントが合わないとシャッターは切れません。（ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。）	132 135
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けている	カメラを天体望遠鏡などに取り付けた場合は、シャッターが切れません。（この状態でもシャッターが切れるようにすることもできます。）	140

<table>
<tr><th>症状</th><th>原因</th><th>対策</th><th>ﾍﾟｰｼﾞ</th></tr>
<tr><td>液晶モニターに - - - -、ファインダー内に "E" が点滅する</td><td>CFカードが入ってない</td><td>撮影するにはカードを入れてください。</td><td>25</td></tr>
<tr><td>0000が赤く点滅してシャッターが切れない</td><td>CFカードがいっぱいである</td><td>画像を消去するか、カードを交換してください。
画像サイズや画質を変えると撮影できることもあります。</td><td>97
98
120</td></tr>
<tr><td>前後ダイヤルを回しても反応しない</td><td>ダイヤルロック機能がかかっている</td><td>ダイヤルロック中は、シャッターボタン半押し等でファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されているとき（測光時）以外は、ダイヤル操作ができません。</td><td>138</td></tr>
<tr><td>ファインダー内の測光インジケーター ◁▷ が点滅する</td><td>被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えている</td><td rowspan="2">明る過ぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>Pモードでシャッター速度と絞り値が点滅する</td><td>被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、シャッター速度や絞り値の範囲を超えている</td></tr>
<tr><td>Aモードでシャッター速度が点滅する</td><td>被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている</td><td>シャッター速度が点滅しない範囲で絞り値を設定してください。</td><td>54</td></tr>
<tr><td>Sモードで絞り値が点滅する</td><td>被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている</td><td>絞り値が点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。</td><td>55</td></tr>
<tr><td>Mモードで測光インジケーターの ◁▷ が点灯または点滅する</td><td>設定したシャッター速度と絞り値では、写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる</td><td>シャッター速度か絞り値、または撮像感度を変更してください。</td><td>56</td></tr>
<tr><td>撮影残り画像数が減らなかったり、一気に2コマ減ったりする</td><td colspan="2">JPEG画像が圧縮される場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変動するためです。</td><td>28</td></tr>
</table>

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カスタムホワイトバランスの設定時にエラーが表示される	フラッシュを発光させて近距離でカスタムホワイトバランス設定を行なった、または鮮やかな色の被写体で設定しようとした	フラッシュを発光させる場合は、少し距離を開けてください。また、設定は白い被写体に向けて行なってください。	68
ファインダー右側の手ぶれインジケーターが、5つとも点滅する	手ぶれ補正機能が作動していない	そのまま撮影できますが、手ぶれ補正は機能しません。メインスイッチをいったんOFFにして、再度ONにしてください。それでも戻らない場合は、お買い求めの販売店または弊社αデジタルホットラインにご相談ください。	–
画像が記録されていない	異なるフォルダを再生している	再生フォルダを指定フォルダにしている場合は、そのフォルダの画像しか再生されません。画像が記録されたフォルダを選ぶか、全フォルダに設定してください。	123
	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	–
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、撮像感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。	35 72
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	内蔵フラッシュで撮影する時は、レンズフードを外してください。なおレンズによっては、フードを外しても下部が暗くなるものもあります。	35
フラッシュの充電時間が長い	短時間に連続してフラッシュを発光させた	連続してフラッシュ発光すると、カメラが熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。	–

症状	原因	対策	ページ
写真がぶれている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした	シャッター速度が遅くなるので、手ぶれ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります。	74
手ぶれ補正機能を使ったのに写真がぶれている	マクロ撮影など、近距離の被写体を撮影した	近距離の被写体に対しては、補正されにくいぶれがあります。手ぶれ補正をOFFにして、三脚を使用をおすすめします。	75
画像に余分な光が入っている	逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入った	レンズフードを取り付けてください。	—
画面の隅が暗くなる	フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取り外してお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画面にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画面周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。		—
撮影した画像の色がおかしい（パソコンでの再生時）	**モニターの設定が最適でない。** このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています（Adobe RGBを除く）。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ値は2.2です。	**色温度の設定** 6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。 **ガンマ値の設定** Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OSの使用説明書をご覧ください。Windowsでは標準が2.2なので、変更の必要はありません。	—
いつも同じ箇所に明るい点が写る（パソコンで確認）	CCDノイズの大きな箇所があるように思われます。一度カメラをお預かりし、確認および調整をさせていただきます。		—
日付形式フォルダ、ファイルNo.メモリー、メニュー呼び出し先、消去確認画面の内容がリセットされる	メインスイッチがONのまま電池を抜いた	電池を抜くときは、カメラのメインスイッチをOFFにしてから抜いてください。	22

<table>
<tr><th>症状</th><th>原因</th><th>対策</th><th>ﾍﾟｰｼﾞ</th></tr>
<tr><td>特定のコマだけ再生できない</td><td colspan="2" rowspan="2">何らかの要因で、画像ファイルが損傷を受けているものと思われます。画像ファイルの読み出し／書き込み中などにカードを抜く、ケーブル接続解除、電源を切るなどの操作により、損傷を受ける場合がありますのでご注意ください。
*損傷を受けたデータにつきましては、弊社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。</td><td rowspan="2">–</td></tr>
<tr><td>パソコン上で画像ファイルを開こうとするとファイルを開けないというメッセージが表示される</td></tr>
<tr><td>Adobe RGB設定で撮影した画像がアプリケーションソフトで認識されない</td><td colspan="2">プロファイルを埋め込んだ画像ファイルの拡張子は「.JPE」となります。このファイル形式にアプリケーションが対応していないものと思われます。付属のDiMAGE Viewer、または別売りのDiMAGE Masterのご使用をおすすめします。</td><td>101</td></tr>
<tr><td>Adobe RGB設定で撮影した画像がプリントされない</td><td colspan="2">プロファイル埋め込み画像（拡張子.JPE）をプリンタが認識しないためと思われます。Adobe RGB以外の設定で撮影される事をおすすめします。</td><td>101</td></tr>
<tr><td>日時がリセットされる</td><td>カメラの電池が消耗したまま、またはカメラの電池を抜いたまま放置したため、日時の設定が失われた。</td><td>電池を交換して、日時を再設定してください。電池交換のたびにリセットされる場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にて、バックアップ電池の交換をご依頼ください（有料）。</td><td>149</td></tr>
<tr><td>カードを入れると、「このカードは使えません。フォーマットしますか？」のメッセージがでる</td><td>パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した、または他のCFカード機器でフォーマットを行った</td><td>[はい] を選んでフォーマットを行なってください。このカメラで使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて消去されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。</td><td>122</td></tr>
<tr><td>Errが表示される、またはカメラが正常に作動しない</td><td colspan="2">カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または弊社αデジタルホットラインにご相談ください。</td><td>–</td></tr>
</table>

取り扱い上の注意

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0〜40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
● いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

● 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
 1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
 2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
 3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
 4. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
● メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
● メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
● 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
● 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
● 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
● 端子部に手や金属で触れないでください。
● 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

- マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶画面について

- 液晶モニターは精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される画像には影響はありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- 磁石やモーターなど強力な磁気が発生する装置の近くにカメラを置かないでください。また電波塔など強い電波が発生しているところでの使用や放置は避けてください。電磁波によりカメラが誤作動したり、データが破壊される恐れがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

● カメラやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーおよびその周辺のホコリはオートフォーカスに影響を与える恐れがあるため、ブロアーで吹き飛ばしてください。CCDに付着したホコリは画像に写り込むことがあるので、カメラをクリーニングモードにして（P.155）ブロアーで清掃してください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因となります。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、カメラ内部にホコリが入るのを防ぐため、ボディキャップのホコリを落としてから付けてください。
● 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
● 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
● 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
● 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品および充電器の修理に関しては、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。
- 修理の際に、撮影データやユーザー設定情報（カスタム設定、登録設定など）が消えてしまうことがありますので、ご了承願います。

「αデジタルピックアップサービス」のご案内

製品の品質管理には万全を期しておりますが、万一故障した場合は、「αデジタルピックアップサービス」をご利用ください。この「αデジタルピックアップサービス」は、お客様のご自宅から「修理依頼品のお引き取り」⇒「修理」⇒「修理済み品のお届け」までを、弊社おまかせでご利用いただける修理サービスです。

ご利用方法

1. 本書裏面の「αデジタルホットライン」または弊社ホームページの「αデジタルピックアップサービス係」にお申し込みください。FAXの場合は、別紙「アフターサービスのご案内」裏面の「αデジタルピックアップサービス（修理）申込書」に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

2. お申し込み1～2日後に、弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際、梱包材料を持参いたしますので、その場で修理依頼品を梱包の上宅配業者にお渡しいただくか、もしくはお引き取り日を宅配業者にご指定ください。

- 修理依頼品梱包時にも「αデジタルピックアップサービス（修理）申込書」に必要事項をご記入の上、修理品に添付してください。
- 保証期間内の場合は、必ず保証書も添付してください。

3. 修理済み品のお届けは、お預かり後5日間程度となります（土・日・祝日含まず）。

ご利用料金

■ 修理依頼品の場合に限り、送料無料となっております。修理依頼以外の場合は有料（税込み900円*）となりますので、ご了承願います。

■ 保証期間経過後も送料は無料ですが、別途修理料金が必要です。

* 送料は改訂される場合もありますので、お申し込みの際に今一度ご確認ください。

主な性能

■形式	
カメラタイプ	フラッシュ内蔵レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ	コニカミノルタαレンズ
■撮像部	
有効画素数	約610万画素
撮像素子	APS-Cサイズ（23.5×15.7mm）、総画素 約630万画素、インターライン型、原色フィルター付き、インターレーススキャン方式
A/D変換bit数	12 bit
■記録部	
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ、Ⅱ）　マイクロドライブ、SDメモリーカード／マルチメディアカード（SD-CFアダプターSD-CF1使用時）
記録ファイル形式	JPEG／RAW／RAW＋JPEG DCF（2.0）準拠、DPOF（Ver.1.1）、Exif2.21対応
記録フォルダ形式	標準／日付形式
記録画素数	L：3008×2000、M：2256×1496、S：1504×1000
画質モード	スタンダード、ファイン、エクストラファイン、RAW、RAW＋JPEG（JPEGはFINE固定）
記録画像画面アスペクト比	3：2
消去機能	あり（1コマ／指定コマ／フォルダ内全コマ／カード内全コマ）
誤消去防止機能	あり（指定コマ／フォルダ内全コマ／カード内全コマの指定と、フォルダ内全コマ／カード内全コマの指定解除）
フォーマット機能	あり（FAT12、16、32対応）
■ファインダー	
ファインダー形式	アイレベル固定式（光学ガラスペンタプリズム使用）
ファインダー視野率	約95％
アイポイント	最終光学面から約25mm、接眼枠から約21mm（$-1m^{-1}$時）
ファインダー倍率	0.9倍（50mmレンズ、無限遠、$-1m^{-1}$時）
視度調整	$-3.0〜+1.0m^{-1}$
フォーカシングスクリーン	標準スクリーン：スフェリカルアキュートマット（G型） 交換スクリーン：M型、L型、ML型に交換可能
■表示部	
液晶モニター	2.5型TFT液晶、20.7万画素
表示言語	日本語、英語、ﾄﾞｲﾂ語、ﾌﾗﾝｽ語、ｽﾍﾟｲﾝ語、中国語、ｲﾀﾘｱ語、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ語
その他表示機能	ナビゲーションディスプレイ機能（拡大表示、縦位置自動回転機能あり）

■AF

フォーカス方式	TTL位相差検出方式、CCDラインセンサー使用（中央クロス9エリア8ライン）
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア、ローカルエリア切り替え式
AF検出輝度範囲	EV－1～18（ISO 100相当）
AF補助光	あり（内蔵フラッシュによる補助光、到達距離 1～5m）
フォーカスモード	AF制御自動切り替え（AF-A、メニュー設定によりDMF可能）／ワンショットAF（AF-S）／コンティニュアスAF（AF-C）／マニュアルフォーカス（MF）
フォーカスロック	可能（シャッターボタン半押し／スポットAFボタン操作による）

■AE

露出モード	プログラムAE（P／フルオートPモード、プログラムシフト機能付き）／絞り優先AE（Aモード）／シャッター速度優先AE（Sモード）／マニュアル（Mモード）／登録モード
測光範囲	EV 0～20（スポット測光時はEV3～20） ISO 100相当　F1.4レンズ使用
測光方式	TTL開放測光（14分割ハニカムパターン測光／中央重点的平均測光／スポット測光） 測光素子：14分割ハニカムパターンSPC使用
AEロック	可能（AFロック時自動／AEロックボタン操作による）
露出補正	1/3EVステップ：±2EV、1/2EVステップ：±3EV
撮像感度	AUTO、ISO 100、200、400、800、1600相当（3200に拡張可能）
シャッター形式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	制御範囲：30秒～1/4000秒、バルブ フラッシュ同調速度：1/160秒（手ぶれ補正OFF時）、1/125秒（手ぶれ補正ON時）

■フラッシュ

フラッシュ制御方式	ADI調光／P-TTL調光／マニュアルフラッシュ、手動アップ／ダウン式
フラッシュ照射角	24mmレンズをカバー（レンズ表記の焦点距離）
フラッシュモード	強制発光、赤目軽減プリ発光、ワイヤレス*、ハイスピードシンクロ*、後幕シンクロ *プログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）装着時
ガイドナンバー	12（ISO 100・m）
調光補正	1/2EVステップ、±2EV
充電時間	約3秒
外部フラッシュ	プログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）、2500（D）、マクロツインフラッシュ2400、マクロリングフラッシュ1200、シンクロターミナル付き

■撮影／再生／その他機能

ホワイトバランス	AUTO、プリセット（昼光、日陰、曇天、フラッシュ、白熱灯、蛍光灯）、カスタム、色温度設定
露出ブラケット撮影	単写／連写切り替え可能、ずらし量：0.3/0.5EV、コマ数：3/5コマ
連続撮影	約3コマ／秒、最大9コマまで（RAW、RAW＋JPEG時）
インターバル撮影	可能、開始タイマー設定：0～24h 0.5hステップ、撮影間隔：0.5/1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/15/20/30/45/60分、撮影枚数：2～240コマ
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー／2秒セルフタイマー（簡易ミラーアップ機能付き）、LEDで告知
カラーモード	ナチュラル（sRGB）、ナチュラル＋（sRGB）、AdobeRGB
画質調整	コントラスト／彩度／シャープネス／色合い、それぞれ5段階
ノイズリダクション	あり（シャッター速度1秒以上時、ON/OFF切り替え可能）
手ぶれ補正	CCDシフト方式（シャッター速度約2～3段分の補正効果**）、ファインダー内に手ぶれインジケーター表示あり　**レンズ、撮影状況による
その他撮影機能	アフタービュー機能、カスタマイズ機能、ゾーン切り替え機能、プレビュー機能
再生機能	1コマ再生（画像のみ、画像＋情報、画像＋情報＋ヒストグラム）、インデックス再生（4/9/16コマ）、拡大再生（最大約5倍）、白とび黒つぶれ警告機能、タブブラウズ機能、スライドショー機能、ブラケット撮影一覧表示機能
操作音	ブザー音（AF、セルフタイマー時）
対応プリント機能	Exifプリント、Print Image Matching Ⅲ、PictBridge

■電源

使用電池	リチウムイオン電池NP-400
バッテリーチェック	4段階
外部電源	ACアダプターAC-11、縦位置コントロールグリップ（NP-400 2個または単3形充電式ニッケル水素電池6本装填）
撮影可能コマ数	約400コマ（CIPA準拠） （手ぶれ補正あり、使用記録メディア：512MB CFカード、使用電池：同梱リチウムイオン電池NP-400）

■入出力

PCインターフェース	USB 2.0（High Speed対応）
ビデオ出力	NTSC／PAL切り替え式

■対応OS

対応OS	Windows 98 / Me / 2000 (Professional) / XP (Home/Professional)、Macintosh OS 9.0-9.2.2 / OS X v10.1.3-10.1.5、v10.2.1-10.2.8、v10.3-10.3.5

■サイズ／質量（重さ）

大きさ	150（幅）× 106（高さ）× 77.5（奥行き）mm
質量	約760g（電池／記録メディア別）

■使用環境

使用温度範囲	0〜40℃

充電式リチウムイオン電池 NP-400

電圧	7.4V
容量	1500mAh
大きさ	56 × 39.5 × 21mm
質量（重さ）	約85g

リチウムイオン電池充電器 BC-400

入力電圧	AC100〜240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	10〜20VA
充電出力	DC8.4V 700mA
充電時間	約150分
大きさ	65 × 90 × 30mm
質量（重さ）	約86g（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100V仕様です。※海外で使用する場合は →P.190

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

ら

わ

数字・アルファベット

画像パラメーター

それぞれの内容については、該当ページをご覧ください。

−2　±0　+2

コントラスト

+側だとコントラストが強く、−側だと弱い画像になります。

→ P.102

彩度

+側だと鮮やかな、−側だと落ち着いた色の画像になります。

→ P.103

シャープネス（鮮鋭度）

+側だと鮮明な、−側だとやわらかな感じの画像になります。

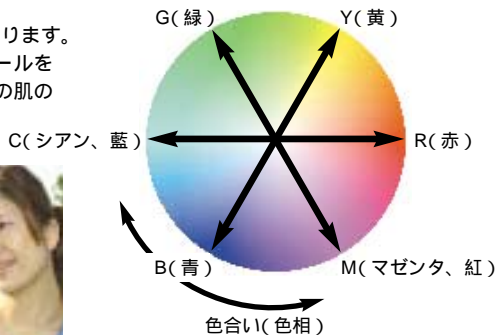
→ P.103

色合い

色を表現する方法の1つに、右図のカラーホイールがあります。色合いを調整すると、ある画像を撮影後、カラーホイールをわずかに回転させて全体の色合いを変更します。人物の肌の色を調整したりするのに便利です。→ P.103

−2

±0

+2

αデジタルホットライン

フリーコール 0120-975-777

携帯・自動車電話、PHSからもご利用になれます。

受付時間：10:00〜18:00（日・祝定休）
ご購入前のお問い合わせ、製品の使い方、技術的質問、修理サービス内容など、α-7デジタルに関するお客様からのお問い合わせについて、α-7デジタル専任のオペレーターがお答えする、専用のホットラインです。携帯電話やPHSからもご利用いただける、通話料無料のフリーコールです。
［ホームページ］http://ca.konicaminolta.jp/

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

9223-2181-61 MY-B501
Printed in Japan